

平城京左京四条二坊九坪（田村第跡）

—平成19年度発掘調査報告書—

2009

財団法人元興寺文化財研究所

平城京左京四条二坊九坪（田村第跡）

—平成19年度発掘調査報告書—

2009

財団法人元興寺文化財研究所

序

財団法人元興寺文化財研究所は、1967年に「元興寺仏教民俗資料研究所」として設立されました。その後、人文・考古・保存科学の3部門を柱としながら調査研究を続けてまいり、2007年には創立40周年を迎えています。

研究所の行う事業の中でも、考古学的発掘調査は実績も高く、重要な調査研究活動と位置づけております。これまでにも西日本を中心として様々な時代に属する多様な性格の遺跡の調査を実施してまいりました。特に平城京に関する調査では、2005年の下三橋遺跡における平城京十条の発見、2007年の外京条坊交差点の発見をはじめとした重要な成果を挙げております。

今回の調査地は、奈良時代の権力者である藤原仲麻呂の邸宅と考えられている「田村第」の推定地であります。調査の結果、田村第に関係すると考えられる大型建物など、重要な遺構が検出されました。

これらの成果をまとめた本書が、多くの方々に活用され、遺跡の意義を高める機縁とならんことを願ってやみません。

最後になりましたが、現地調査から報告書の刊行に至るまで、ご協力を賜りました(㈱)プレサンスコーポレーションをはじめとした多くの方々に、心よりお礼申し上げます。

例　言

1. 本書は、平城京左京四条二坊九坪（田村第跡）における発掘調査の成果をまとめたものである。
2. 調査地は奈良県奈良市四条大路一丁目 725－1 番地ほかに所在し、開発対象面積 4,851.69m²（うち建築面積 2,448.61m²）のうち発掘調査面積は約 2,040m² である。
3. 調査は奈良県教育委員会及び奈良市教育委員会から依頼を受けた（財）元興寺文化財研究所が、平成 19 年 7 月 31 日～10 月 19 日まで現地での作業を実施し、佐藤亜聖・藤井章徳が担当した。整理及び報告書作成作業は、調査後速やかに開始し、平成 20 年度をそれに充てた。
4. 調査地の実測及び写真撮影は佐藤・藤井、福山章博（奈良大学卒業生）が行い、小幡千晶（奈良教育大学）、新田いくみ、盧承南、朴東熙（奈良大学）の協力を得た。出土遺物の実測及び清書は、佐藤、武田浩子、奥田智代、仲井光代（（財）元興寺文化財研究所）が行い、写真撮影は大久保治（（財）元興寺文化財研究所）が担当した（所属は全て当時）。
5. 調査地の基準点測量は世界測地系 2000 を利用し、水準は T.P である。測量及び図化業務は（有）ワークが担当した。
6. 本書の執筆は藤井と佐藤が担当した。
7. 本書の編集は佐藤が行った。

目　次

1. 調査に至る経緯と調査体制	1
(1) 調査の経緯	1
(2) 調査体制	1
2. 周辺における既往の調査と課題	2
3. 調査の成果	4
(1) 基本層序	4
(2) 検出遺構	7
1 期の遺構	7
2 期の遺構	18
帰属時期不明の奈良時代遺構	21
中世以降の遺構	24
(3) 出土遺物	25
1 期の遺構出土遺物	25
2 期の遺構出土遺物	46
帰属時期不明の奈良時代遺構出土遺物	49
4. 総括	52

挿図・表目次

図 1 調査地の位置 (S:1/25,000)	2
図 2 今回の調査地と既往の調査地 (S:1/2,500)	3
図 3 壁面土層図 (S:1/80)	4
図 4 検出遺構平面図 (S:1/200)	5・6
図 5 SA080 平面・土層断面図 (S:1/80)	7
図 6 SB050 平面・土層断面図 (S:1/80)	8
図 7 SB075 平面・土層断面図 (S:1/80)	9
図 8 SB095 平面・土層断面図 (S:1/80)	9
図 9 SB100 平面・土層断面図 (平面 S:1/200 断面 S:1/80)	10
図 10 SB120 平面・土層断面図 (S:1/80)	11
図 11 SB165 平面・土層断面図 (S:1/80)	11
図 12 SB200 土層断面図 (S:1/80)	12
図 13 SB200 平面図 (S:1/200)	13
図 14 SE055 平面・土層断面図 (S:1/80)	13
図 15 SE085 平面・土層断面図 (S:1/40)	14
図 16 SE110 平面・土層断面図 (S:1/40)	14
図 17 SE125 平面・土層断面図 (S:1/40)	15
図 18 SK130 平面・土層断面図 (S:1/80)	15
図 19 SK364 平面・土層断面図 (S:1/80)	16
図 20 SK366 平面・土層断面図 (S:1/80)	16
図 21 SK371 平面・土層断面図 (S:1/80)	16
図 22 SK372 平面・土層断面図 (S:1/80)	16
図 23 SK384 平面図 (S:1/40)	17
図 24 SP045 平面・断面図 (S:1/20)	17
図 25 SP070 平面・断面図 (S:1/20)	17
図 26 SP169 平面図 (S:1/40)	17
図 27 SA030 土層断面図 (S:1/80)	18
図 28 SA145 土層断面図 (S:1/80)	18
図 29 SA115 平面図 (S:1/80)	18
図 30 SA170 平面・土層断面図 (S:1/80)	19
図 31 SB005 平面・土層断面図 (S:1/80)	19
図 32 SB135 平面・土層断面図 (S:1/80)	19
図 33 SD002・003 平面・土層断面図 (S:1/20)	20
図 34 SD194 土層断面図 (S:1/40)	20
図 35 SD419 土層断面図 (S:1/20)	21
図 36 SA090・105 土層断面図 (S:1/80)	21

図 37 SB035 平面・土層断面図（平面 S:1/80 断面 S:1/40）	22
図 38 SK020 平面・土層断面図（S:1/80）	22
図 39 SK138 平面・土層断面図（S:1/80）	23
図 40 SK154 平面・断面図（S:1/20）	23
図 41 SK258 平面・土層断面図（平面 S:1/100 断面 S:1/80）	23
図 42 SK274 平面・土層断面図（平面 S:1/100 断面 S:1/80）	24
図 43 SK069・087 平面・土層断面図（S:1/80）	24
図 44 SK088 平面・土層断面図（S:1/80）	25
図 45 SK091 平面・土層断面図（S:1/80）	25
図 46 SA080 出土遺物実測図（S:1/3）	25
図 47 SB050・075 出土遺物実測図（S:1/3）	26
図 48 SB095 出土遺物実測図（S:1/8）	26
図 49 SB100 出土遺物実測図（S:1/3 S:1/4）	27
図 50 SB200 出土遺物実測図（S:1/3）	28
図 51 SE055 出土遺物実測図（1）（S:1/3 S:1/4）	29
図 52 SE055 出土遺物実測図（2）（S:1/3）	30
図 53 SE085 出土遺物実測図（1）（S:1/3）	33
図 54 SE085 出土遺物実測図（2）（S:1/3 S:1/4）	34
図 55 SE085 出土遺物実測図（3）（S:1/3）	35
図 56 SE110 出土遺物実測図（1）（S:1/6 S:1/3）	36
図 57 SE110 出土遺物実測図（2）（S:1/3）	37
図 58 SE110 出土遺物実測図（3）（S:1/3 S:1/5）	38
図 59 SE110 出土遺物実測図（4）（S:1/4）	39
図 60 SE110 出土遺物実測図（5）（S:1/5）	40
図 61 SE125 出土遺物実測図（S:1/3 S:1/5）	42
図 62 SK130・364・366・371 出土遺物実測図（S:1/3）	44
図 63 SK372・384 出土遺物実測図（S:1/3）	45
図 64 SP045 出土遺物実測図（S:1/3）	45
図 65 SP070・169 出土遺物実測図（S:1/3）	46
図 66 SA030 出土遺物実測図（S:1/3）	46
図 67 SA145 出土遺物実測図（S:1/8）	47
図 68 SB005 出土遺物実測図（S:1/3）	47
図 69 SD002・003 出土遺物実測図（S:1/3）	47
図 70 SD194・419 出土遺物実測図（S:1/3）	47
図 71 SA105 出土遺物実測図（S:1/3）	48
図 72 SD064 出土遺物実測図（S:1/3）	48
図 73 SK020・154 出土遺物実測図（S:1/3）	49
図 74 SK258 出土遺物実測図（1）（S:1/3）	50
図 75 SK258 出土遺物実測図（2）（S:1/3）	50

図 76 SK274 出土遺物実測図 (S:1/3)	51
図 77 褐色土出土遺物実測図 (S:1/3)	51
図 78 遺構変遷図 (S:1/300)	52
図 79 検出遺構略測図・遺構仮番号配置図 (縮尺任意).....	56
 表 1 既往調査一覧	3
表 2 報告遺物一覧 (1)	57
表 3 報告遺物一覧 (2)	58
表 4 報告遺物一覧 (3)	59
表 5 報告遺物一覧 (4)	60
表 6 報告遺物一覧 (5).....	61
表 7 検出遺構および出土遺物一覧 (1)	62
表 8 検出遺構および出土遺物一覧 (2)	63
表 9 検出遺構および出土遺物一覧 (3)	64
表 10 検出遺構および出土遺物一覧 (4)	65
表 11 検出遺構および出土遺物一覧 (5)	66
表 12 検出遺構および出土遺物一覧 (6)	67

図版目次

- 図版 1 調査区全景（上が北：北半写真と南半写真を合成）
- 図版 2 上段：調査区北半全景（北から）、下段：調査区南半全景（南から）
- 図版 3 上段：SB100 全景（東から）、下段：SB100 f 遺物出土状況および土層断面（南から）
- 図版 4 上段：SB200 全景（東から）、下段：SE055 下層遺物出土状況（北から）
- 図版 5 上段：SE085 上層井戸枠検出状況（西から）、下段：SE085 断ち割り断面（東から）
- 図版 6 上段：SE110 土層断面（南から）、下段：SE110 断ち割り断面（南から）
- 図版 7 上段：SE110 下層遺物出土状況（南から）、下段：SE125 井戸枠検出状況（南から）
- 図版 8 上段：SE125 井戸枠下部曲物検出状況（南から）、下段：SP045 遺物出土状況（南から）
- 図版 9 上段：SP070 遺物出土状況（南から）、下段：SA145 e 柱根出土状況（東から）
- 図版 10 上段：SA145 f 柱根出土状況（東から）、下段：SD003 (SF015 南側溝) 遺物出土状況（北から）
- 図版 11 上段：SK138 土層断面（南から）、下段：SK258 土層断面（南東から）
- 図版 12 上段：SK274 土層断面（東から）、下段：SK274 完掘（北西から）
- 図版 13 上段：SK069 土層断面（南から）、下段：SK087 土層断面（南から）
- 図版 14 上段：SK088 土層断面（南から）、下段：東側拡張区（南から）
- 図版 15 SB100・200 出土遺物
- 図版 16 SE055 出土遺物
- 図版 17 SE085 出土遺物
- 図版 18 SE085 出土遺物

图版 19 SE110 出土遗物

图版 20 SE110・125、SK130 出土遗物

图版 21 SK371・372・384、SP045 出土遗物

图版 22 SP070・169、SK138・154・258、SD419 出土遗物

1. 調査に至る経緯と調査体制

(1) 調査の経緯

平成 19 年 3 月、㈱プレサンスコーポレーション（代表取締役 山岸 忍）より、奈良県教育委員会教育長あてに、共同住宅建設計画に係る埋蔵文化財発掘の届出が提出された。当該地は平城京左京四条二坊九坪（田村第跡）にあたることから、事前の発掘調査が必要と判断された。

同年 6 月に奈良県教育委員会、奈良市教育委員会及び（財）元興寺文化財研究所で協議を行い、当研究所が受託することとなった。その後、㈱プレサンスコーポレーションが発掘にかかる費用を負担することで合意し、契約を締結した後、調査を開始した。

調査は平成 19 年 7 月 24 日付教文第 1094 号の通知に基づいて同年 7 月 31 日より調査に着手し、同年 10 月 19 日に終了した。遺物整理・報告書作成については調査終了後直ちに着手した。

発掘調査及び遺物整理・報告書作成については、㈱プレサンスコーポレーションの全面的な支援・協力があった。また奈良県教育委員会、奈良市教育委員会からの適切なご指導を賜った結果、調査・整理作業を無事に終了することができた。関係各位に感謝する次第である。

(2) 調査体制

発掘調査並びに整理・報告書作成は以下の体制で実施した。

調査指導：奈良県教育委員会・奈良市教育委員会

調査主体：財団法人元興寺文化財研究所

理事長 辻村泰善

所長 坪井清足

事務局長 奥洞二郎

研究部長 狹川真一

人文考古学研究室（考古担当）

室長 伊藤健司

主任研究員 角南聰一郎 佐藤亜聖

研究員 坂本亮太

研究員 藤井章徳（平成 19 年まで）

研究員 村田裕介（平成 20 年より）

現地作業員：（有）ワーカー

発掘調査及び整理・報告書作成に際し、次の方々からご指導、ご助言をいただきました。記して感謝申し上げます。（敬称略、所属は当時）

西藤清秀（奈良県教育委員会）、金子裕之（奈良女子大学）、吉村武彦（明治大学）、藤澤典彦（大阪大谷大学）、植野浩三、西山要一（奈良大学）、井上和人（奈良文化財研究所）、近江俊秀、奥井智子（奈良県立橿原考古学研究所）、豊田章裕（大阪府立農中養護学校）、久保邦江、篠原豊一、武田和哉、中島和彦、西崎卓也、三好美穂、森下浩行、安井宣也（奈良市教育委員会）

2. 周辺における既往の調査と課題

調査地周辺では1977年の奈良国立文化財研究所（以下奈文研）による調査（奈文研105次）を嚆矢として、これまでに12次にわたる調査が行われている（図2）。いずれも狭小な調査が多く、今回の調査はこれまでで最大の規模となる。

まず周辺の条坊であるが、奈良市教育委員会（以下市）42・59・80次調査で東三坊坊間路西側溝が、市133次調査では同東側溝および四条条間北小路北側溝が確認されている。このことは調査地周辺が複数坪にまたがる「田村第」であったとしても、個別の坪は道路によって区画されていたことを示している。このほか、奈文研105次調査では東三坊大路東側溝推定地より大溝SD11が検出されているが、出土遺物や埋土の状況から中世の河道であると考えられている。

坪内の利用状況については、奈文研145次・156-8次調査では奈良時代初期には坪内を分割して小規模な建物を配置していたが、遅くとも奈良時代中頃には坪内を一町占地して大規模な礎石建物が建てられることが判明している。また、建物が推定坪境に近接しすぎることから、十坪と十五坪が一連のものとして利用されていた可能性も指摘され、さらにこうした利用状況は奈良時代末まで続くと考えられている。このような土地利用の変化は奈文研223-20次調査においても確認されており、周辺地域における奈良時代中期の土地利用変更が、広範囲に及んでいたことが明らかになっている。こうした奈良時代中期の大規模な変更についてはやはり、藤原仲麻呂による田村第の設置とする見解に賛成できよう。

このほか、奈文研223-20次調査では平城京廃都後の平安時代初期の段階でも建物および小溝が残ることが判明しており、平城京廃都の後都域がどのように利用されたかについての考古学的情報を得ることも課題であり、こうした点を念頭において調査を行った。



図1 調査地の位置 (S:1/25,000)

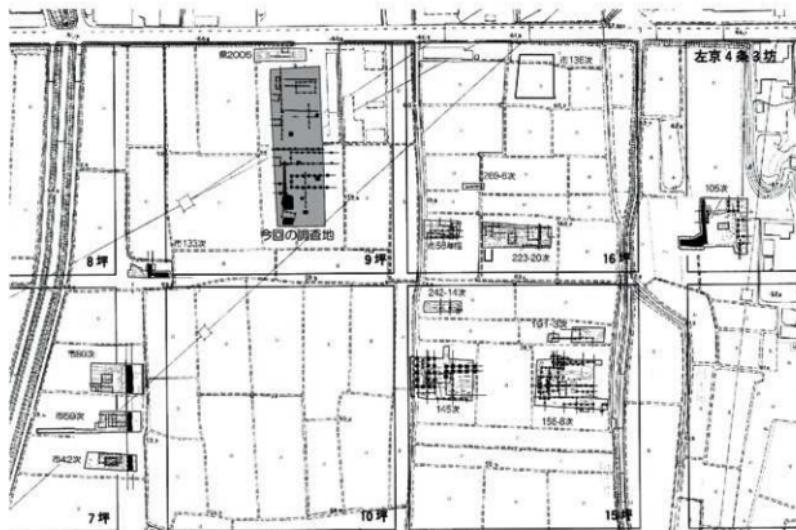


図2 今回の調査地と既往の調査地（奈良文化財研究所編『平城京条坊総合地図』2003年「田村第」に加筆）（S:1/2,500）

表1 既往調査一覧

調査次数	文献
奈文研105次	奈良国立文化財研究所 1978 「右京四条三坊一坪の調査」『昭和52年度 平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』
奈文研145・156-8次	奈良国立文化財研究所 1985 『平城京左京四条二坊十五坪発掘報告』
奈文研191-3次	奈良国立文化財研究所 1989 「右京四条二坊十五坪の調査」『昭和63年度 平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』
奈文研223-20次	奈良国立文化財研究所 1993 「田村第推定地の調査」『奈良国立文化財研究年報1992』
奈文研242-14次	奈良国立文化財研究所 1995 「左京四条二坊十五坪の調査」『奈良国立文化財研究年報1994』
奈文研269-6次	奈良国立文化財研究所 1998 「左京四条二坊十六坪の調査」『奈良国立文化財研究年報1997-III』
県2005	奈良県立橿原考古学研究所 2006 「平城京左京四条二坊九坪（田村第）」『奈良県遺跡調査概報 2005年度第1分冊』
市58年度	奈良市教育委員会 1984 「平城京左京四条二坊十六坪の調査」『奈良市埋蔵文化財発掘調査概報 昭和58年度』
市42次	奈良市教育委員会 1984 「平城京左京四条二坊六坪の調査」『奈良市埋蔵文化財発掘調査概報 昭和58年度』
市59次	奈良市教育委員会 1984 「平城京左京四条二坊七坪の調査」『奈良市埋蔵文化財発掘調査概報 昭和58年度』
市80次	奈良市教育委員会 1985 「平城京左京四条二坊七坪の調査」『奈良市埋蔵文化財発掘調査概報 昭和59年度』
市133次	奈良市教育委員会 1988 「平城京左京四条二坊々間路の調査 第133次」『奈良市埋蔵文化財発掘調査概報 昭和62年度』

3. 調査の成果

(1) 基本層序

調査前の当地は、全面が観光バス会社の店舗および車庫として利用されていたため、建物およびアスファルトが撤去された状態で調査に着手した。奈良国立文化財研究所作成1/1,000『平城京地形図』からは、昭和36年の当地では建物としての利用は東半分のみで、西半分は水田として利用されていたことが窺える。調査の結果検出した調査区中央を南北に貫く擾乱は、この際の擁壁痕跡である可能性が考えられる。

基本層序は上層から層厚160cm前後の造成土(1)、15~30cmの現代耕土(2)、8~10cmの近世遺物を含む暗緑灰色細砂(3)、14世紀頃の遺物を含む厚さ5cm前後に亘る黄褐色細砂(4)が存在し、4層直下が遺構検出面である(図3)。造成土(1)内には大量のコンクリート塊が含まれていた。

地表面の標高はおおむね標高60.9m前後、遺構面は58.95m前後を測り、ともにほぼフラットである。奈良県立橿原考古学研究所2005年度調査では、遺構面の低い部分に暗灰黄色質粘土の整地層が存在したが(奈良県立橿原考古学研究所2006)、今回の調査では確認できなかった。

遺構面以下は褐色の細砂～シルト層をベースとして、ここに古墳時代の遺物を少量含む流路が多数貫入する。流路は幅3~6m、深さ1~2m程度で、複数の流路が網流しており、断面観察からは北から南への流下方向が考えられる。

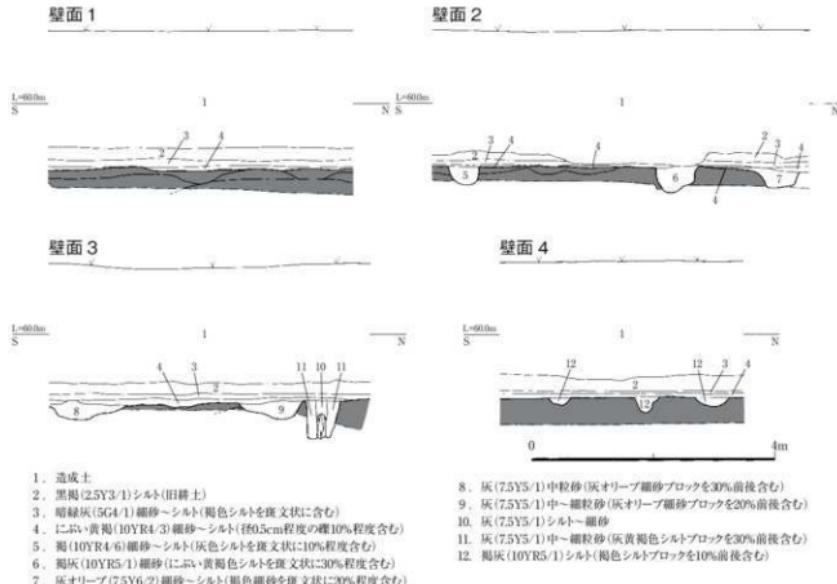


図3 壁面土層図 (5:1/80)

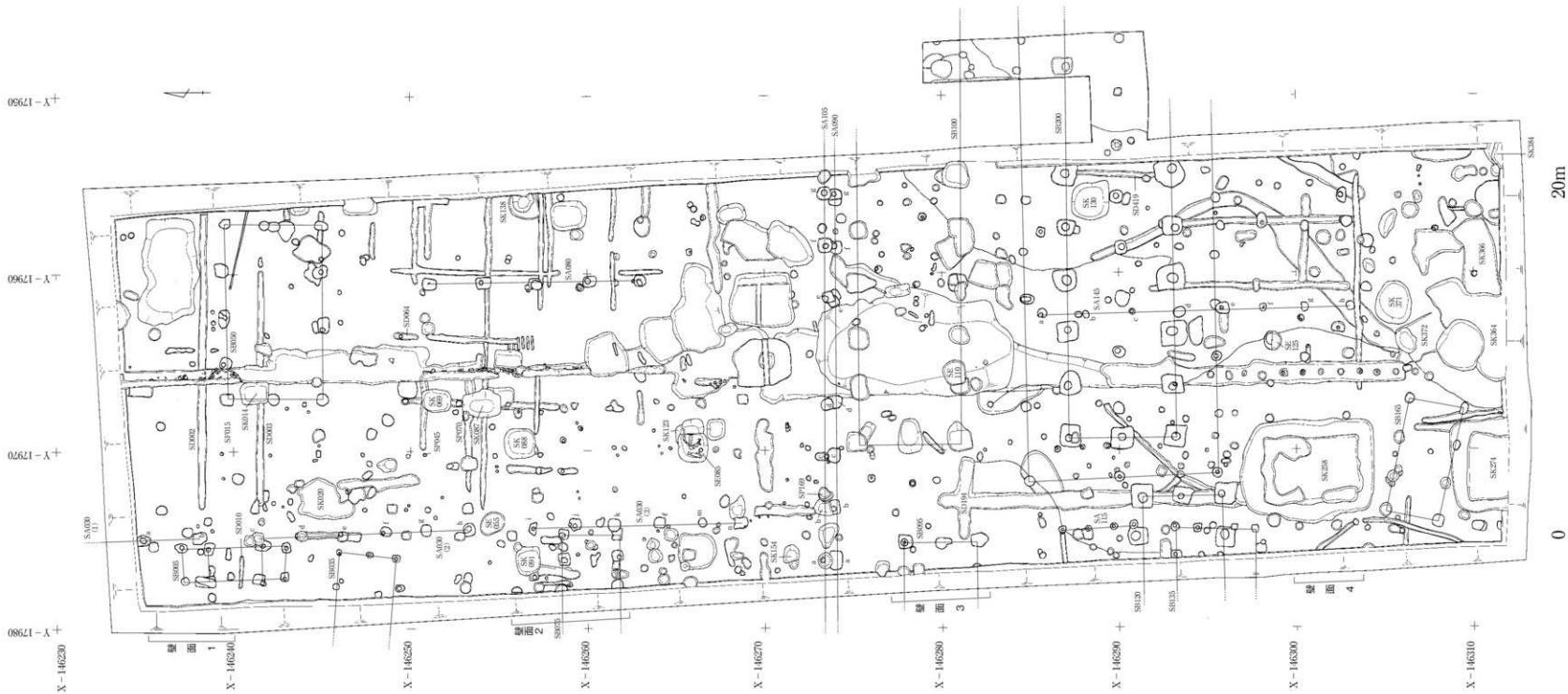


図4 條出遺構平面図 (S : 1/200)

(2) 検出遺構

1期の遺構

柵列

SA080 (図5)

調査区北東部に位置する南北方向の柵列。a～eの5つの柱穴で構成される。柱間は概ね300cmを基準とする。柱穴は長軸60～80cmの隅丸長方形を主とし、深さは20～30cm、主軸はN-0° 20' 8"-Wを測る。断面観察からは径20cm前後の柱の存在が確認できる。

建物

SB050 (図6)

調査区北東部に位置する二間×四間の東西方向掘立柱建物。a～kの11本分の柱穴で構成される。東柱は見られない。桁行984～1000cm、梁行540～546cm、桁行柱間平均値248cm、梁行柱間平均値272cmを測る。柱抜取りはほとんど行わず、大半の柱穴に径15～25cmの柱痕跡が残る。柱穴cおよびfには礎板に使用したと考えられる平瓦が敷設されていた。建物主軸方位はW-0° 4' 17"-Sを測る。

柱穴掘方から土師器食器類・甕、須恵器食器類、平瓦が、抜取痕及び柱痕跡から土師器食器類・甕、須恵器食器類・壺、平瓦、黒色土器A類焼が出土した。

奈良時代中～後期の遺構である。

SB075 (図7)

調査区西側に位置する東西方向掘立柱建物。SA030に切られる。東西二間南北一間、a～fの6本分の柱穴を確認したが、大半が調査区外のため詳細は不明である。東柱は見られない。梁行313cm、桁行柱間平均値134cmを測る。遺存が悪く柱抜取り等は詳細に観察できない。建物主軸方位はN-2° 33' 49"-Eを測る。

柱穴掘方から土師器食器類・甕が、抜取痕及び柱痕跡から土師器食器類・甕、平瓦、製塙土器が出土した。

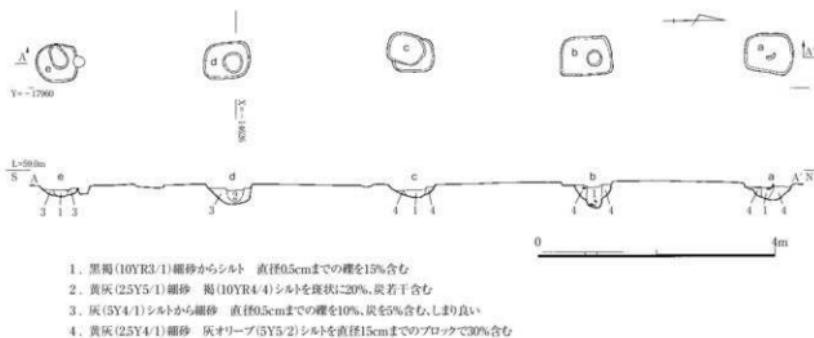


図5 SA080 平面・土層断面図 (S:1/80)

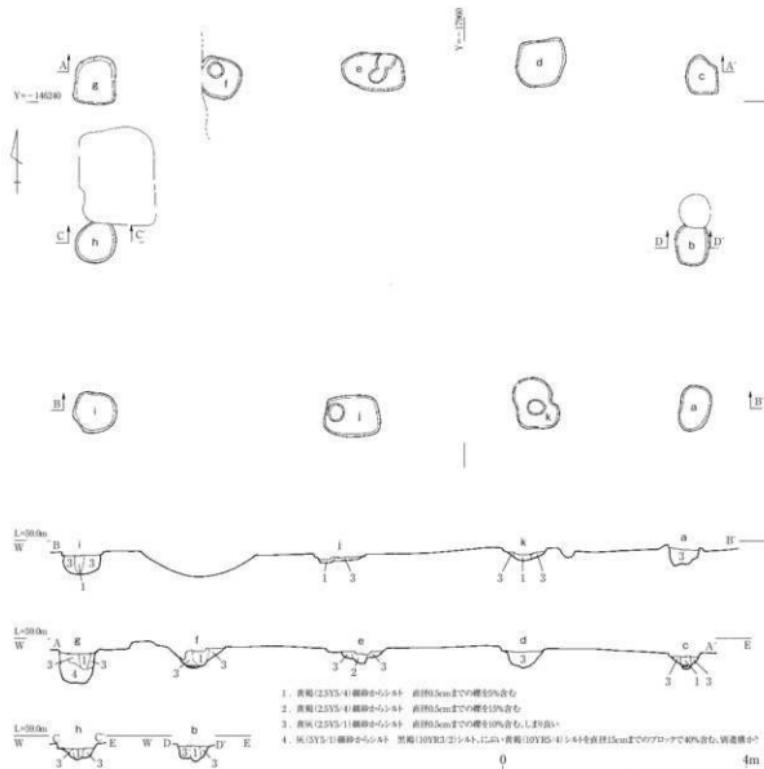


図6 SB050 平面・土層断面図 (5:180)

SB095 (図8)

調査区西側に位置する掘立柱建物。東西一間南北二間。a～dの4本分の柱穴を確認したが、大半が調査区外のため詳細は不明である。梁行420cm、梁行柱間平均値210cmを測る。柱穴cには径27cm前後の柱材が残存する。建物主軸方位はN-2° 2' 43"-Eを測る。

柱穴掘方から土師器・須恵器壺が、抜取痕及び柱痕から須恵器食器類・壺が出土した。

SB100 (図9、写真図版3)

調査区中央部に位置する二間×七間以上の東西方向掘立柱建物。SE110に切られる。南に隣接するSB200とは西側妻部を合わせるなど、並列して有機的な関係にあったと考えられるが、北側に並行する柵列SA090・105とは距離が近すぎ、時期差があると考えられる。a～nの14本分の柱穴で構成される。東柱は見られない。桁行2090cm以上、梁行585cm、桁行柱間平均値298cm、梁行柱間平均値292cmを測る。柱穴は径120～

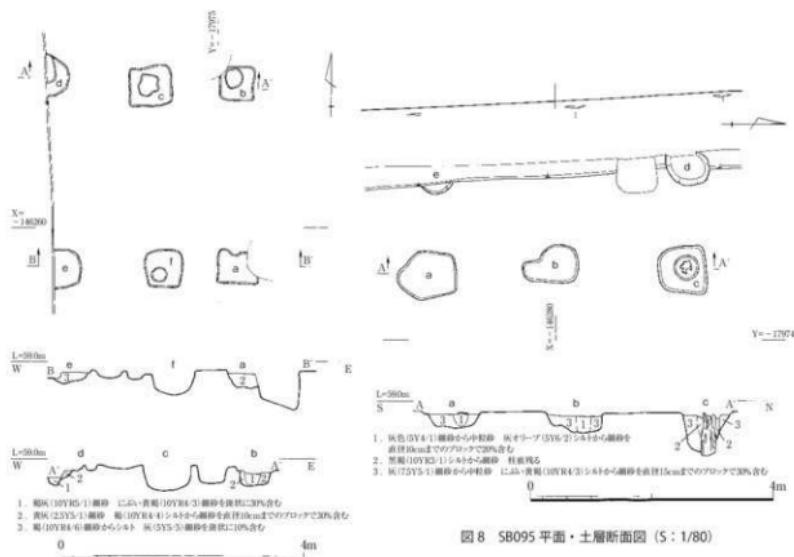


図7 SB075 平面・土層断面図 (S: 1/80)

170cm程度の長楕円形を主体とし、深さにはばらつきがある。ほぼすべて柱を抜き取っているが、僅かに残る柱痕跡からは径40cm近い大型の柱の存在が推定できる。建物主軸方位はW-0° 32' 53"-Sを測る。

柱穴掘方から土師器食器類・甕・須恵器食器類・平瓦・軒丸瓦・墨書土器(供・行・□)、木製品曲物(柄杓)が、抜取痕及び柱痕跡から弥生土器高杯・甕、土師器食器類・甕・銅・製塩土器・須恵器食器類・甕・甕・軒平瓦・平瓦・丸瓦・埠、転用磯が出土した。

奈良時代中期の遺構である。

SB120 (図10)

調査区西端に位置する二間×二間以上の東西方向掘立柱建物。SD194に切られる。a～eの5本分の柱穴で構成される。束柱は見られない。梁行435cm、桁行柱間平均値225cm、梁行柱間平均値217cmを測る。柱穴は一辺90～130cm程度の隅丸方形を主体とし、深さ60～80cmを測る。柱痕跡からは径30cm程度の柱の存在が推定できる。建物主軸方位はN-2° 53' 43"-Wを測る。

抜取痕及び柱痕跡から土師器食器類・甕・丸瓦・平瓦が出土した。

SB165 (図11)

調査区南西隅に位置する一間×三間の東西方向掘立柱建物。a～hの8本分の柱穴で構成される。束柱は見られない。梁行650cm、梁行310cm、桁行柱間平均値210cmを測る。柱穴は径60～70cm程度の円形を主体とする。大半の柱を抜き取るが、僅かに残る柱痕跡からは径18cm前後の柱の存在が推定できる。建物主軸方位はW-12° 9' 17"-Nを測る。

抜取痕及び柱痕跡から土師器細片が出土しているのみで、年代決定の根拠は希薄だが、主軸方位が大きく偏向

図8 SB055 平面・土層断面図 (S: 1/80)

1. 黒色(10Y 4/1)細砂から柱痕跡。E点に青緑色(10YR 4/3)細砂を直径30cm含む。
2. 黄色(23YS 5/1)細砂。E点(10YR 4/1)細砂から柱痕跡を直径30cm含む。
3. 黒色(10Y 5/1)細砂から柱痕跡。E点(5YS 5/1)細砂を直径30cm含む。

0 1m

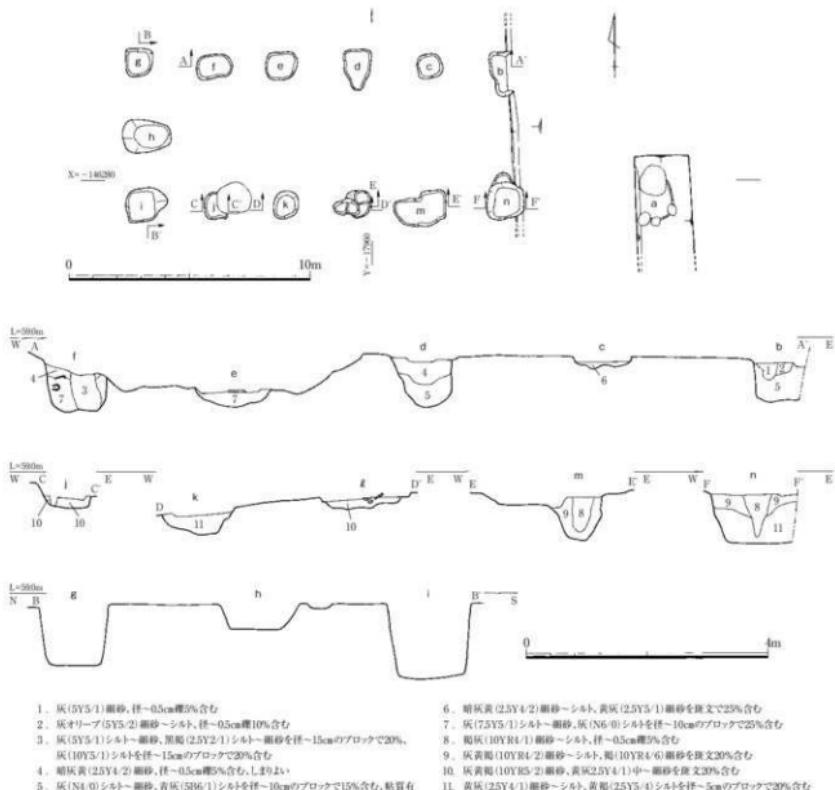


図9 SB100 平面・土層断面図 (平面 S: 1/200 断面 S: 1/80)

することから奈良時代以前の建物と考えられる。

SB200 (図12・13、写真図版4上段)

調査区中央部に位置する二間×七間以上の東西方向掘立柱建物。北に隣接するSB100とは西側妻部を合わせるなど、並列して有機的な関係にあったと考えられる。a～nの14本分の柱穴で構成され東柱は見られない。建物を中心に16本文の柱穴が取り巻く。軒や縁、束柱とするには規模および柱間に不自然な点があり、建設時の足場穴と考えられる。

建物本体は桁行2125cm以上、梁行615cm、桁行柱間平均値303cm、梁行柱間平均値307cmを測る。柱穴は径110～150cm程度の圓丸方形を主体とし、深さ50～90cmを測る。柱痕跡からは径30cm前後の柱の存在が推定できる。建物主軸方位はW-O° 23' 46"-Sを測る。

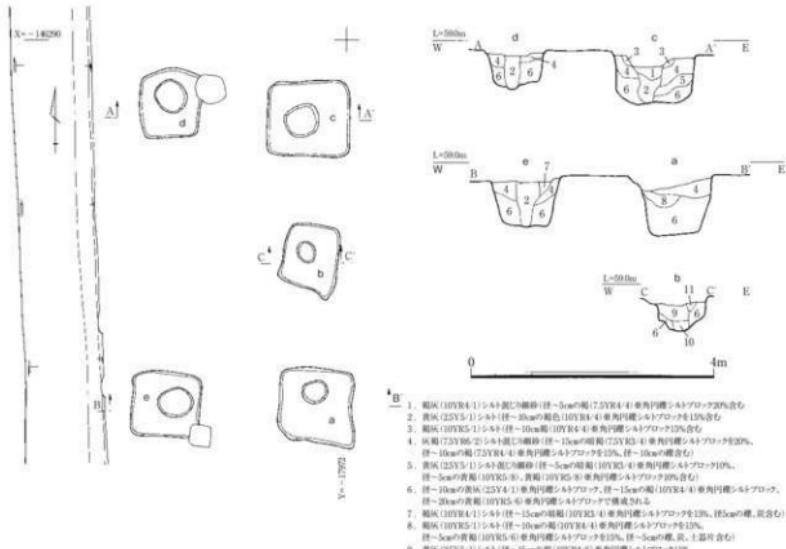


図10 SB120 平面・土層断面図 (S:1/80)

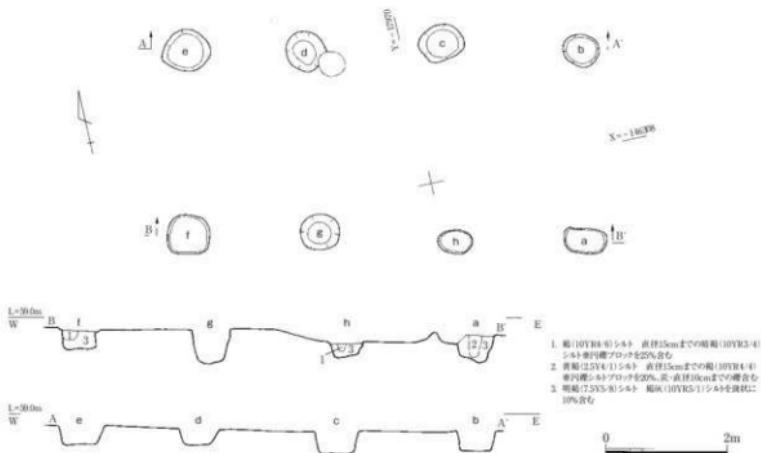


図11 SB165 平面・土層断面図 (S:1/80)

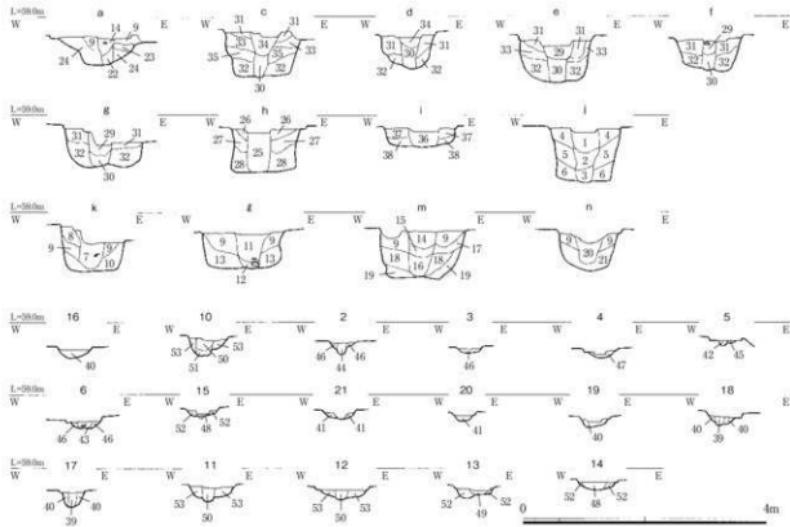


図 12 SB200 土層断面図 (S : 1/80)

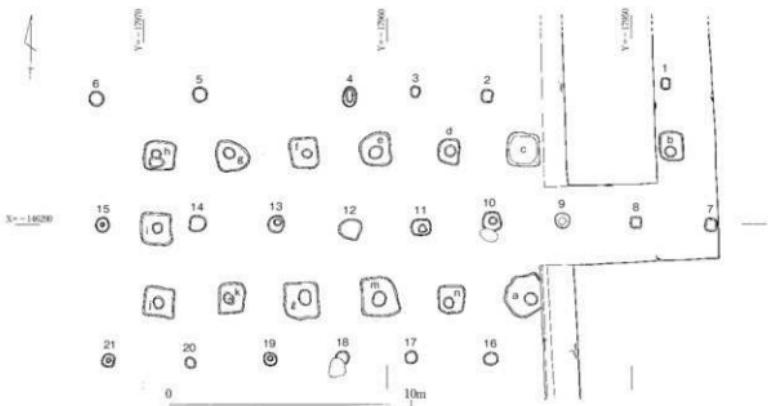


図 13 SB200 平面図 (S: 1/200)

柱穴掘方から土師器食器類・甕・須恵器食器類・壺・甕・製塙土器・平瓦・丸瓦、点け木が、抜取痕及び柱痕跡から土師器食器類・壺・甕・須恵器食器類・壺・甕・平瓦・埴・根石・加工木が出土した。

足場穴は南北二間、東西八間以上存在し、南北 1080cm、東西 2500cm、南北柱間平均値 546cm、東西柱間平均値 355.8cm を測る。柱穴は直径 30 ~ 50cm を測る円形を呈し、深さ 10 ~ 25cm 前後を測る。柱痕跡からは直径 20cm 程度の柱の存在が推定できるが、いずれも柱痕跡にブロック土が混入し、抜取りを行ったものと考えられる。

足場柱穴掘方から土師器食器類・甕・須恵器食器類・壺・甕・製塙土器・抜取痕及び柱痕跡から土師器食器類・甕・須恵器食器類・壺・甕・平瓦が出土した。

井戸

SE055 (図 14、写真図版 4 下段)

調査区中央西寄りに位置する素掘りの井戸。南北 130cm、東西 108cm を測る楕円形を呈し、最下層は古墳時代の河道埋土である砂層に達する。壁面はほぼ垂直であり、枠材を固定した痕跡も見られることから、素掘りの井戸と判断した。下層にブロック土を含まない細砂、上層にブロック土を多く含む細砂が存在することから、一定期間機能した後人為的に埋められたものと考えられる。深さ 60cm 程度を測るが、底部付近は激しい湧水のため崩落し、土層断面図を作成できなかった。

埋め戻し時の埋土より土師器食器類・甕・須恵器食器類・壺・甕・黒色土器 A 類椀・平瓦・埴が出土した。

SE085 (図 15、写真図版 5)

調査区中央付近に位置する立板組の井戸。SK123 に切られる。一辺 150cm 前後、深さ 250cm 前後を測る開丸方形を呈し、最下層は湧水層である砂層に達する。壁面はほぼ垂直であり、一部オーバーハングする。下層に木屑を多く

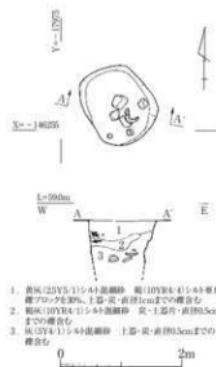


図 14 SE055 平面・土層断面図 (S: 1/80)

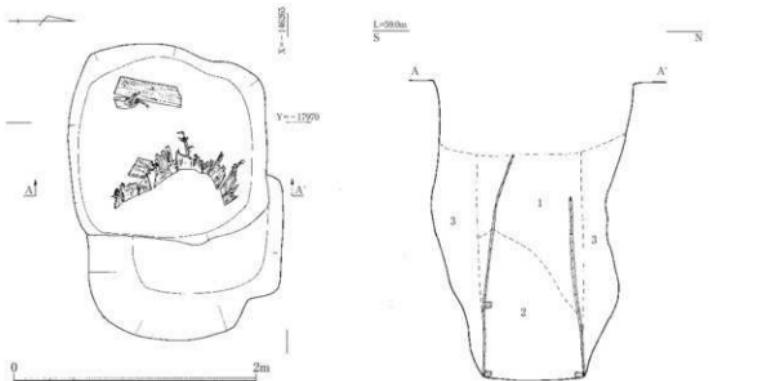


図15 SE085 平面・土層断面図 (S:1/40)
 1. 灰(7.5Y6/1)シルトから細砂・鉛灰(7.5GYG/1)シルトを直径20cmまでのブロックで20%、灰を5%含む
 2. 青灰(10BBG/1)シルト 灰を15%含む、粘あり
 3. 黒泥(10YR3/1)シルトから細砂・粘泥(10YR3/4)シルトを直径10cmまでのブロックで10%含む、しまり良い

図15 SE085 平面・土層断面図 (S:1/40)

含む粘土、上層にブロック土を多く含むシルトが存在することから、一定期間機能した後人為的に埋められたものと考えられる。枠材は厚さ1cm程度の薄い板材を横横2段で固定する。

埋め戻し時の埋土より土師器食器類・甕、須恵器食器類・壺・甕、製塙土器、平瓦・軒平瓦・軒丸瓦、加工木、点け木が出土した。

SE110 (図16、写真図版6・7上段)

調査区中央に位置する曲物積上げの井戸。SB100を切る。径80cm程度を測る円形を呈し、深さ100cmを測る。壁面はほぼ垂直である。下段から3段分の曲物が残存していた。また、掘方より円形の板材が出土したが、これは曲物の継ぎ目に当ててあったものと考えられる。

埋土は枠内全体に暗灰色のシルト～粘土が堆積するが、最下層から検出面付近まで同一個体と考えられる須恵器の破片が均質に存在し、掘削後比較的の短期間で人為的に埋められたものと考えられる。

枠内より土師器食器類・壺・甕、須恵器食器類・壺・甕、平瓦、丸瓦、軒平瓦、木製品点け木が、掘方より土師器高杯・甕、須恵器甕が出土した。

SE125 (図17、写真図版7下段・8上段)

調査区中央南寄りに位置する曲げ物・円形縦板組みの井戸。南北98cm、東西108cmを測る円形を呈し、深

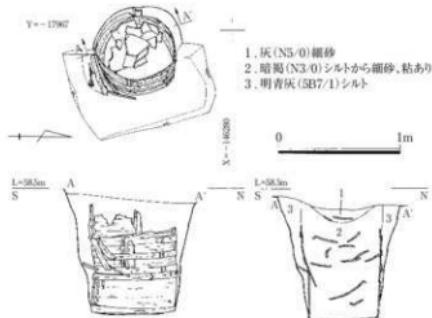


図16 SE110 平面・土層断面図 (S:1/40)

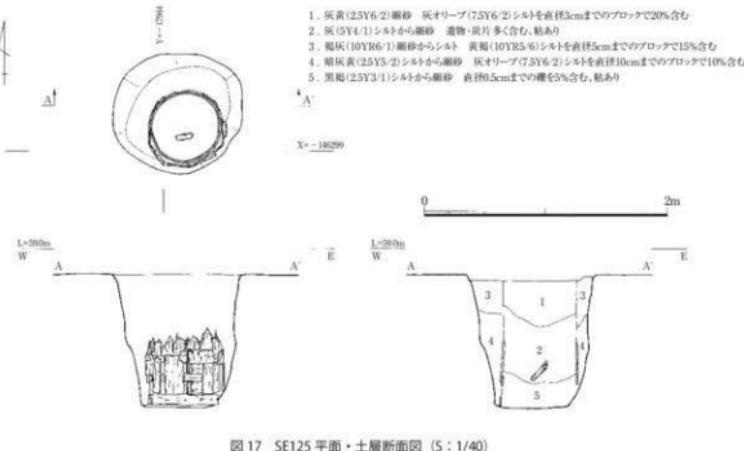


図 17 SE125 平面・土層断面図 (S: 1/40)

さ 110cm を測る。壁面はほぼ垂直で、最下層は湧水層である砂層に達する。最下層には曲物を据え、その上に幅 15cm 前後の縦板を円形に組む。下層に黒褐色のシルト層、中層に遺物・木片が多く含むシルト～細砂層、上層にブロック土を多く含むシルト層が堆積し、一定期間機能した後人為的に埋められたものと考えられる。

枠内埋土より土師器食器類・甕、須恵器食器類・甕・甌、平瓦、丸瓦、埠、木片、貝殻が、掘方から土師器高杯・杯、須恵器杯が出土した。

土坑

SK130 (図 18)

調査区東端に位置する土坑。東西 210cm、南北 210cm、深さ 60cm を測り、断面浅い「U」字形を呈する。埋土はいずれも亜円錐状の地山ブロックを均質に含み、人為的埋土と考えられる。断面観察からは東からの土砂流入が想定できる。

埋土内より土師器食器類・甕、須恵器食器類・甕、点け木が出土した。

SK364 (図 19)

調査区南端に位置する土坑。SK366・372 を切る。東西 480cm、深さ 20cm を測る浅い不定形な落ち込み状を呈する。底部は起伏に富み、大半が調査区外に位置する。埋土はいずれも亜円錐状の地山ブロックを均質に含み、人為的埋土と考えられる。

埋土内より弥生土器甕、土師器食器類・甕、須恵器食器類・甕、平瓦が出土した。

SK366 (図 20)

調査区南端に位置する土坑。SK364 に切られる。東西 420cm 以上、南北 190cm、深さ 7cm 前後を測る浅い落ち込み状を呈する。底部は起伏に富む。埋土はいずれも亜円錐状の地山ブロックを均質に含み、人為的埋土と考えられる。



図 18 SK130 平面・土層断面図 (S: 1/80)

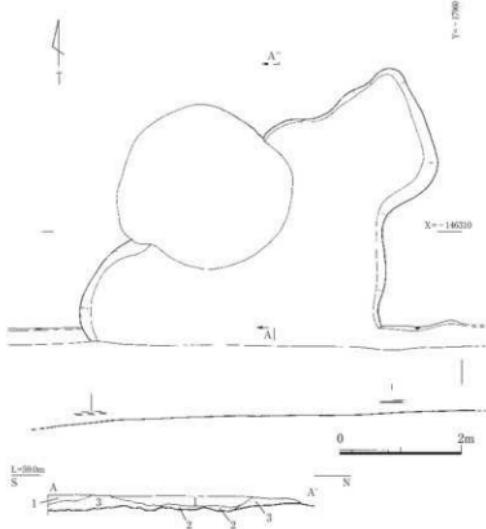


図 19 SK364 平面・土層断面図 (S : 1/180)

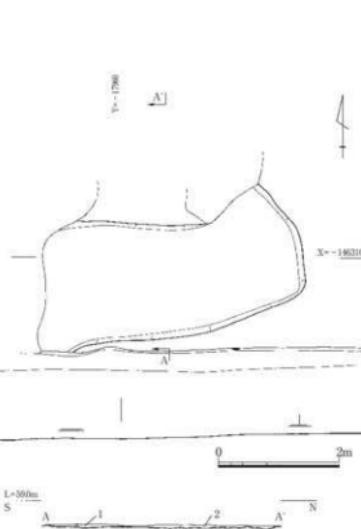


図 20 SK366 平面・土層断面図 (S : 1/180)

埋土内より弥生土器壺・甕、土師器食器類・甕、須恵器食器類・甕、炭化材が出土した。

SK371 (図 21)

調査区南端に位置する土坑。東西245cm、南北200cm、深さ40cmを測り、断面形態は不整形で起伏に富む。埋土はいずれも亜円錐状の地山プロックを多く含み、人為的埋土と考えられる。

埋土内より土師器食器類・甕、須恵器食器類・甕・鉢、凝灰岩石材、砥石、とりべ、炭、点け木、平瓦が

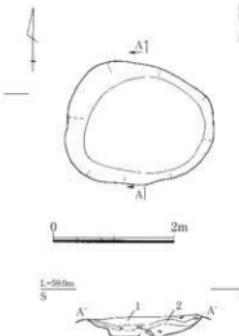


図 21 SK371 平面・土層断面図 (S : 1/180)

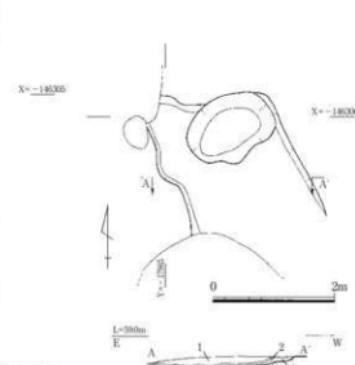
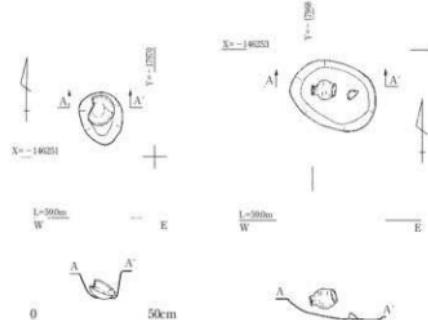
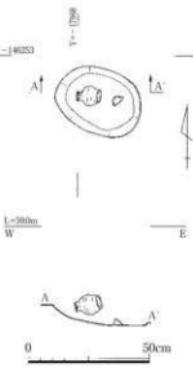


図 22 SK372 平面・土層断面図 (S : 1/180)



図 23 SK384 平面図 (S: 1/40)

図 24 SP045 平面・断面図
(S: 1/20)図 25 SP070 平面・断面図
(S: 1/20)

出土した。木炭の量が他の遺構より多く、また須恵器甕には転用窯が多い。

SK372 (図 22)

調査区南端に位置する土坑。東西 200cm、深さ 18cm を測り、断面浅い「U」字形を呈する。埋土は最下層に亜円錐状の地山ブロックを含む細砂層、中層に炭を多量に含む薄層を挟み、上層には礫と炭を含むシルト層が存在する。上層および最下層は人為的埋土と考えられる。

埋土内より土師器甕、須恵器食器類・壺、砥石、輪羽口、点け木、炭が出土した。

SK384 (図 23)

調査区南東端に位置する土坑。大半が調査区外のため詳細は不明である。断面形態も不安定で肩部に段差を有し、埋土は亜円錐状の地山ブロックを均質に含む人為的埋土と考えられる。

埋土内より土師器食器類・甕、須恵器食器類・平瓶、平瓦が出土した。

ピット

SP045 (図 24、写真図版 8 下段)

調査区北半に位置する土器埋納ピット。東西 17cm、南北 22cm、深さ 12cm を測る楕円形を呈し、底部付近に土師器椀 A を正位置に据える。周辺に建物等を構成するピットは見られない。

SP070 (図 25、写真図版 9 上段)

調査区北半に位置する土器埋納ピット。東西 35cm、南北 27cm、深さ 10cm を測る楕円形を呈し、底部付近に土師器椀、須恵器甕 M を横位置に据える。大半を SK087 に破壊されるため、遺存は良好でない。

SP169 (図 26)

調査区中央西よりに位置するピット。東西 85cm、南北 70cm、深さ 34cm を測る楕円形を呈し、南西側に段差を有する。埋土内より古式土師器高杯、須恵器甕、平瓦が出土した。



図 26 SP169 平面図 (S: 1/40)

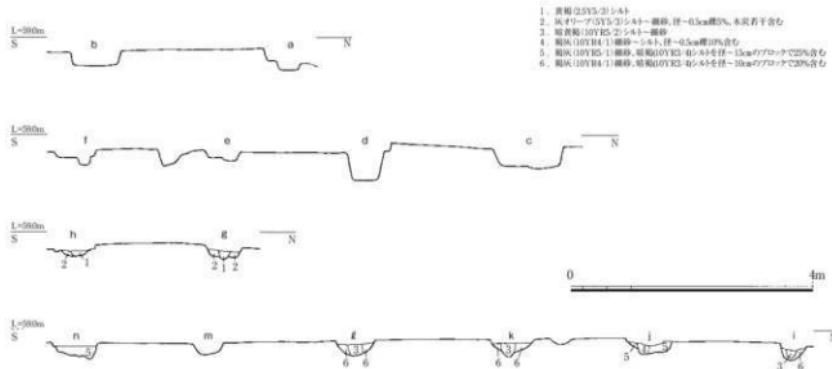


図 27 SA030 土層断面図 (S : 1/80)

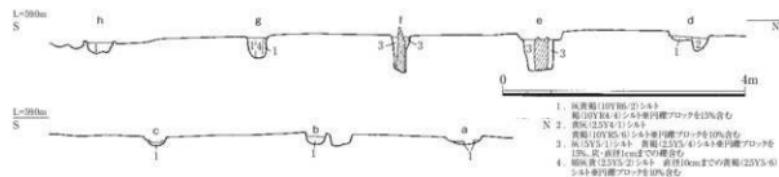


図 28 SA145 土層断面図 (S : 1/80)

2期の遺構

柵列

SA030 (図27)

調査区西端に位置する南北方向の柵列。a～nの14の柱穴で構成されるが、1～3群の3つのグループに分かれる。柱間は概ね248cm(8尺)を基準とするが、1・2群間は330cm、2・3群間は370cmの間隔を空ける。1・2群の間には八脚門と考えられる掘立柱建物SB005と、道路側溝と考えられる溝(SD002・003)が併設され、SA030が敷地を区画する柵列であったことが窺える。SA030cはSB005の一部を切り、また柵列SA030が門の側面ではなく前面に取り付くことから、柵列と門の間に時期差が存在する可能性もある。

柱穴は長軸60cm前後の圓丸長方形を主とし、深さ25～50cm、主軸はN-1°37'37"-Wを測る。断面観察からは20cm前後の柱の存在が確認できる。

抜取痕から土師器食器類・甕、須恵器食器類・壺・甕、製塙土器、砥石が、掘方から土師器食器類、須恵器食器類・壺・鉢、平瓦が出土した。

図 29 SA115 平面図
(S : 1/80)

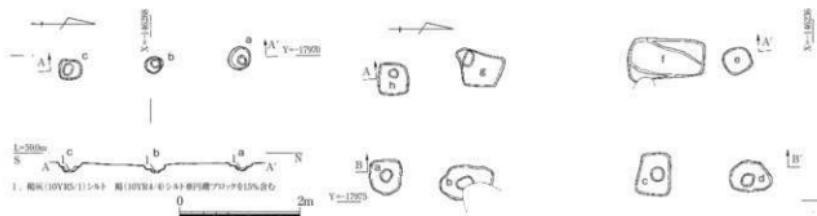


図30 SA170 平面・土層断面図 (S: 1/80)

SA115 (図29)

調査区南西部に位置する南北方向の柵列。SB120を切る。a～dの4つの柱穴で構成される。柱間は平均130cmを測る。柱穴は径30～50cmの円形を主とし、深さ20cm前後、主軸はN-10°55' 39''-Wを測る。

柱抜取痕より土師器食器類・甕、平瓦が、掘方より土師器甕が出土した。

SA145 (図28、写真図版9下段・10上段)

調査区南半中央部に位置する南北方向の柵列。a～hの8つの柱穴で構成される。柱間は215～255cmとややばらつきがあるが、平均230cm前後を測る。柱穴は径30～50cm円形を呈し、深さ15～65cm、主軸はN-1°8' 32''-Wを測る。eおよびfには径25cm前後の柱根が残存した。

柱抜取痕から土師器甕、須恵器食器類が出土した。

SA170 (図30)

調査区南半中央部に位置する南北方向の柵列。a～cの3つの柱穴で構成される。柱間は平均142cmを測る。柱穴は径25～35cm円形を呈し、深さ10cm、主軸はN-2°35' 42''-Wを測る。

柱抜取痕から須恵器甕が、掘方から土師器甕が出土した。

建物**SB005 (門) (図31)**

調査区北西隅に位置する南北方向の掘立柱建物。SA030の(1)・(2)間開口部に位置し、道路状遺構SF015

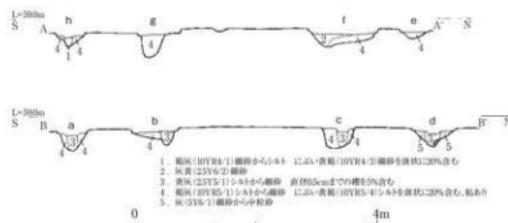


図31 SB005 平面・土層断面図 (S: 1/80)

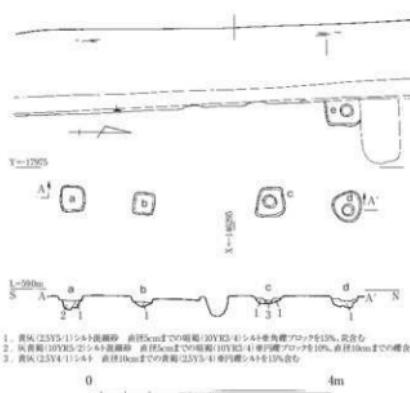


図32 SB135 平面・土層断面図 (S: 1/80)

に取り付くことから、八脚門の遺構と考えられる。a～h の 8 本分の柱穴で構成される。梁行 577cm、桁行 180cm を測り、開口部の柱間（柱穴 b-c、f-g 間）の距離（290cm）は道路状遺構 SF015 の路面幅とほぼ一致する。柱穴は一辺 50～90cm 程度の隅丸方形を主体とし、深さ 20～45cm を測る。柱痕跡からは径 20cm 程度の柱の存在が推定できる。建物主軸方位は N-0° 28' 53"-E を測る。

抜取痕及び柱痕跡から土師器食器類、須恵器食器類、製塙土器、平瓦・丸瓦、焼土が、掘方から平瓦が出土した。

SF135 (図 32)

調査区南西端に位置する三間×二間以上の掘立柱建物。大半が調査区外のため詳細は不明である。SB120 を切る。a～e の 5 本分の柱穴で構成される。東柱は見られない。南北 455cm、柱間平均値 151cm を測る。柱穴は一辺 30～40cm 程度の隅丸方形を主体とし、深さ 15～30cm を測る。建物主軸方位は N-2° 31' 0"-E を測る。

抜取痕及び柱痕跡から土師器甕が出土した。

道路状遺構

SF015 (図 33、写真図版 10 下段)

SD002 を北側溝、SD003 を南側溝とする東西方向の道路状遺構。側溝心々間 325cm、路面幅 290cm を測る。道路心座標は X=-146239.8、Y=-17960 である。

北側溝 (SD002) は幅 38～50cm、深さ 15cm 前後を測り、底部は起伏に富む。溝底部は東西でほとんどレベル差は見られない。

南側溝 (SD003) は幅 38～47cm、深さ 13cm 前後を測り、底部は起伏に富む。溝底部は東西でほとんどレベル差は見られない。

南北側溝いずれも埋土は砂を含むシルトを主体とし、亜角礫状の地山ブロックを多く含む人為的埋土である。

溝

SD194 (図 34)

調査区西端に位置する南北方向の溝。SB120 を切り、SK258 に先行する。北端付近は十字形に分岐する。幅

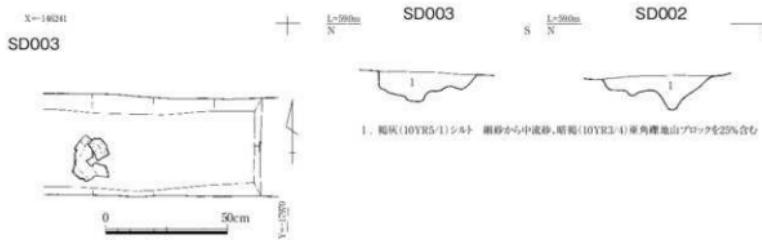


図 33 SD002・003 平面・土層断面図 (S: 1/20)



図 34 SD194 土層断面図 (S: 1/40)

40～45cm、深さ20cm前後を測り、断面形態緩やかな逆台形を呈する。溝底部レベルは南北でレベル差がほとんど見られない。埋土は礫と地山ブロックを含む人為的埋土である。

埋土内より古式土師器高杯、土師器食器類・壺・甕、須恵器食器類・壺・甕、平瓦・丸瓦が出土した。

SD419（図35）

調査区東端に位置する南北方向の溝。SB200を切る。幅10～15cm、深さ5cm前後を測り、断面形態緩やかな「U」字状を呈する。

埋土は地山ブロックを少量含むシルト混じり細砂で、流水の痕跡等は見られない。

埋土内より須恵器壺、縁軸陶器風炉、平瓦が出土した。

帰属時期不明の奈良時代遺構

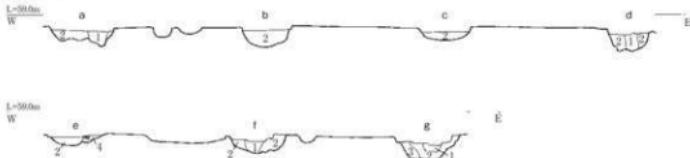
柵列

SA090（図36）

調査区を中心で分断する東西方向の柵列。a～gの7つの柱穴で構成され、SA105に切られる。柱間平均値295cm、柱穴は径70～100cmの円形および方形を呈し、深さ20～40cmを測る。柱はいずれも抜取りを行う。主軸はW-0° 21' 37"-Sを測る。SB100と隣接し、方位も一致するが、柱穴に近接しすぎることから同時期のものであるかは疑問である。むしろSA030やSD194と適度な距離を持っていてことや出土遺物から、2期の遺構である可能性が高い。

柱抜取痕から土師器食器類・甕、須恵器食器類・壺・甕、平瓦が、掘方から土師器食器類・甕、須恵器食器類・壺・甕、平瓦が出土した。

SA090



1. 黄褐色(23Y5/4)細砂、黄褐色(23Y4/4)シルトを伴う10cmのフロクで20%含む
2. 黄褐色(23Y5/1)細砂・中砂、褐色(10Y3/4)礫砂を伴う15cmのフロクで10%、灰褐色(10Y5/3)を伴う15cmのフロクで20%含む
3. 褐褐色(10Y3/1)細砂・中砂、褐色(10Y3/4)シルトを伴う15cmのフロクで20%含む
4. 灰褐色(10Y5/3)細砂・中砂、褐色(10Y3/4)シルトを伴う15cmのフロクで20%含む
5. 黄褐色(23Y5/4)細砂・シルト、褐色(23Y5/2)シルトを伴う5cmのフロクで30%含む
6. 黄褐色(23Y5/4)細砂・シルト、褐色(23Y5/2)シルトを伴う5cmのフロクで20%、本赤土2%含む
7. 黄褐色(23Y5/4)細砂・シルト、青(23Y6/4)シルトを伴う5cmのフロクで15%含む、しま0.2%

SA105

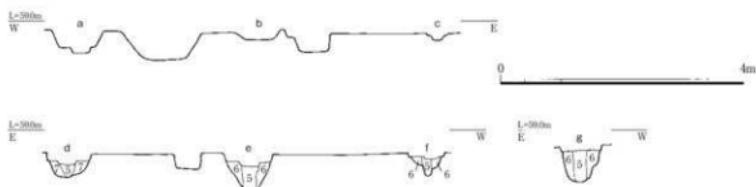


図36 SA090・105 土層断面図 (S:1/80)

SA105 (図 36)

調査区を中央で分断する東西方向の柵列。a ~ g の 7 つの柱穴で構成され、SA090 を切る。柱間平均値・柱穴規模・方位はいずれも SA090 とほぼ共通し、短期間に建替えが想定できる。柱はいずれも抜取りを行い、残された柱の痕跡からは直径 10cm 程度の柱の存在が想定できる。

柱抜取痕から土師器食器類・甕、須恵器食器類・甕、製塙土器、平瓦が、柵方から土師器食器類・甕、須恵器甕・甕、平瓦が出土した。

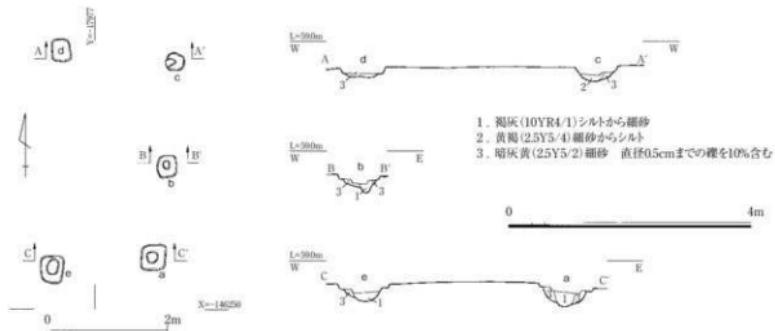


図 36 SA105 平面・土層断面図 (平面 S : 1/80 断面 S : 1/40)

建物

SB035 (図 37)

調査区北西に位置する二間×二間以上の掘立柱建物。大半が調査区外のため詳細は不明である。a ~ e の 5 本分の柱穴で構成される。東柱は見られない。南北 322cm、柱間平均値 161cm を測る。柱穴は一辺 30 ~ 40cm 程度の隅丸方形を主体とし、深さ 10 ~ 18cm を測る。建物主軸方位は

N $5^{\circ} 42' 38''$ E を測る。

抜取痕及び柱痕跡から土師器細片が出土したのみである。

溝

SD010

調査区北西端に位置する東西方向の溝。幅 20cm、深さ 5cm 前後を測り、断面形態皿形を呈する。埋土内より土師器細片、須恵器漆付着壺、平瓦が出土した。

SD064

調査区中央北寄りに位置する南北方向の溝。幅 30 ~ 40cm、深さ 10cm 前後を測り、断面形態「U」字形を呈する。溝底部は南北端でほとんどレベル差が見られない。

埋土内より土師器食器類・甕、須恵器食器類・壺・甕、輪羽口が出土した。

土坑

SK020 (図 38)

調査区北西に位置する土坑。東西 230cm、南北 320cm、深さ 5cm 前後

図 38 SK020 平面・土層断面図
(S : 1/80)

を測る浅い落ち込み状の不整形を呈する。底部は起伏に富む。埋土はいずれも亜円錐状の地山ブロックと少量の焼土を均質に含み、人為的埋土と考えられる。

埋土内より土師器食器類・須恵器食器類・甕・炭化物、平瓦が出土したほか、多数の製塙土器が出土した。

SK138 (図39、写真図版11上段)

調査区東端に位置する土坑。南北160cm、深さ20~45cm前後を測る。東端は調査区外へと続く。底部は起伏に富む。埋土はいずれも亜円錐状の地山ブロックを均質に含み、人為的埋土と考えられる。

埋土内より土師器食器類・甕・須恵器食器類・壺・甕・墨書き土器・自然木・平瓦が出土した。

SK154 (図40)

調査区中央西端に位置する土坑。径80cm、深さ25cm前後を測る。断面形態皿形を呈する。埋土はいずれも亜円錐状の地山ブロックを均質に含み、人為的埋土と考えられる。

埋土内より土師器甕・須恵器食器類・壺・甕・平瓦・丸瓦が出土した。

SK258 (図41、写真図版11下段)

調査区南端に位置する土坑。東西580cm、南北760cmを測る長方形を呈する。深さ55cmを測り、底部に段差と溝状の窪みを有する。埋土は土器や礫、炭化物、地山ブロックを均質に含むシルト質層を主体とし、人為

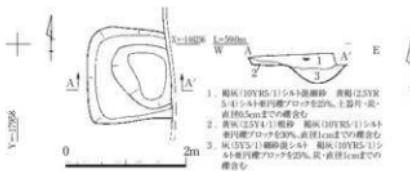


図39 SK138 平面・土層断面図 (S:1/80)

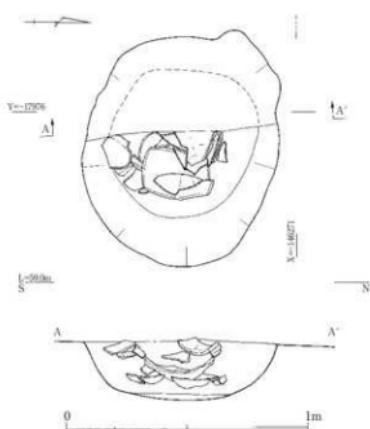


図40 SK154 平面・断面図 (S:1/20)

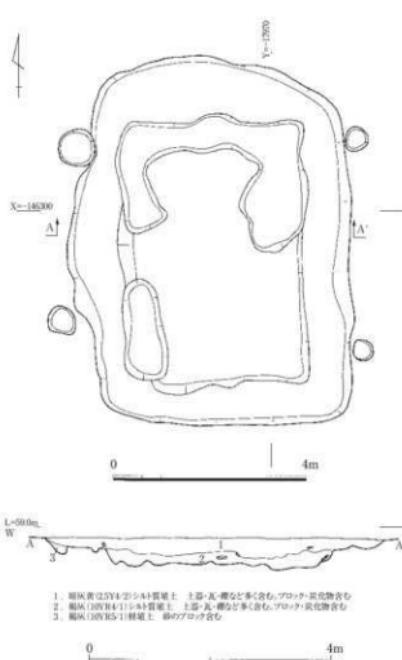


図41 SK258 平面・土層断面図 (平面 S:1/100 断面 S:1/80)

的埋土と考えられる。土坑長辺部には径 35 ~ 55cm のピットが計 4 基付属する。何らかの覆屋的な構築物が付随していた可能性が高い。

埋土内より土器類・甕、須恵器食器類・壺・甕、平瓦・丸瓦、輪羽口、点け木が出土した。

SK274 (図 42、写真図版 12)

調査区南端に位置する土坑。大半が調査区外である。東西 530cm、深さ 38cm を測り、底部に段差を有する。埋土は土器や瓦を均質に含むシルト質層を主体とし、人為的埋土と考えられる。形状・埋土・位置などから、SK258 と同時期に併設された土坑と考えられる。SK258 のような覆屋構造は確認できない。

埋土内より土器類・甕、須恵器食器類・壺・甕、平瓦・軒丸瓦が出土した。

中世以降の遺構

土坑

SK014

調査区北端に位置する土坑。SD003、SB050 を切る。東西 120cm、南北 160cm、深さ 35cm 前後を測り方形を呈する。底部はフラットである。埋土はいずれも亜円礫状の地山ブロックを均質に含み、人為的埋土と考えられる。

埋土内より近世の土師器皿、染付椀、唐津椀、平瓦が出土した。近世の遺構と考えられる。

SK069 (図 43、写真図版 13 上段)

調査区中央北寄りに位置する土坑。東西 140cm、南北 170cm、深さ 50cm 前後を測り梢円形を呈する。底部はフラットである。埋土はいずれも亜円礫状の地山ブロックを均質に含み、人為的埋土と考えられるが、最下層には地山ブロックを含まない機能時の堆積と考えられる土層が存在する。

埋土内より中近世の土師器皿、奈良時代の須恵器食器類・甕、中世の常滑焼甕、平瓦が出土した。近世の遺構と考えられる。

SK087 (図 43、写真図版 13 下段)

調査区北寄りに位置する土坑。SK069 の南に隣接する。東西 170cm、南北 220cm、深さ 45cm 前後を測り梢円形を呈する。底部は段差を持つ。埋土はいずれも亜円礫状の地山ブロックを均質に含み、人為的埋土と考えられるが、最下層には地山ブロックを含まない機能時の堆積と考えられる土層が存在する。

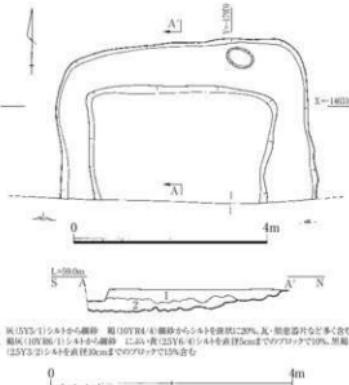


図 42 SK274 平面・土層断面図 (平面 S: 1/100 断面 S: 1/80)

1. 順次(10YR 4/1)シルト層 厚10cm(4.0) 硅藻殻砂層を厚さ20% R. 黄褐色片々多く含む
2. 順次(10YR 6/1)シルト層 厚10cm(4.0) 黄褐色片々多く含む
- (25Y5/2)シルトを直徑30cmまでのワッカで5%含む

(25Y5/2)シルトを直徑30cmまでのワッカで5%含む

0 4m

図 42 SK274 平面・土層断面図 (平面 S: 1/100 断面 S: 1/80)



図 43 SK069・087 平面・土層断面図 (S: 1/80)

1. 順次(10YR 4/1)シルト層 厚10cm(4.0) 硅藻殻砂層を厚さ20% R. 黄褐色片々多く含む
2. 順次(23Y5/1)シルト層 厚10cm(4.0) 黄褐色片々多く含む
3. 順次(10YR 1/1)シルト層 厚10cm(4.0) 黄褐色片々多く含む
4. 順次(10YR 1/1)シルト層

3. 順次(10YR 1/1)シルト層

埋土内より古代の土師器食器類・甕、須恵器食器類、中世の土師器釜、近世の唐津椀、平瓦が出土した。近世初頭の遺構と考えられる。

SK088 (図44、写真図版14上段)

調査区北寄りに位置する土坑。東西170cm、南北180cm、深さ60cm前後を測り円形を呈する。断面形態「U」字形を呈する。埋土はいずれも亜円錐状の地山ブロックを均質に含み、人為的理土と考えられるが、最下層には地山ブロックを含まない機能時の堆積と考えられる土層が存在する。

埋土内より古代の土師器食器類、須恵器甕・甕、近世の唐津椀、平瓦が出土した。近世初頭の遺構と考えられる。

SK091 (図45)

調査区北寄りに位置する土坑。東西160cm、南北130cm、深さ60cm前後を測り隅丸方形を呈する。底部は段差を持つ。埋土はいずれも亜円錐状の地山ブロックを均質に含み、人為的理土と考えられる。

埋土内より古代の土師器甕、須恵器甕、中世～近世の瓦質土器深鉢、信楽焼擂鉢、平瓦が出土した。中世後期～近世初頭の遺構と考えられる。

SK123

調査区中央付近に位置する土坑。SE085を切る。東西110cm、深さ38cm前後を測り梢円形を呈する。埋土はいずれも亜円錐状の地山ブロックを均質に含み、人為的埋土と考えられる。

埋土内より古代の土師器食器類、製塙土器、須恵器食器類、中世の白磁皿、近世の青磁染付、丹波焼擂鉢、自然木が出土した。近世の遺構と考えられる。

(3) 出土遺物

1期の遺構出土遺物

SA080出土遺物(図46)

柱痕跡及び抜取穴出土遺物

土師器杯(1) 杯Cである。表面劣化が著しく、調整等は不明である。胎土は淡褐色で精良である。

須恵器壺(2) 壺Eである。内外面回転ナデ調整を行い、ナデは外底面に達する。胎土は淡灰褐色で精良である。



図44 SK088 平面・土層断面図
(S:1/80)

図45 SK091 平面・土層断面図
(S:1/80)

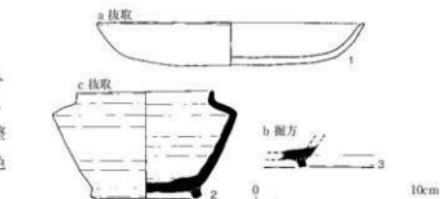


図46 SA080 出土遺物実測図 (S:1/3)

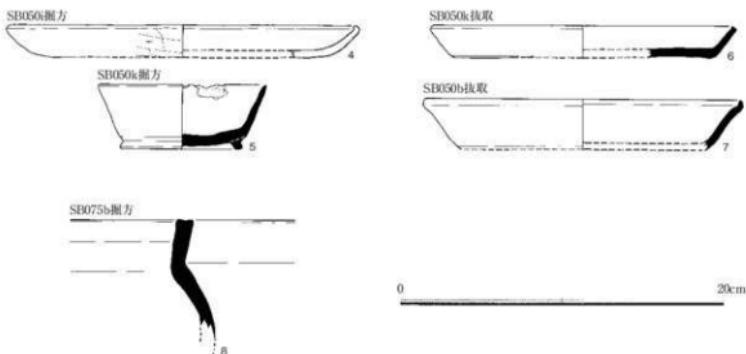


図47 SB050・075 出土遺物実測図 (S:1/3)

柱掘方出土遺物

須恵器杯(3) 杯Bである。内外面回転ナデ調整を行い、胎土は灰色で精良である。

SB050 出土遺物 (図47)柱掘方出土遺物

土師器皿(4) 皿Aである。口縁端部を玉縁に成形し、体部外面全面にわたり手持ちヘラケズリする。内面は表面劣化のため調整等不明である。胎土は橙褐色で精良である。

須恵器杯(5) 杯Bである。内外面回転ナデ調整を行い、外底面はヘラキリする。口縁部には煤が複数箇所に付着するが、一部は口縁部を小さく打ち欠いた部分に煤が付着する。高台外面は若干磨滅する。胎土は灰色で精良である。

柱痕跡及び抜取穴出土遺物

須恵器皿(6) 皿Cである。内面、体部外面を回転ナデ調整し、底部外面はヘラキリ後未調整である。胎土は灰色で精良である。

須恵器杯(7) 杯Cである。表面劣化のため調整等は不明である。胎土は灰白色で精良である。

これらの遺物は平城IV・Vに該当し奈良時代中～後期のものである。

SB075 出土遺物 (図47)

須恵器甕(8) 甕Cである。内外面回転ナデ調整を行い、胎土は灰色で精良である。

SB095 出土遺物 (図48)

柱根(9) 腐食が著しく、本来の形状をほとんど保たないが、およそ径28cmの柱材を復元できる。下端面には丁斧の痕跡が多数残る。

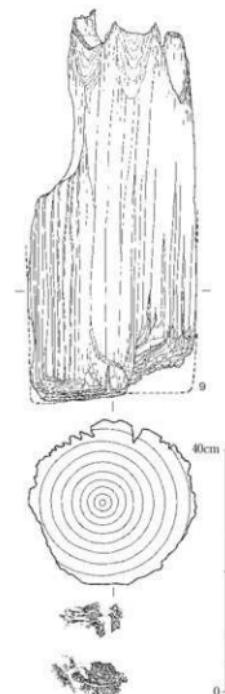


図48 SB095 出土遺物実測図 (S:1/3)

SB100 出土遺物 (図 49、写真図版 15)

柱掘方出土遺物

須恵器杯 (10・11) 杯 B である。10は外面回転ナデ調整を行い、ナデは外底面に及ぶ。胎土は淡灰褐色で精良である。11はやや湾曲する体部を有し、外面回転ナデ調整を行う。底部外面はヘラキリの後ナデ調整を行う。底部外面には「供」「行」「□」の墨書きが見られる。胎土は灰色で白色粒子を少量含む。

須恵器蓋 (12) 杯蓋である。外面回転ナデ調整のち天井部 1/2 を回転ヘラケグリする。胎土は暗灰色で黒色粒子を少量含む。焼成は不良で軟質である。

土師器蓋 (13) 小型壺である。いわゆる都城型壺の形態を呈し、体部下半をナデ調整、上半を粗い縦ハケ調整し、口縁部内面を横方向にハケ調整する。内面には當て具痕が残る。前面にわたり著しく被熱し、体部下半には二次焼成以前もしくは同時期の剥離痕が残る。

軒丸瓦 (14) 内区に 7 畑復弁蓮華文、外区に唐草文帯と鋸歯線を有し、中房朱点 9 を数える。6348Aa 型式

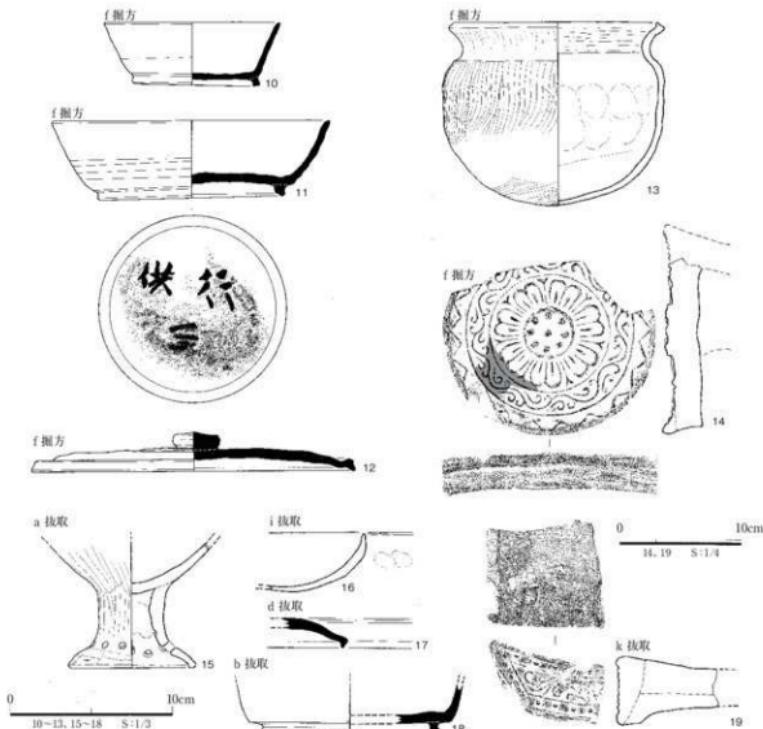


図 49 SB100 出土遺物実測図 (S:1/3 S:1/4)

のものである。

柱痕跡および柱抜き取穴出土遺物

弥生土器高杯(15) 中空で裾部が強く聞く脚部を有し、裾部には9つの円孔を穿つ。内面全面ナデ調整、外面縦方向のヘラミガキを施し、裾部は横方向のヘラケズリを行う。胎土は暗褐色で長石・石英・雲母片を含む。

土師器椀(16) 椭Aである。内湾する体部を有し、表面劣化のため調整等は不明である。胎土は橙褐色で精良である。

須恵器蓋(17) 杯蓋である。内外面回転ナデ調整を行い、天井部1/2を回転ヘラケズリする。胎土は灰色で白色粒子を多く含み、精良である。

須恵器杯(18) 杯Bである。高台はやや内側につき、内外面回転ナデ調整、外底面はヘラキリ後ナデ調整を行う。

軒平瓦(19) 唐草文軒平瓦である。範の修理痕跡が見られる。凹部布目圧痕、凸部ナデ調整を行い、顎形態は曲線彫である。胎土は灰色で精良である。

これらの遺物はSE110との切り合いを勘案すると平城IVに相当するものと考えられ、奈良時代中期のものであると推定できる。

SB200 出土遺物（図50、写真図版15）

掘方出土遺物

土師器皿(20・21) 共に皿Aである。20は口縁端部を小さく玉縁に成形し、体部外面全面を手持ちヘラケズリする。内面は表面劣化のため調整等不明である。胎土は橙褐色で精良である。内外面二次焼成を受ける。21は内外面表面劣化が著しいが、外面手持ちヘラケズリ、内面ナデ調整を行うと考えられる。胎土は褐色で長石粒をやや多く含む。

須恵器杯(23) 直線的な体部を有し、内外面回転ナデ調整を施す。胎土は灰色で精良である。

須恵器蓋(24～28) いずれも杯蓋である。24は内外面回転ナデ調整を施し、内面には僅かに墨の付着が確認できる。胎土は淡褐色で精良である。25は内外面回転ナデの後、天井部内面を不定方向のナデ調整で仕上げる。胎土は淡褐色で、径2mm程度の長石粒を含む。26は内外面回転ナデの後、天井部内面を不定方向のナデ調整で仕上げる。内面には墨の付着が認められる。胎土は灰色で精良である。27は内外面回転ナデ調整の後、天井部内面に不定方向のナデ調整を施す。内面には墨の付着が認められる。胎土は灰色で、微細な長石粒を多く含む。28は内外面回転ナデ調整を施す。胎土は灰色で精良である。

木製品(29) 点け木である。顯著な加工痕は認められないが、先端部に炭化が認められる。

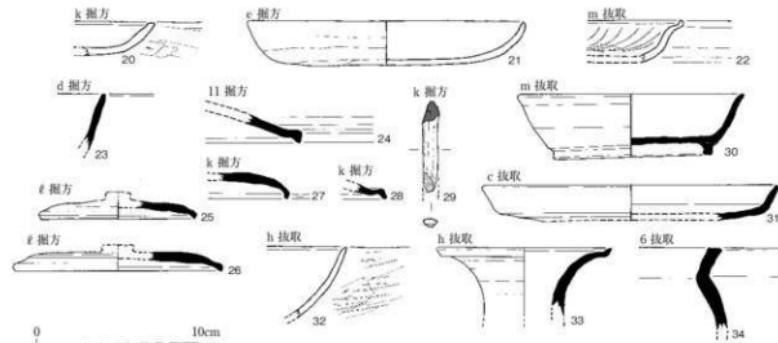
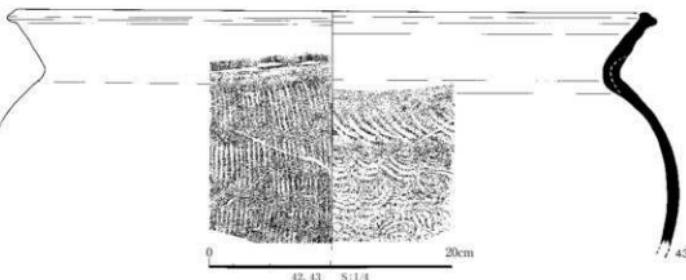
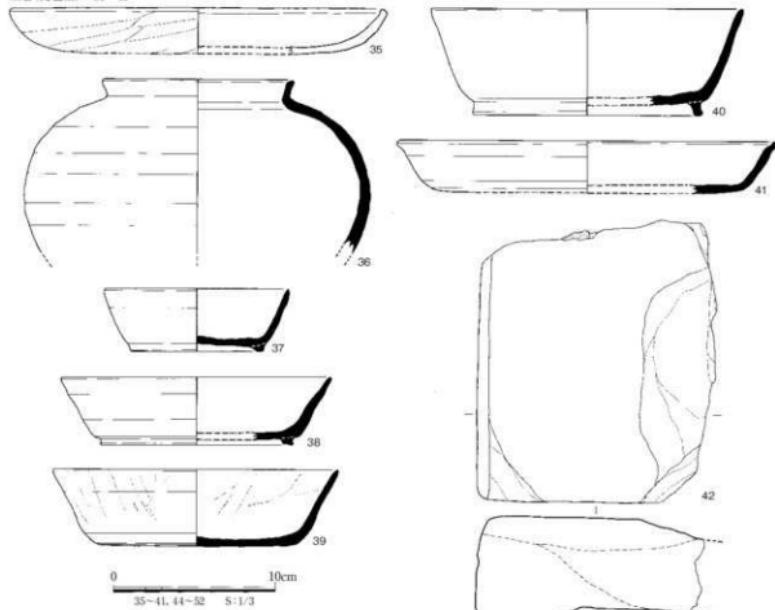


図50 SB200 出土遺物実測図 (5:1/3)

上層(褐色土) 35~43



下層(灰色粘土) 44~60

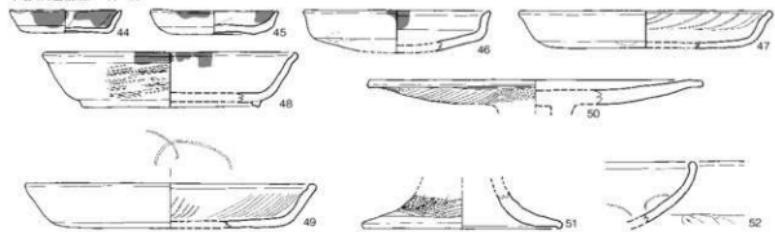


図 51 SE055 出土遺物実測図 (1) (S : 1/3 S : 1/4)

柱抜取り穴及び柱痕跡出土遺物

土師器杯 (22) 杯 A である。口縁を玉縁に形成する。外面体部下半を手持ちヘラケズリし、内面には粗い放射状暗文を施す。

土師器椀 (32) 楓 A である。内面ナデ調整、外面手持ちヘラケズリの後分割ヘラミガキを施す。胎土は橙褐色で精良である。

須恵器杯 (30) 杯 B である。内外面回転ナデ調整を行い、底部外面はヘラキリの後ナデ調整を行う。胎土は灰色で、微細な長石粒をやや多く含む。この遺物は柱穴 d と m の間で遺構間接合した。

須恵器皿 (31) 皿 C である。内外面回転ナデ調整を行い、底部はヘラキリ後未調整である。胎土は灰色で精良である。

須恵器壺 (33) 壺 L の口縁部と考えられる。口縁端部を短く上方へ摘み上げ、内外面回転ナデを施す。胎土は淡灰色で精良である。

須恵器甕 (34) 甕 C である。内外面回転ナデ調整を行い、胎土は灰色で精良である。

これらの遺物は平城 IV に相当するもので、奈良時代中期のものである。

SE055 出土遺物 (図 50・51、写真図版 16)

褐色土(上層)出土遺物

土師器皿 (35) 皿 A である。玉縁に成形し屈曲する口縁部を持つ。外面全面を手持ちヘラケズリし、内面ナデ調整を施す。暗文は見られない。胎土は橙褐色で精良である。

須恵器壺 (36) 壺 A である。体部は球胴形を呈し、口縁部は若干開き気味である。内外面回転ナデ調整を施す。胎土は灰褐色で微細な長石粒をやや多く含む。

須恵器杯 (37 ~ 40) 37 は杯 B である。内外面回転ナデ調整を施し、底部外面はヘラキリの後ナデ調整する。高台接地部は磨滅する。胎土は灰色で微細な長石粒を少量含む。38 は杯 B である。外側へ張る高台をやや内側に貼り付け、内外面回転ナデ調整する。底部外面はヘラキリの後ナデ調整する。胎土は淡灰色で長石粒を多く含む。

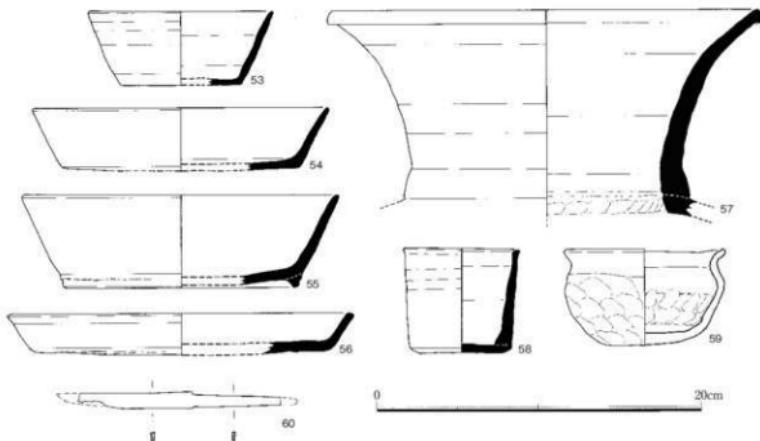


図 52 SE055 出土遺物実測図 (2) (5 : 1/3)

口縁部の一部に被熱痕が見られる。39は杯Aである。内外面回転ナデ調整の後、外面体部下端から底部にかけて丁寧な回転ヘラケズリを施す。胎土は淡灰色で黒色粒子を多く含む。内外面に火襷が見られる。40は杯Bである。内外面回転ナデの後底部外面をナデ調整する。胎土は灰色で長石粒を少量含む。41は杯Cである。小さく外反して玉縁に成形する口縁端部を有する。表面劣化のため調整等は不明である。胎土は灰白色を呈し精良である。

壺(42) 大型の方形壺である。表面劣化のため調整等は不明である。破断面からは500~700g程度の粘土塊を結合させて成形した痕跡が確認できる。胎土は灰白色で径3~30mmの礫を少量含む。

須恵器壺(43) 壺Cである。外面タタキ痕、内面同心円のあて具痕が残る。胎土は灰色で、長石粒と黒色粒子を少量含む。

灰色粘土(下層)出土遺物

土師器皿(44~46) いずれも皿Cである。44は皿Cである。体部外面に粘土紐の痕跡、内面に板状工具によるナデ痕が残り、口縁部の3ヵ所に煤が付着する。胎土は淡褐色でやや雲母を多く含む。45は内面に板状工具によるナデ痕が、底部外面には回転糸切りの痕跡を板状工具によりナデ消した状況が観察できる。口縁部は4個所にわたり煤の付着が認められる。胎土は淡褐色でやや雲母を多く含む。46は底部ユビオサエの後、内外面ナデ調整を施す。残存する限り2箇所に煤の付着が認められる。胎土は淡褐色で精良である。

土師器皿(47~49) 47は杯Aである。内外面ナデ調整を施し、体部内面に放射状暗文、内面見込み部に粗いラセン状暗文を施す。胎土は淡褐色で精良である。48は杯Bである。内面ナデ調整を施し、外面密なヘラミガキを行う。内面に暗文は見られない。口縁部には複数の煤の付着が見られる。胎土は褐色で精良である。49は杯Aである。底部ユビオサエの後内外面ナデ調整を施す。体部内面放射状暗文、内面見込み部に粗いラセン状暗文を施す。胎土は褐色で精良である。

土師器高杯(50・51) ともに高杯Aで、同一個体の可能性がある。50は杯部である。内外面ナデ調整の後、内面に粗いラセン状暗文、外面に5分割のヘラミガキを行う。51は脚部である。内外面ナデ調整の後外面を密に分割ヘラミガキし、内面被熱する。50・51共に胎土は褐色で精良である。

土師器鉢(52) 鉢Bである。内外面ナデ調整の後、体部外面下半を手持ちヘラケズリし、内面に粗いセン状暗文を施す。胎土は淡褐色で精良である。

須恵器鉢(53・58) 53は碗Aである。外面回転ナデ、底部外面ヘラキリの後、底部外面を回転ヘラケズリする。胎土は淡灰褐色で長石粒を多く含む。58は蕎麦猪口形の椀である。内外面回転ナデ調整、底部外面回転糸切りの後、外縁部を丁寧に回転ヘラケズリする。胎土は灰褐色で長石粒をやや多く含む。

須恵器鉢(54・55) 54は杯Aである。外面回転ナデ調整、底部外面ヘラキリの後ナデ調整を行う。胎土は灰色で精良である。55は杯Bである。外面回転ナデ調整、底部外面ヘラキリの後ナデ調整を行う。胎土は灰色で長石粒をやや多く含み、焼成は軟質である。

須恵器皿(56) 皿Cである。内外面回転ナデ調整、底部外面ヘラキリの後未調整で仕上げる。胎土は灰白色で精良である。

須恵器壺(57) 壺Aである。広く開く口縁部を有し、口縁端部は面を持ち僅かに下方へ垂下する。内外面ナデ調整を行い、表面には黒色の塗布物をハケ塗りする。胎土は暗赤灰色で精良である。

土師器壺(59) 壺Bである。内外面ユビオサエ成形の後、内面全面と口縁部内外面をナデ調整する。胎土は暗橙褐色で微細な長石・雲母片をやや多く含む。

鉄製品刀子(60) 先端部および柄端部を欠損する。使用による磨耗は少ない。

これらの遺物は上下層とともに平城Ⅲ~Ⅳに相当するもので、奈良時代中期のものである。

SE085 出土遺物（図 53～55、写真図版 17・18）

土師器杯（61～73・75・76） 61は杯Cである。内外面ナデ調整を施し、内面には板状工具の痕跡が残る。胎土は橙褐色で精良である。62は杯Cである。内外面ナデ調整を施し、底部外面を手持ちヘラケズリする。胎土は褐色で砂粒を少量含む。63は杯Cである。内外面ナデ調整を施し、底部外面を手持ちヘラケズリする。口縁部の一部に黒斑を有する。64は杯Cである。内外面ナデ調整を施し、内底面に4回転前後のラセン状暗文、体部内面に放射状暗文を施す。底部外面には手持ちヘラケズリを施し、内面及び口縁部には煤が多量に付着する。内面ナデ調整の下に板状工具による連続したナデ痕跡が残る。胎土は褐色で砂粒を多く含む。65は杯Aである。内外面ナデ調整を施し、内底面にラセン状暗文、体部内面に放射状暗文を施す。底部外面には手持ちヘラケズリを施す。胎土は淡褐色で精良である。66は杯Aである。内外面ナデ調整を施し、体部内面に放射状暗文、体部外面に横方向のヘラミガキを施す。内底面のラセン状暗文については表面劣化のため判別できない。胎土は橙褐色で精良である。67は杯Aである。内外面ナデ調整を施し、底部外面には手持ちヘラケズリを施す。表面劣化のため暗文等は不明である。胎土は淡灰褐色で精良である。68は杯Aである。内外面ナデ調整を施し、底部外面には手持ちヘラケズリを施す。口縁部に煤の付着が観察でき、暗文は見られない。胎土は橙褐色で砂粒を多く含む。69は杯Aである。内外面ナデ調整、底部外面に手持ちヘラケズリを施す。暗文は観察できない。胎土は橙褐色で精良である。70は杯Aである。内外面ナデ調整、底部外面に手持ちヘラケズリを施す。体部外面には密な分割ヘラミガキを施す。内面の暗文は観察できない。胎土は橙褐色で精良である。71は杯Aである。内外面ナデ調整を施し、体部内面には放射状暗文、底部外面に手持ちヘラケズリを施す。胎土は橙褐色で精良である。72は杯Aである。内外面ナデ調整、底部外面に手持ちヘラケズリを施す。暗文は観察できない。胎土は橙褐色で精良である。73は杯Aである。内外面ナデ調整、外面に手持ちヘラケズリの後ヘラミガキを施す。内面の暗文は観察できない。胎土は橙褐色で精良である。75は杯Bである。内外面表面劣化のため調整等は不明だが、外面に手持ちヘラケズリとヘラミガキの痕跡が残る。胎土は褐色で砂粒を多く含む。内底面に縦横4本の格子状の焼成後線刻を有する。76は杯Bである。内面ナデ調整、外面密なヘラミガキを施す。胎土は橙褐色で精良である。内底面に縦横2本の格子状の焼成後線刻を有する。

土師器蓋（74） 口縁端部を玉縁に成形し、内外面ナデ調整、外面にヘラミガキを施す。胎土は橙褐色で精良である。

土師器高杯（77） 高杯Aである。短い脚部と強く広がる裾部を有する。脚部は10面の面取りを行い、内面にはシボリ痕とハケ調整が確認できる。胎土は橙褐色で砂粒を多く含む。

土師器椀（78） 椭Cである。内面ナデ調整、外面ユビオサエの後手持ちヘラケズリを行う。胎土は淡褐色で精良である。外底面には「人絵」の墨書が残る。

土師器盤（79・80） ともに盤である。いずれも内面ナデ調整、外面横方向の密なヘラミガキを施し、胎土は橙褐色で精良である。80の外面には漆が付着する。

須恵器杯（81～85） 81は杯Bである。内外面回転ナデ調整、底部外面ヘラキリの後ナデ調整を行う。胎土は灰色で精良である。82は杯Bである。内外面回転ナデ調整、底部外面ヘラキリの後ナデ調整を行う。胎土は灰色で長石粒をやや多く含む。口縁部および底部付近に煤が付着し、煤は破断面にも付着することから、破損後灯明皿に転用された可能性が考えられる。83は杯Cである。内外面回転ナデ調整、底部外面ヘラキリの後軽くナデ調整を行う。胎土は灰色で長石粒をごく少量含み精良である。外底面には墨の付着が見られる。84は杯Cである。内外面回転ナデ調整、底部外面ヘラキリの後軽くナデ調整を行う。胎土は灰色で長石粒をごく少量含み精良である。外底面には墨の付着が見られる。85は杯Bである。内外面回転ナデ調整、底部外面ヘラキリの後軽くナデ調整を行う。胎土は灰色で長石粒をごく少量含み精良である。

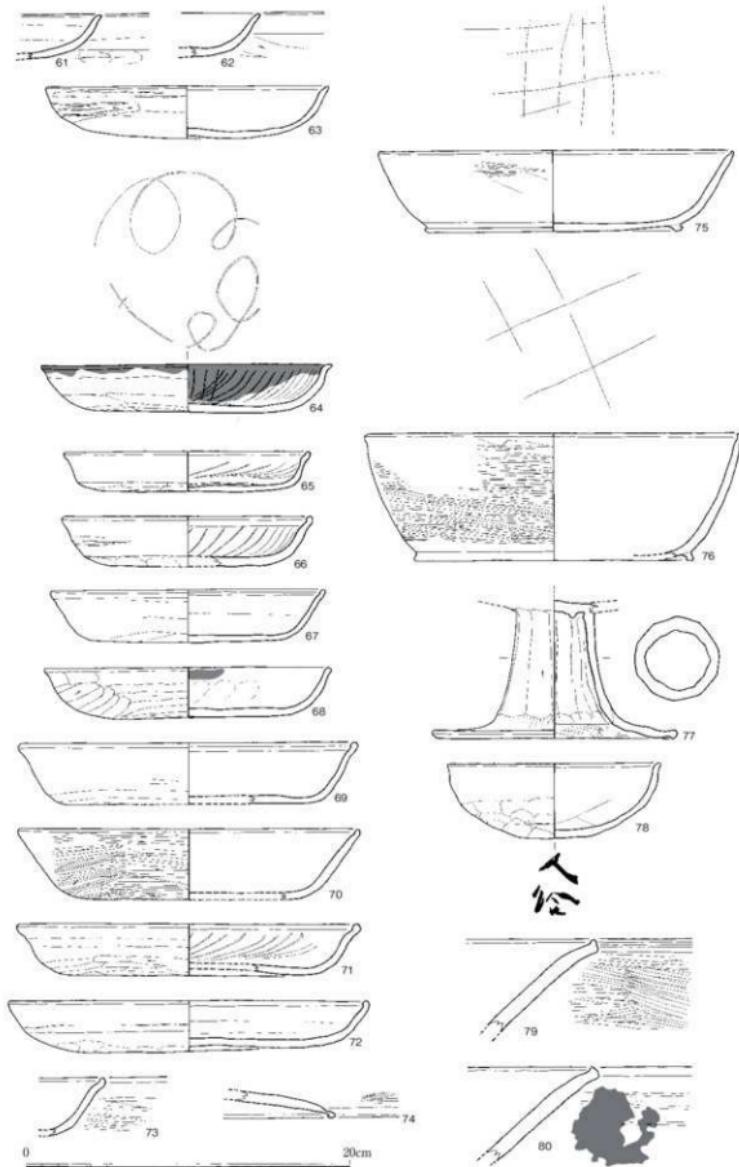


図53 SE085 出土遺物実測図(1) (S:1/3)

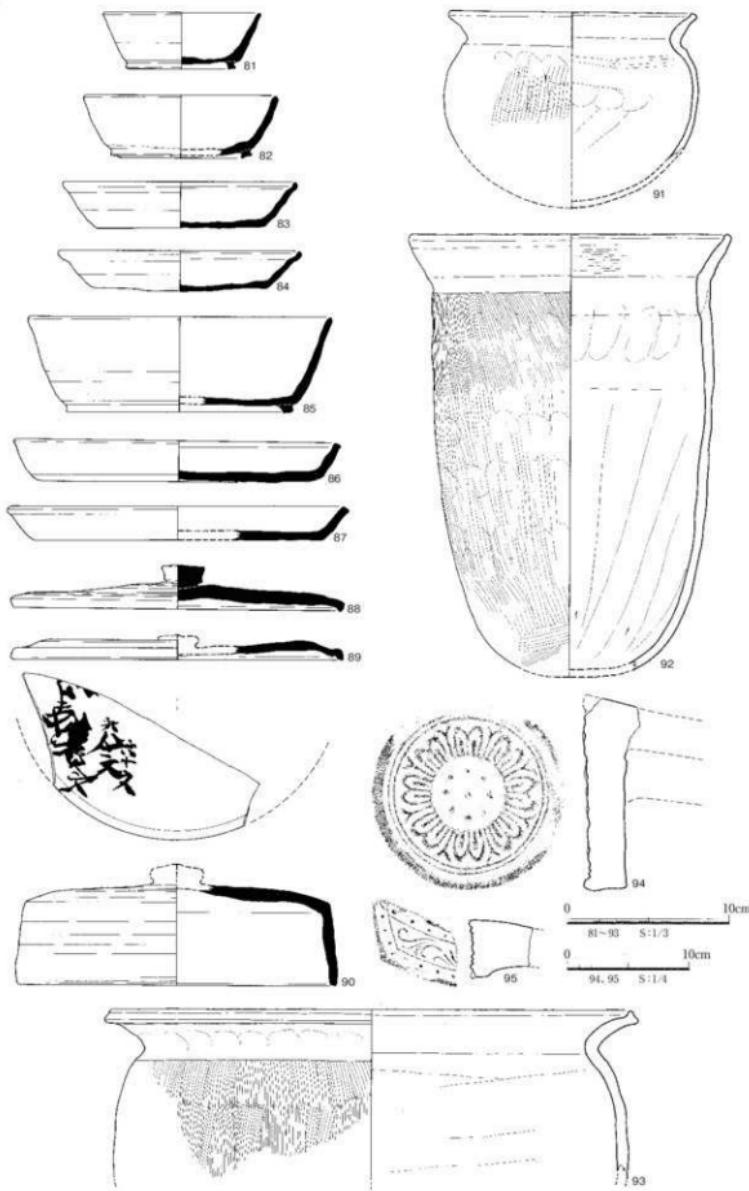


図54 SE085出土遺物実測図(2) (S:1/3 S:1/4)

須恵器皿（86・87） いずれも皿Cである。86は内外面回転ナデ調整、底部外面ヘラキリの後軽くナデ調整を行う。胎土は灰色で長石粒をごく少量含み精良である。口縁の2箇所に煤の付着が見られる。87は内外面回転ナデ調整、底部外面ヘラキリの後回転ヘラケズリする。胎土は灰色で精良である。

須恵器蓋（88・89・90） 88は内外面回転ナデ調整を行う。胎土は灰色で長石粒をごく少量含み精良である。天井部内面には墨の付着が見られる。89は内外面回転ナデ調整を行う。胎土は灰色で精良である。天井部内面には「六十文」や「中」など多数の墨書が存在する。90は蓋A蓋である。内外面回転ナデ調整、天井部外面丁寧な回転ヘラケズリを施す。胎土は灰褐色で長石粒をごく少量含み精良である。

土師器甕（91～93） 91は甕Aである。オサエの後内面板状工具によるナデを施す。外面は縦方向の1次ハケを残す。胎土は灰白色で砂粒を少量含む。92は長胴型タイプの甕Aである。内面板状工具による縦方向のナデ調整、外面オサエの後縦方向のハケ調整を施し、口縁部内面は横方向のハケ痕跡をナデ消す。胎土は淡褐色で比較的精良である。93は甕Aである。内面板状工具による横方向のナデ調整、外面オサエの後縦方向のハケ調整を施す。胎土は淡褐色で比較的精良である。

軒丸瓦（94） 内区に8弁復弁蓮草文、外区二重圓線を有し、中房朱点9を数える。6227A型式のものである。

軒平瓦（95） 均等唐草文と考えられる。中心飾りは不明。曲線頭で頸部を横方向にナデ調整する。平瓦部凸面は縦位のヘラナデを行う。胎土は灰褐色で微細な長石・石英粒を多量に含む。6691F型式のものである。

木製品（96～100） いずれも点け木と考えられる。折損しているものが多く、当初の長さは不明だが、一端が炭化する。針葉樹材を使用しており、側面に加工を持つものが多い。

これらの遺物は平城Ⅲ～Ⅳに相当するもので、奈良時代中期のものである。

SE110出土遺物（図56～60、写真図版19・20）

掘方出土遺物

須恵器甕（101） 甕Cである。外面タタキ調整を行い、内面には同心円状のあて具痕が残る。肩部内面には口縁部や体部とは明らかに異なる土を貼り付け、強いナデを施した後、棒状工具によりナデ付けた痕跡が残る。胎土は灰色で精良である。

枠内出土遺物

土師器椀（102） 椭Aである。内面ナデ調整、外面手持ちヘラケズリの後ヘラミガキを施す。胎土は淡褐色でクサリ礫をやや多く含む。

土師器杯（103） 杯Aである。内外面ナデ調整の後内面放射状暗文を施す。胎土は淡褐色で精良である。

土師器皿（104） 皿Aである。内外面ナデ調整、外面手持ちヘラケズリの後、外面全面に丁寧なヘラミガキを行う。ヘラミガキは底部外面全面に及ぶ。口縁の一部に煤の付着が見られる。胎土は褐色で長石粒、雲母片を少

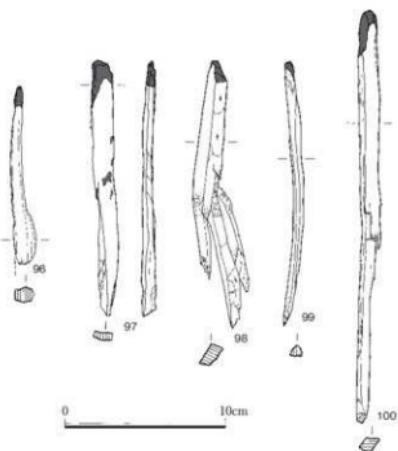


図55 SE085出土遺物実測図（3）（5:1/3）

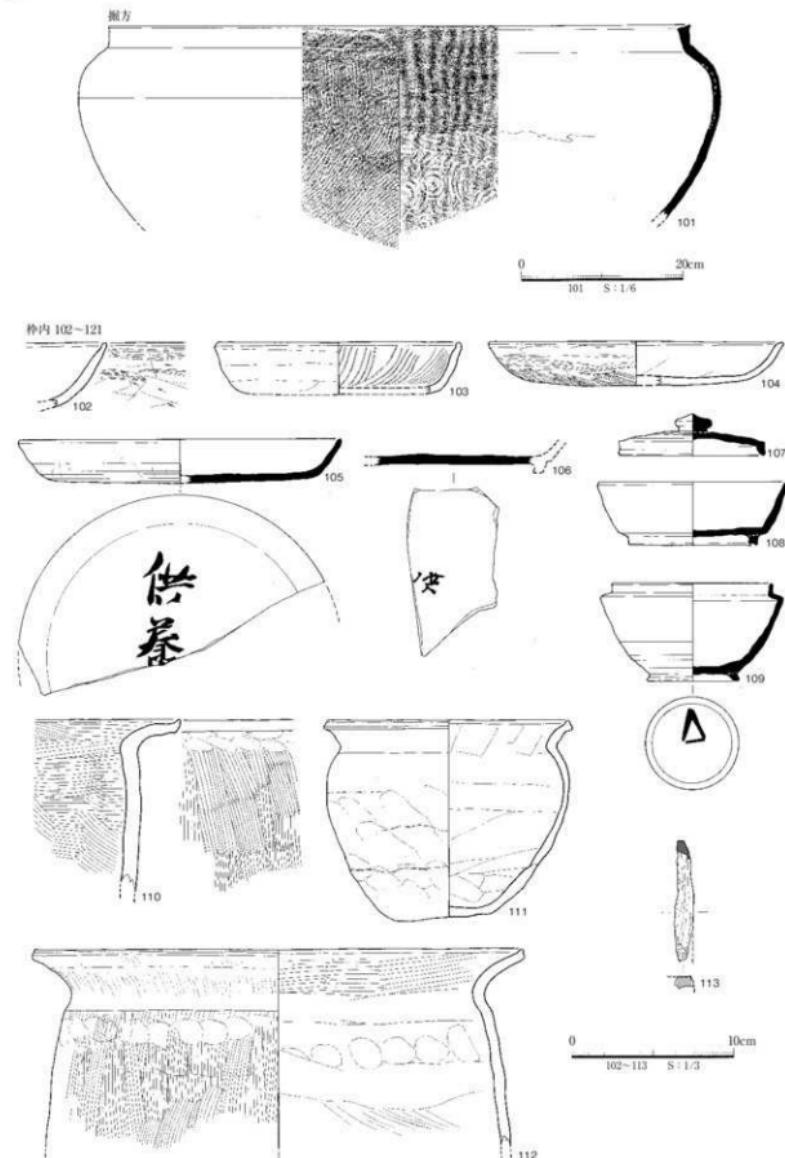


图 56 SE110 出土遗物実測図 (1) (S : 1/6 S : 1/3)

量含む。

須恵器皿(105) 皿Aである。内外面回転ナデ調整を行い、底部外面はヘラキリの後丁寧な回転ヘラケズリを行う。底部外面には「供養」の墨書きが見られる。胎土は淡灰色で黒色粒子を多く含む。

須恵器皿(106・108) ともに杯Bである。106は内面不定方向のナデ調整、外面ヘラキリの後ナデ調整を行う。底部外面には「供」の墨書きが見られる。108は内外面回転ナデ調整し、底部外面はヘラキリの後ナデ調整する。高台接地面には磨滅痕跡が見られる。胎土は灰色で精良である。

須恵器蓋(107) 蓋とと考えられる。内外面回転ナデ調整の後、天井部外面2/3を回転ヘラケズリする。内面は墨が多量に付着し、磨滅が著しい。天井部外面には輪状に磨滅が見られることから、杯上に逆位に設置することで、硯として利用したものと考えられる。

須恵器蓋(109・115) 109は蓋Eである。内外面回転ナデ調整を行い、底部外面はヘラキリの後未調整である。高台接地面は磨滅する。底部外面には「△」の墨書きが見られる。胎土は灰色で黒色粒子を多く含む。115は蓋Aである。内外面回転ナデ調整を施し、底部外面はヘラキリの後ナデ調整を行う。胎土は灰色で長石粒を多量に含む。

土師器甕(110・112・114) いずれも甕Aである。110は直立する体部と、水平に開く口縁部を有する。外面縦方向、内面横方向の粗いハケ調整を施し、外面のハケ調整は口縁

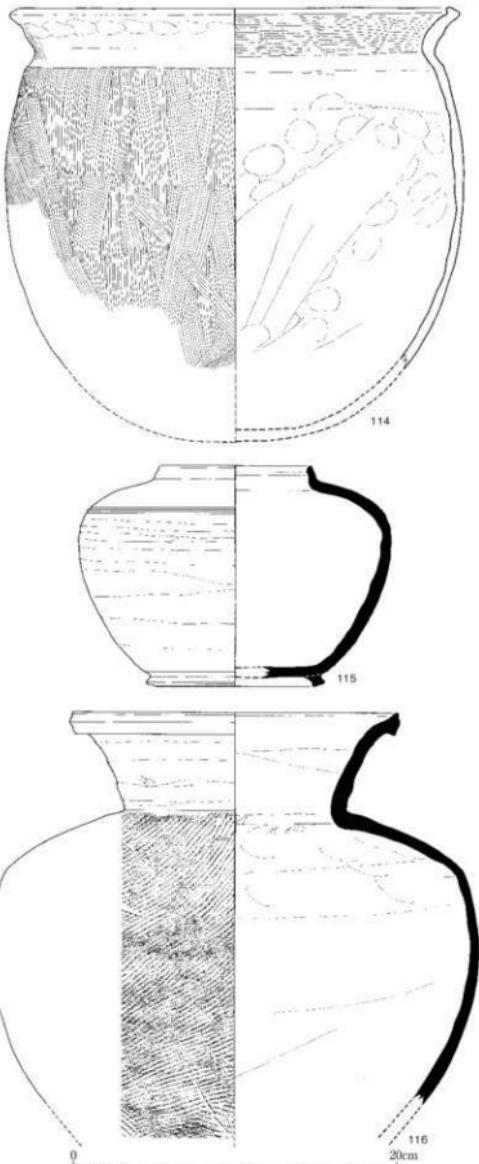


図57 SE110出土遺物実測図(2)(S:1/3)

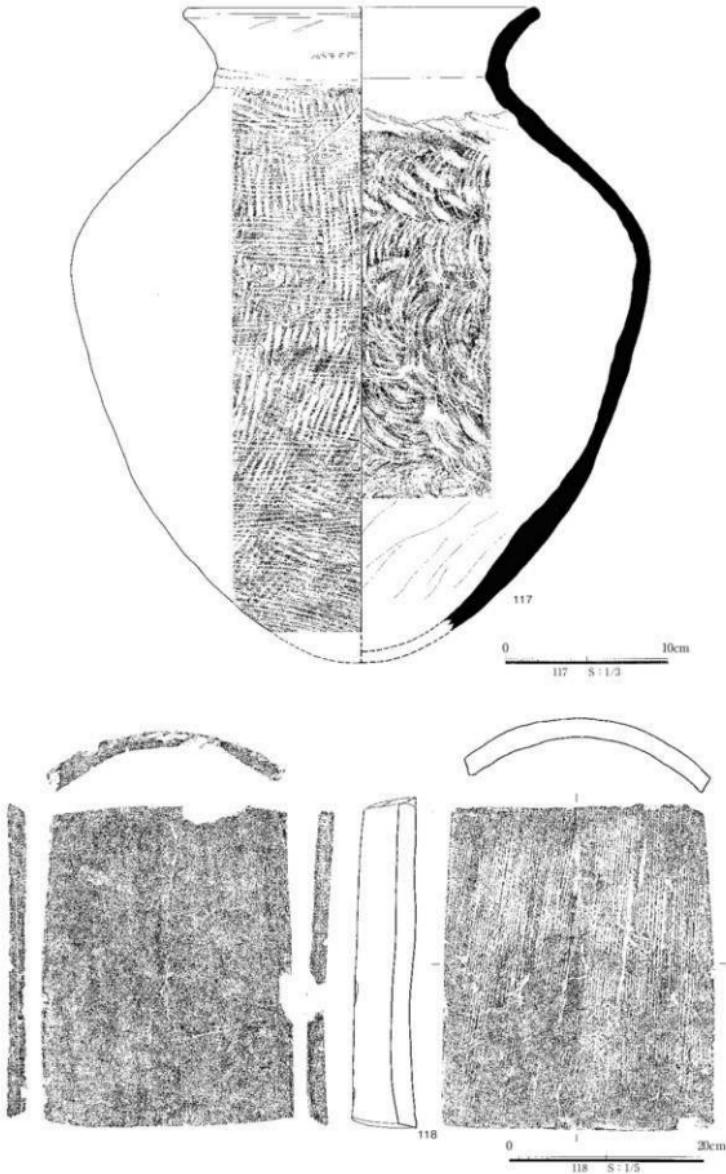


図58 SE110 出土遺物実測図 (3) (S: 1/3 S: 1/5)

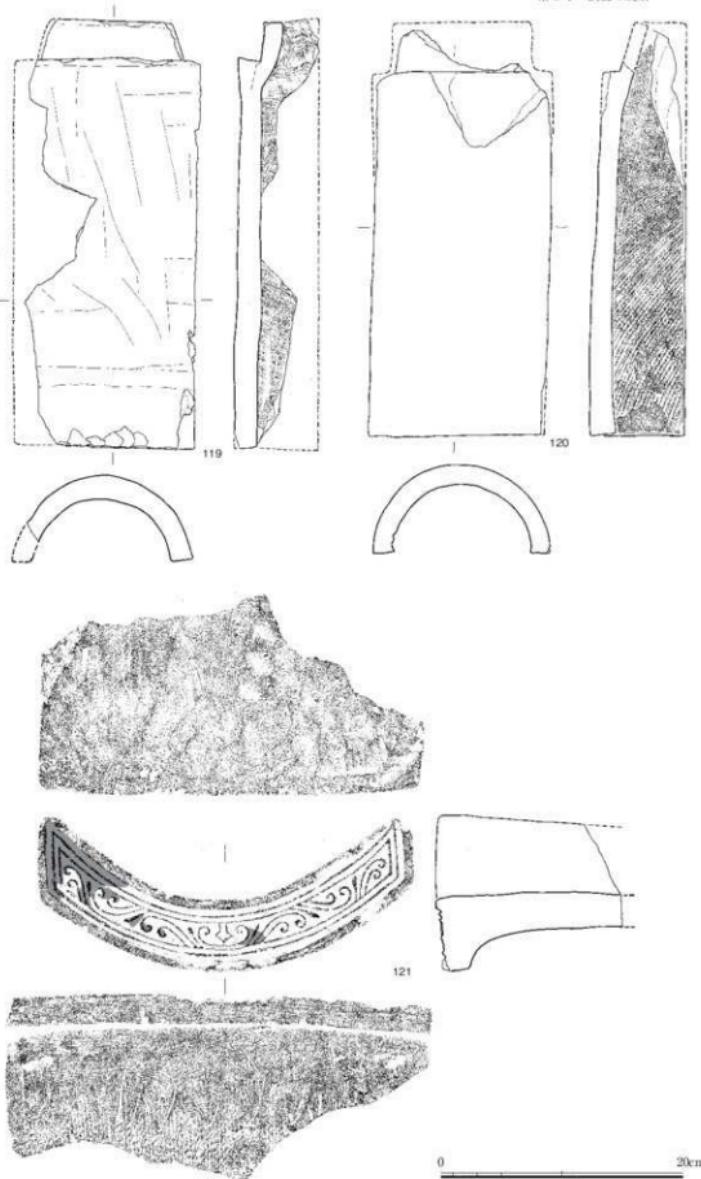


図59 SE110 出土遺物実測図 (4) (S:1/4)

部に達しない。胎土は淡褐色を呈し、長石粒をやや多く含む。内外面ともに煤の付着が見られ、一部は破断面に達する。112は外面縦方向の粗い1次ハケの後、同方向の細かい2次ハケ調整を施す。1次ハケは口縁部外面に達する。内面は當て具痕を有し、口縁部は横方向の粗いハケをナデ消す。外面には被熱痕と煤の付着が見られる。胎土はサンドイッチ構造を有し、褐色で長石粒を少量含む。114は外面縦方向の粗い1次ハケの後、同方向の細かい2次ハケ調整を施す。1次ハケは口縁部外面に達する。内面は縦方向の板状工具によるナデ調整、口縁部には横方向の粗いハケ調整を施す。外面には被熱痕と煤の付着が見られる。

土師器壺(111) 壺Bである。外面ユビオサエの後ナデ調整、内面板状工具によるナデ調整を行う。胎土は橙褐色で精良である。

木製品(113) 点け木である。加工痕は明瞭でなく、一端が炭化する。

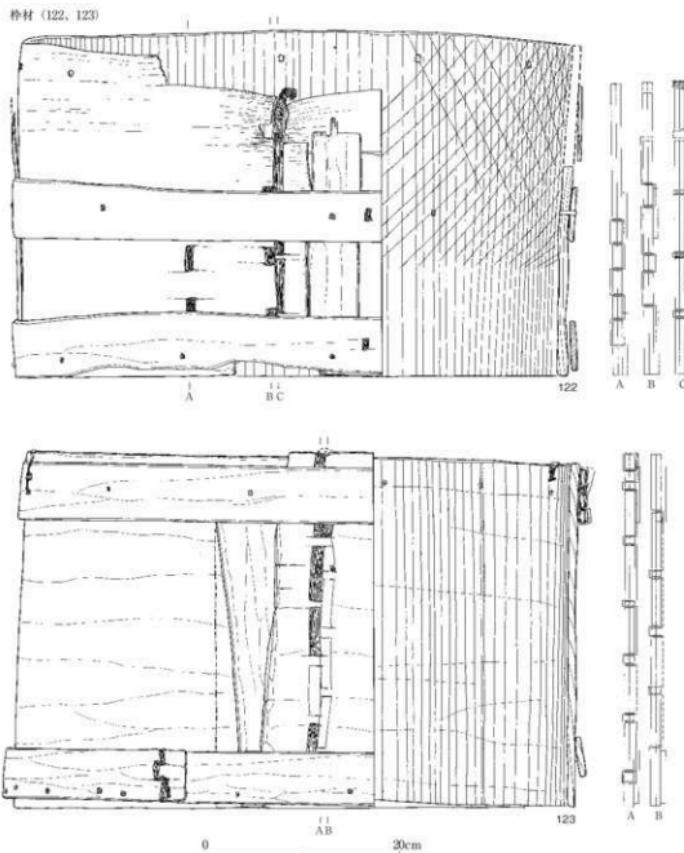


図60 SE110 出土遺物実測図 (5) (5 : 1/5)

須恵器甕(116・117)ともに甕Aである。116は外面右上がりのタタキ痕を有し、内面は無紋の當て具痕をナデ消す。外面のタタキ痕は頸部に達しない。胎土は灰色で精良である。117は外面縦方向のタタキの後カギメ調整を施し、内面には同心円當て具痕を残す。口縁接合の際のナデは内面の當て具痕を消す。胎土は淡灰色で径2mm程度の長石粒を多量に含む。

平瓦(118)凸面縦位繩タタキ、凹面布目を有し、桶巻造りのものである。広端面内面1/4をナデ調整し、各端面はヘラケズリする。胎土は淡灰色で2~7mmの長石粒を含む。内外面被熱痕を有し、内面は瓦が重なる部分は熱を受けない。こうした状況から、葺かれた状態で被熱したことが推定できる。

丸瓦(119・120)119は粘土紐積み上げで成形し、外面横方向の板状工具によるナデ調整の後、縦方向のナデ調整を行い、内面は切り離しの後全面に布目を有する。胎土は淡灰色で精良である。内外面被熱する。120は粘土紐積み上げで成形し、外面縦位繩タタキの後、縦方向のナデ調整を行い、内面は切り離しの後全面に布目を有する。胎土は淡灰褐色で1mm程度の長石粒を多量に含む。内外面被熱する。

軒平瓦(121)単位文様を3回反転した均等唐草文で、中心飾りは花頭形、外区・脇区の文様は二重團線となる。曲線頭で頸部を横方向にナデ調整する。平瓦部凸面は縦位の繩目タタキを行い、頸部をナデ調整する。凹面は布目痕を有し、瓦当部分をナデ消す。胎土は灰褐色で微細な長石・石英粒を多量に含む。6663J型式のものである。

曲物(122・123)122は厚さ約5mmの針葉樹板目材を、内側に切れ込みを入れて曲げ、上下二段の箍を嵌める。本体の連結部は3列に渡って樹皮で綴じ、箍は木釘で留める。123は厚さ約5mmの針葉樹板目材を、内側に切れ込みを入れて曲げ、上下二段の箍を嵌める。本体の連結部は2列に渡って樹皮で綴じ、箍は木釘で留める。底板は木釘で留められたと考えられるが、残存しない。

これらの遺物は平城Ⅲ~Ⅳに相当するもので、奈良時代中期のものである。

SE125(図61、写真図版20)

掘方出土遺物

土師器高杯(124)高杯Aである。直線的な体部を持ち、口縁端部は面を形成して僅かに上方へ引き出す。内外面ナデ調整の後、外面分割へラミガキ、内面粗いラセン状暗文を施す。胎土は褐色でクサリ礫をやや多く含む。

須恵器杯(125)杯Aである。内外面回転ナデ調整、底部外面はヘラキリの後丁寧に回転ヘラケズリする。ヘラケズリは体部下半に及ぶ。胎土は灰色で長石粒をやや多く含む。

枠内出土遺物

土師器椀(126)椀Aである。厚手で口縁端部は僅かに外反する。内外面ナデ調整、体部外面手持ちヘラケズリの後、体部外面を密に分割へラミガキする。ヘラミガキは丁寧で、ヘラケズリの痕跡をほとんど消している。胎土は橙褐色で精良である。

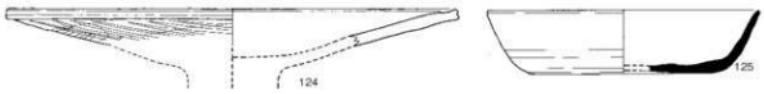
土師器杯(127)杯Aである。内外面ナデ調整の後、内面放射状暗文と連弧状暗文、外面分割へラミガキを行う。胎土は橙色で長石粒をやや多く含む。

土師器皿(128~130)いずれも土師器皿Aである。128は内外面ナデ調整、外面手持ちヘラケズリの後、体部内面に放射状暗文を施す。胎土は橙褐色で長石粒を少量含む。129は内外面ナデ調整、外面手持ちヘラケズリの後、体部内面に放射状暗文を施す。胎土は褐色で精良である。130は内外面ナデ調整を施し、暗文・ヘラミガキ等は見られない。胎土は橙褐色で長石粒を少量含む。

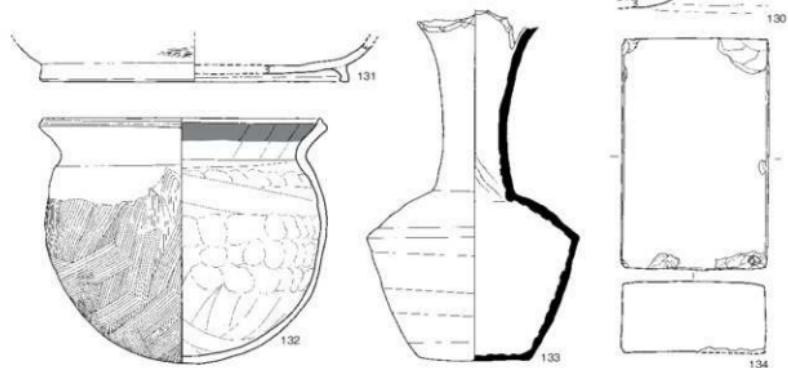
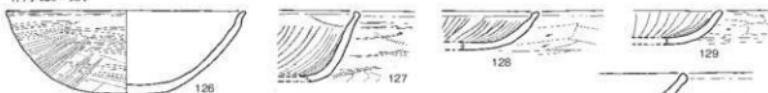
土師器鉢(131)鉢Cである。残存率が低いため、あるいは杯Bの可能性もある。内外面ナデ調整の後、外面を分割へラミガキする。胎土は褐色で精良である。

土師器甕(132)甕Aである。外面縦および斜め方向のハケ調整、内面ユビオサエの痕跡が残る。口縁部内面は横方向の板状工具によるナデ痕をナデ消す。内外面煤が付着し、被熱痕を有する。

図版 124、125



枠内 126~134



枠材 135

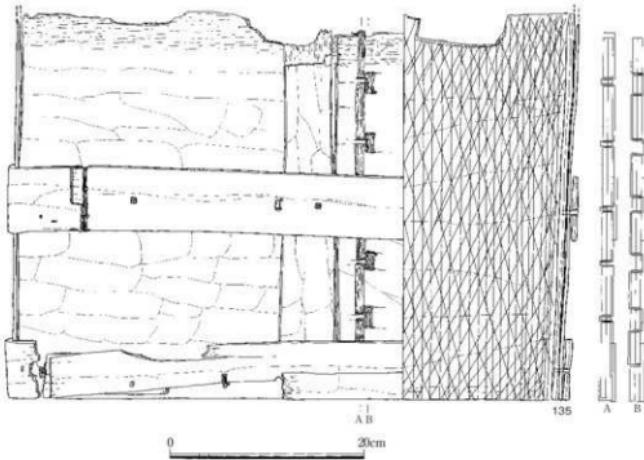


図 61 SE125 出土遺物実測図 (S : 1/3 S : 1/5)

須恵器壺(133) 壺Kである。内外面回転ナデ調整の後、体部下半から底部外面までを回転ヘラケズりする。口縁部は人為的な打ち欠きを行う。内面には漆が残存する。頸部の成形方法は不明である。胎土は灰色で黒色粒子を多く含む。

壺(134) 長方形壺である。全面ナデ調整を施す。胎土は灰褐色で、径5～15mmの砂礫をやや多く含みやや粗い。

曲物(135) 135は厚さ約5mmの針葉樹板目材を、内側に切れ込みを入れて曲げ、上下二段の籠を嵌める。本体の連結部は2列に渡って樹皮で縫じ、籠は木釘で留める。

これらの遺物は平城Ⅲに相当するもので、奈良時代中期のものである。

SK130 出土遺物(図62、写真図版21)

土師器高杯(136) 高杯Aである。内外面回転ナデ調整を施し、脚部を12面の面取りを行う。胎土は橙色で微細な砂粒を多く含む。

土師器蓋(137) 杯蓋である。表面劣化のため調整等は不明である。胎土は橙褐色で精良である。

須恵器蓋(138) 杯蓋である。内外面回転ナデの後天井部外面を回転ヘラケズりする。胎土は灰色で微細な長石粒を多量に含む。

須恵器椀(139) 内外面回転ナデ調整を行い、底部外面はヘラキリする。胎土は淡灰色で精良である。一見すると古様に見えるが、出土状況等から奈良時代のものであることは明らかである。同様の形態の椀は大和郡山市下三橋遺跡など平城京内の複数箇所で見つかっている。

これらの遺物は平城II～IVに相当するもので、奈良時代前～中期のものである。

SK364 出土遺物(図62)

土師器杯(140) 杯Aである。内外面表面劣化のため調整等は不明である。胎土は橙褐色で精良である。

土師器鉢(141) 鉢Aである。表面劣化のため調整等は不明であるが、外面にはわずかに手持ちヘラケズりの痕跡が見られる。胎土は橙褐色で精良である。

弥生土器壺(142・143) 142は短頸壺である。外面および内面口縁部をナデ調整、内面ユビオサエで調整する。胎土は1～2mmの長石粒を多量に含む。口縁部には煤の付着が見られる。弥生時代後期のものである。143は受け口状口縁を有し、口縁部直下に凹線を一条廻らせる。頸部には一箇所、貫通しない刺突を有する。内面粗い窓め方向のハケ調整、外窓め方向のハケ調整を施し、口縁部はナデ調整する。頸部には複数の刺突穴を有する。胎土は暗赤褐色で1mm程度の長石粒を多量に含む。弥生時代中期後半のものである。

SK366 出土遺物(図62)

土師器椀(144) 椭Cである。内外面表面劣化のため調整等不明である。胎土は微細な長石粒を多量に含みやや粗い。

土師器皿(145) 皿Aである。内外面ナデ調整の後、底部外面および体部下半を持ちヘラケズりする。胎土は淡褐色で精良である。

これらの遺物は平城IV～Vに相当するもので、奈良時代後半のものである。

SK371 出土遺物(図62、写真図版21)

須恵器蓋(146～148) 146は杯蓋である。内外面回転ナデ調整、天井部外面はヘラキリの後ナデ調整を行う。天井部内面は磨滅し墨痕が残ることから、硯として転用したことが窺える。147は杯蓋である。内外面回転ナデ調整、天井部外面はヘラキリの後ナデ調整を行う。天井部内面には漆が付着する。148は壺蓋である。内外面回転ナデ調整を行い、天井部外面はヘラキリの後全面回転ヘラケズりする。一部火ぶくれが見られるほか、天井部外面には砂が融着する。胎土は淡灰色で径1～8mmの長石粒を含むが、精良である。

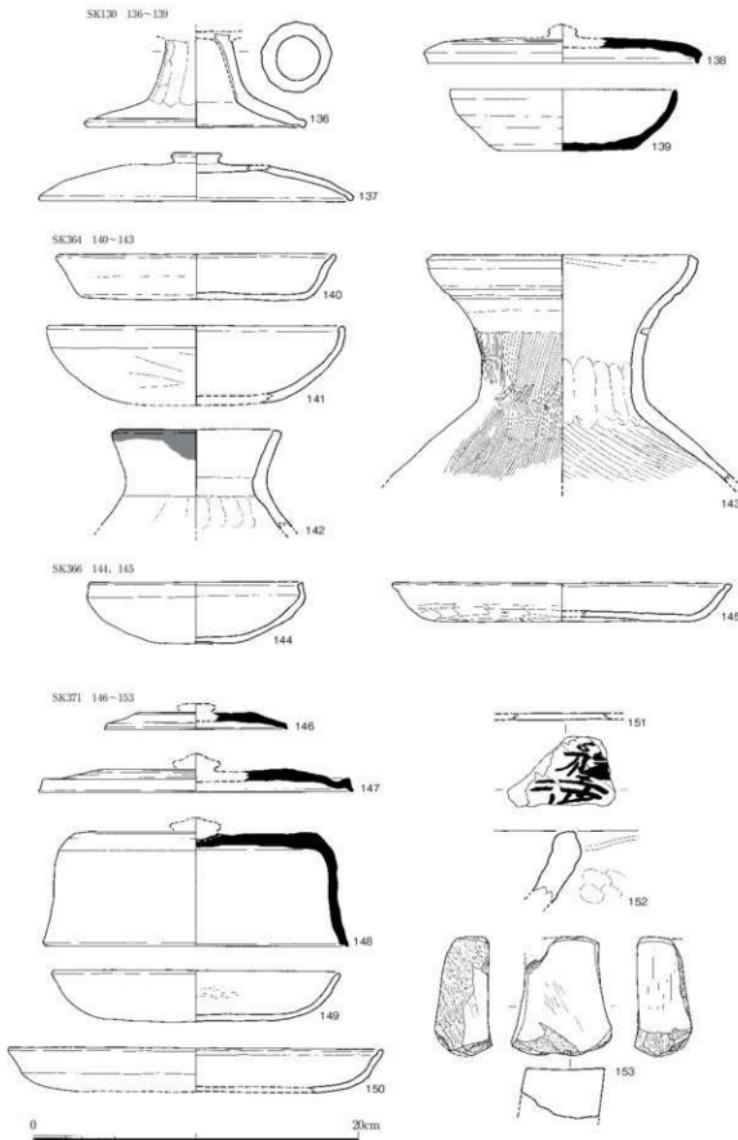


図62 SK130・364・366・371出土遺物実測図 (S:1/3)

土師器杯(149) 杯Cである。内外面ナデ調整、底部外面を手持ちヘラケズリする。胎土は橙褐色で精良である。

土師器皿(150・151) 150は皿Aである。内外面表面劣化のため調整等は不明である。胎土は橙褐色でクサリ疊を多く含む。151は内面ナデ調整、外側手持ちヘラケズリを行う。底部に墨書があるが、判読できない。胎土は橙褐色で精良である。

取瓶(152) 内外面ユビオサエ調整し、表面には織維質の圧痕を残す。内外面被熱し、内面は発泡する。胎土は灰色で、径1~2mmの長石粒と黒色粒子を多量に含む。

砥石(153) 分銅形を呈し、破断面以外のすべての側面に使用による磨滅が確認できる。材質は白色の流紋岩と考えられる。重量は約170gを測る。

SK372 出土遺物(図63、写真図版21)

須恵器蓋(154) 内面回転ナデ調整を行い、外側は表面劣化のため調整等不明である。天井部内面には漆の付着が見られる。

取瓶(155) 内外面ユビオサエ調整し、表面には織維質の圧痕を残す。内外面被熱し、内面は銅津と思われる溶解質が付着、発泡する。胎土は灰色で、径1~2mmの長石粒と黒色粒子を多量に含む。

砥石(156) 分銅形を呈し、破断面以外のすべての側面に使用による磨滅が確認できる。材質は白色の流紋岩と考えられる。重量は約120gを測る。

SK384 出土遺物(図63、写真図版21)

土師器杯(157) 杯Aである。内外面表面劣化のため調整等は不明である。胎土は橙褐色で精良である。

須恵器杯(158) 杯Bである。内外面回転ナデ調整し、底部外面はヘラキリの後ナデ調整する。胎土は灰色で1~5mm程度の長石粒を少量含み、精良である。

土師器皿(159) 皿Aである。内外面ナデ調整の後、底部外面に手持ちヘラケズリを行う。ヘラケズリは体部下半に及ぶ。内面には密な斜行暗文が確認できる。胎土は橙褐色で精良である。

須恵器平瓶(160) 内外面回転ナデ調整し、底部外面回転ヘラキリの後軽くナデ調整する。上面には径5.8cmの円盤による閉塞の跡が確認できる。態度は灰色で精良である。

これらの遺物は平城Ⅲ~Ⅳに相当するもので、奈良時代中期のものである。

SP045 出土遺物(図64、写真図版21)

土師器椀(161) 椭Aである。内外面ナデ調整し、体部外面全面を手持ちヘラケズリ、その後、体部外面全面に渡り5分割のヘラミガキを施す。胎土は褐色で精良である。

この遺物は平城Ⅳに相当するもので、奈良時代中期のものである。

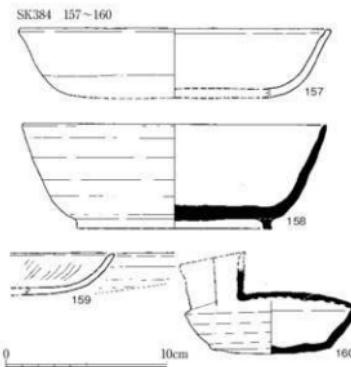
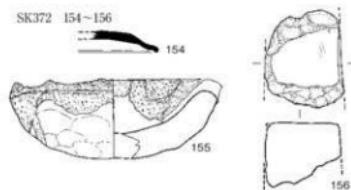


図63 SK372・384出土遺物実測図 (S:1/3)

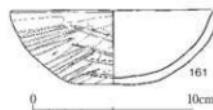


図64 SP045出土遺物実測図 (S:1/3)

SP070 出土遺物（図 65、写真図版 22）

須恵器壺（162）壺 M である。内外面回転ナデ調整を施し、外底面の切り離し方法は不明である。胎土は灰色で精良である。

SP169 出土遺物（図 65、写真図版 22）

須恵器壺（163）壺 C である。柱穴掘方より出土した。内外面回転ナデ調整し、底部外面はヘラキリの後未調整である。胎土は灰色で、微細な長石粒をやや多く含む。

2 期の遺構出土遺物

SA030 出土遺物（図 66）

柱痕跡及び抜取穴出土遺物

土師器皿（164・165）164 は杯 A である。内外面表面劣化のため調整等は不明である。胎土は暗褐色で、微細な長石粒を多量に含む。165 は杯 B である。内外面ナデ調整の後、外面ヘラミガキを施す。胎土は褐色で精良である。

柱掘方出土遺物

土師器皿（166）皿 C である。内外面表面劣化のため調整等は不明である。胎土は橙褐色で精良である。

須恵器杯（167～169）167 は杯 C である。内外面回転ナデ調整を施し、外面全面に煤が付着する。胎土は灰白色で精良である。168 は杯 A である。内外面回転ナデ調整する。胎土は灰色で 1～5mm 程度の長石粒を少量含み、精良である。169 は杯 B である。内外面回転ナデ調整し、胎土は灰色で精良である。

SA145 出土遺物（図 67）

柱根（170・171）170 は残存径約 28cm を測り、上部は著しく腐蝕する。下端面には丁寧な丁斧の痕跡が多数残る。171 は残存径 20cm を測り、上部は著しく腐蝕する。下端面には丁斧の痕跡が多数残るが、170 ほど明確ではない。

SB005 出土遺物（図 68）

土師器皿（172）皿 A である。内外面ナデ調整の後、底部外面を手持ちヘラケズリする。ヘラケズリは口縁部直下に及ぶ。胎土は橙褐色で砂粒をやや多く含む。

SD002 出土遺物（図 69）

土師器椀（173）椀 A である。内面ナデ調整、外面表面劣化のため調整等は不明である。胎土は褐色で砂粒を多く含む。

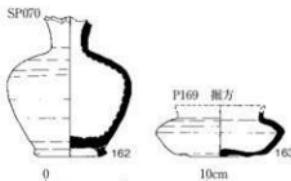


図 65 SP070・169 出土遺物実測図 (5:1/3)

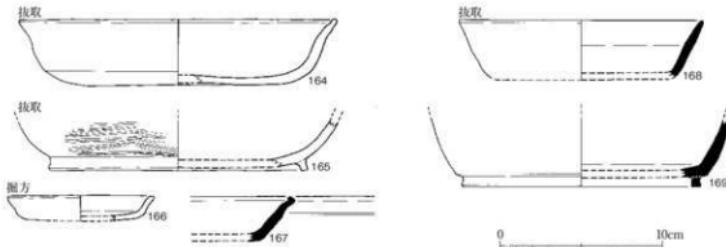


図 66 SA030 出土遺物実測図 (5:1/3)

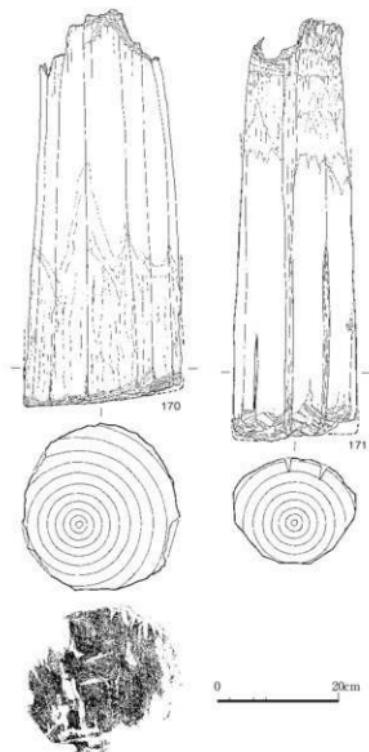


図 67 SA145 出土遺物実測図 (S:1/8)

SD003 出土遺物 (図 69)

土師器甕 (174) 甕 A である。外面オサエの後、縦方向のハケ調整を施し、内面は表面劣化のため調整等不明である。胎土は淡褐色で精良である。

これらの遺物は、土師器椀の形態から平城VI・VIIに相当するもので、8世紀末～9世紀初頭のものである。

SD194 出土遺物 (図 70)

土師器皿 (175) 皿 A である。比較的浅く、体部の開きが強い。内外面ナデ調整を施し、胎土は淡褐色で精良である。

土師器杯 (176・177) 176 は杯 A である。内外面

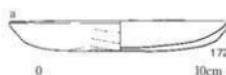


図 68 SB005 出土遺物実測図 (S:1/3)

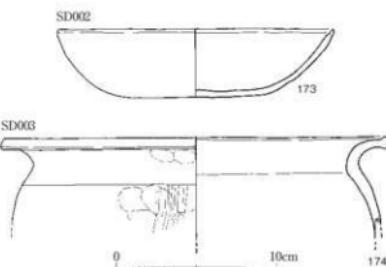


図 69 SD002・003 出土遺物実測図 (S:1/3)

SD194 175~179

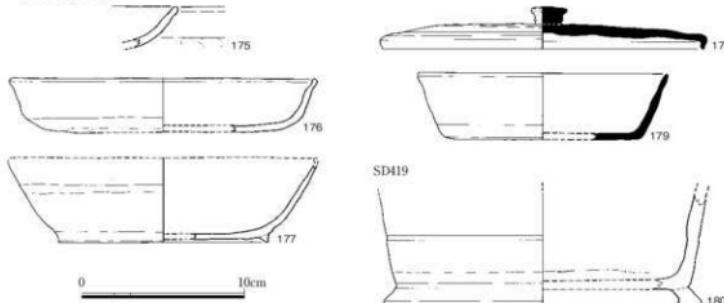


図 70 SD194・419 出土遺物実測図 (S:1/3)

ナデ調整を行い、暗文・ヘラミガキは見られない。胎土は褐色で精良である。177は杯Bである。内外面表面劣化のため調整等は不明である。胎土は褐色で精良である。

須恵器蓋（178） 杯蓋である。内外面回転ナデのち天井部外面を回転ヘラケズリする。口縁部外面には重ね焼の痕跡が残る。胎土は灰色で微細な長石粒を多量に含む。

須恵器杯（179） 杯Aである。内外面回転ナデ調整、底部外面をヘラカリする。胎土は灰色で1～5mm程度の長石粒を少量含み、精良である。

これらの遺物は土師器杯の形態から平城IV・Vに相当するもので、奈良時代後半のものである。

SD419 出土遺物（図70、写真図版22）

縄釉陶器風炉（180） 底部のみの破片である。内外面回転ナデで調整し、胴部外面に一条の沈線が巡る。釉薬はほとんど残らない。胎土は白色で精良である。

帰属時期不明の奈良時代遺構出土遺物

SA105 出土遺物（図71）

須恵器皿（181） 皿Cである。内外面回転ナデ調整を施し、底部外面はヘラカリの後ナデを行う。胎土は灰白色で精良である。柱穴gにより出土した。

SD064 出土遺物（図72）

土師器杯（182） 杯Aである。表面劣化のため調整等は不明である。胎土は橙褐色を呈し、微細な砂粒を多く含む。

須恵器皿（183） 皿Cである。内外面回転ナデ調整を施し、底部外面はヘラカリの後ナデを行う。底部外面には板目圧痕も見られる。胎土は灰色で精良である。

SK020 出土遺物（図73、写真図版22）

土師器椀（184） 椭Cである。内外面表面劣化のため調整等は不明である。胎土は褐色で砂粒をやや多く含む。

須恵器蓋（185） 杯蓋である。内外面回転ナデ調整を施す。天井部外面はヘラカリの後ナデ調整を施す。胎土は灰色で0.5～3mm長石粒を多量に含む。

SK138 出土遺物（図73、写真図版22）

須恵器甕（186） 甕Bである。外面タタキの後ナデ調整を施し、内面にはオサエ工具の痕跡が明瞭に残る。胎土は灰色で砂粒を少量含む。

須恵器蓋（187） 甕蓋である。内外面回転ナデ調整を施し、天井部外面は回転ヘラケズリを施す。胎土は褐色で精良である。

墨書き土器（188） 須恵器杯皿の外底部に「供」と記載する。胎土は淡灰褐色で砂粒を多く含む。

SK154 出土遺物（図73、写真図版22）

須恵器蓋（189） 皿蓋である。内外面回転ナデ調整を施し、天井部外面は回転ヘラケズリを施す。胎土は灰白色で精良である。

須恵器甕（190） 甕Cである。内外面回転ナデ調整の後、体部外面下半を回転ヘラケズリする。胎土は灰白

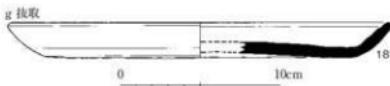


図71 SA105出土遺物実測図 (S:1/3)

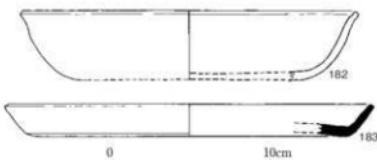


図72 SD064出土遺物実測図 (S:1/3)

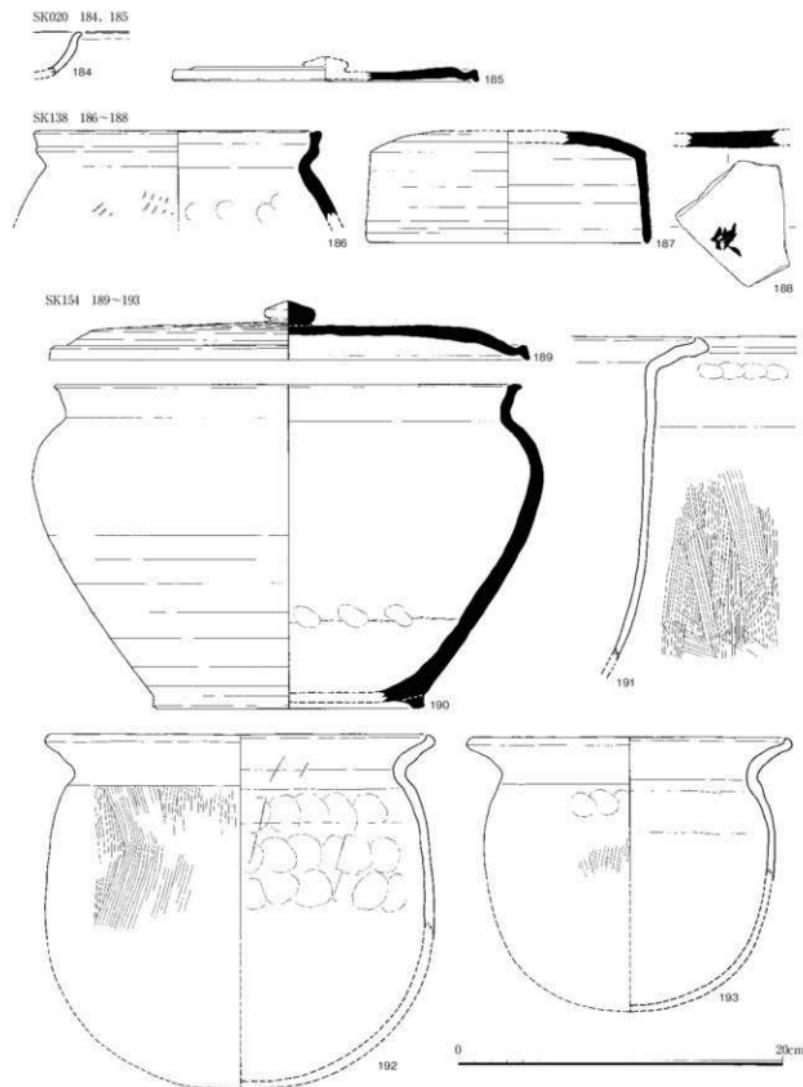


図 73 SK020・154 出土遺物実測図 (S : 1/3)

色で精良である。

土師器蓋（191・192・193） 191は蓋Cである。砲弾形の体部と強く開く口縁部を有する。内面ナデ調整、外面オサ工成形の後、縱方向のハケ調整を施す。体部には大きな黒斑を有する。胎土は褐色で砂粒をやや多く含む。192は蓋Aである。外面縦方向の1次ハケの後、肩部以下を同方向の粗い2次ハケ調整を施す。1次ハケは口縁部のナデにナデ消される。内面は當て具痕と板状工具によるナデを有し、口縁部には横方向の粗いハケをナデ消す。胎土は淡褐色で長石粒を少量含む。193は蓋Aである。内外面被熱により著しく劣化するが、外面縦方向のハケ調整、内面には當て具痕が残る。胎土は橙褐色で長石粒とクサリ礫を少量含む。

SK258 出土遺物（図74・75、写真図版22）

上層（黄灰土）出土遺物

土師器椀（194） 椭Cである。口縁部は屈曲して端部に内斜する面を持つ。表面劣化のため内外面調整等は不明である。胎土は橙褐色で微細な砂粒を少量含む。

須恵器蓋（195） 杯蓋である。内外面回転ナデを施す。胎土は灰白色で微細な長石粒をやや多く含む。

須恵器杯（196） 杯Aである。内外面回転ナデ調整し、底部外面はヘラキリの後ナデ調整する。胎土は灰色で1～5mm程度の長石粒を少量含み、精良である。

須恵器皿（197） 皿Aである。内外面回転ナデ調整し、底部外面はヘラキリ後ナデ調整する。胎土は灰色で黑色粒子を少量含み、精良である。

輪羽口（199） 土師質の羽口である。棒状工具に粘土を巻きつけて成形し、外面は板状工具によるナデ調整する。円孔は先端で径1.9cm、胴部で2.3cmを測る。胎土は橙褐色で1～3mmの長石粒を多量に含む。先端部は被熱により灰褐色を呈する。

下層（灰砂）出土遺物

土師器杯（198） 杯Aである。内面表面劣化のため調整等不明、底部外面および体部下半を手持ちヘラケズリする。胎土は暗褐色で砂粒をやや多く含む。体部外面には黒斑を有する。

木製品（200） 点け木と考えられる。3面を加工し、1面は欠損する。先端は被熱により炭化する。

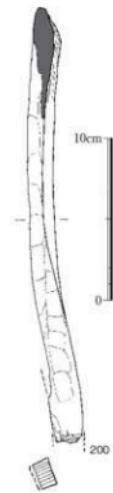


図74 SK258出土遺物実測図(1)
(S:1/3)

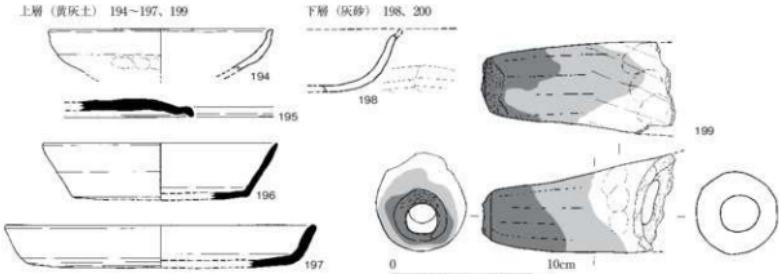


図75 SK258出土遺物実測図(2)(S:1/3)

SK274 出土遺物（図 76）

須恵器蓋（201） 杯蓋である。内外面回転ナデ調整を施す。天井部外面はヘラキリの後、軽く回転ヘラケズリを施し、その後ナデ調整を行う。胎土は灰色で精良で微細な長石粒を少量含む。

軒丸瓦（202） 内区に7弁復弁蓮華文、外区に唐草文帯と銀歛縁を有する。6348Aa 型式のものである。

包含層出土遺物（図 77）

褐色土出土遺物

東播系須恵器鉢（203） 薄手の体部を持ち、口縁端部は玉縁状に上下へ肥厚する。表面劣化のため調整等は不明である。胎土はやや褐色を帯び、微細な長石粒を多く含む。13世紀半ば～後半のものである。

瓦器鉢（204） 円形の鉢である。外面は劣化が著しく調整不明だが、内面横方向の密なヘラミガキを施す。内外面イブシは良好で、胎土は淡灰褐色で精良である。13世紀後半～14世紀のものである。

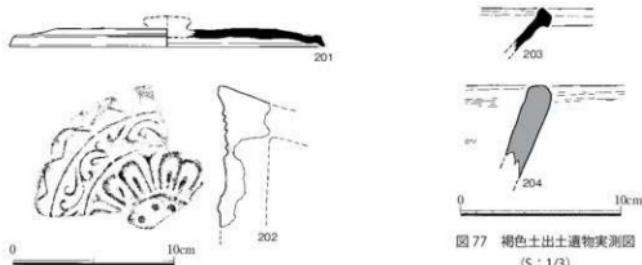


図 76 SK274 出土遺物実測図 (S : 1/3)

図 77 褐色土出土遺物実測図
(S : 1/3)

参考文献

奈良県立橿原考古学研究所 2006 「平城京左京四条二坊九坪（田村第）」『奈良県遺跡調査概報 2005年度 第1分冊』

4. 総括

今回の調査で見つかった奈良時代遺構は大きく2時期に分かれる。以下1期と2期に分けて記述する。

(1) 1期の遺構（奈良時代中～後期）

今回の調査では平城Ⅰ・Ⅱに相当する遺構は見つかっておらず、奈良時代前期の状況は不明である。本格的な遺構の展開は、古墳時代の流路を除くと奈良時代中期からである。

【井戸】

井戸はいずれも平城Ⅲ以降のものである。SE125は平城Ⅲ、SE055・085・110は平城Ⅲ～Ⅳに相当し、SE125が若干先行する以外は、ほぼ同時期のものである。いずれの井戸も遺物に大きな年代差がなく、短期間のうちに掘削・埋没したものと考えられる。また、井戸の構造をみると、いずれも直径150cm以内の小型のもので、井戸枠は小規模な縦板組と曲げ物の枠材など簡易なものである。これらの井戸は大型建物SB100・200の付属

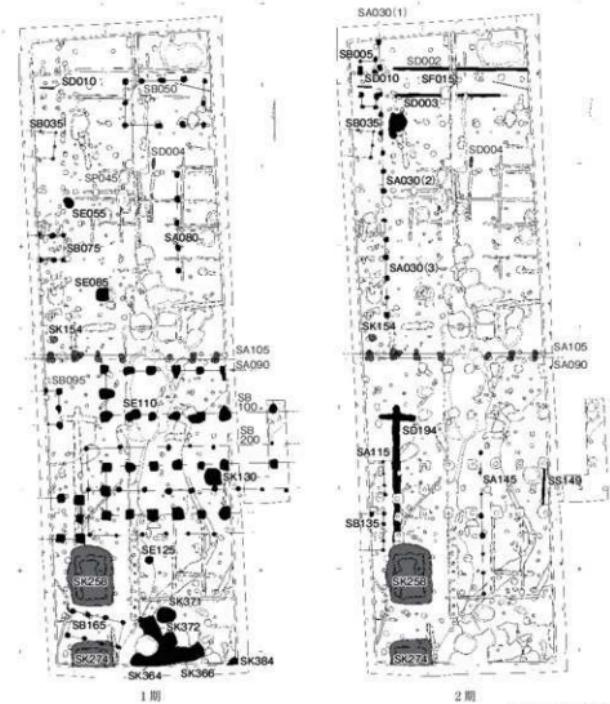


図78 遺構変遷図 (S:1/300)

施設とするには小規模で、SE110がSB100を切ることなどを勘案すると、SE125以外は大型建物廃絶以降の遺構と考えられる。

【柵列・建物】

柵列・建物は大型東西建物SB100・200を中心に柵列1、掘立柱建物7棟が存在する。SB165は主軸方位を異にし、柱穴規模も小さいことから平城京以前の遺構と考えられるが、それ以外はほぼ同じ主軸方位を有する。SB100と200は主軸方位だけでなく柱間規模も描い、さらに西妻を備える配置を持つなど、類似点が多く、ほぼ同時期に存在したものと判断できる。いずれの建物も柱掘方と柱抜取痕の出土遺物にほとんど時期差が見られないことから、比較的短期間で建設・解体されたものと考えられる。

帰属時期不明のSA105・190はいずれもSB100と近接しすぎるため、同時期に並存した可能性は低い。

【土地利用】

1期の土地利用は大型東西建物SB100・200が存在する期間は、調査区全域が一連のものとして使用されていたと考えられる。その後SB100・200の廃絶に伴い、複数の小規模井戸が等間隔に出現する。これらの井戸は前述のとおりいずれもほぼ同時期のものであり、土地利用が細分化された可能性が高いが、井戸に伴う建物が特定できない。いずれにしても、大型東西建物の廃絶は土地細分化の大きな画期といえ、その時期は平城IV（750～760年代）を前後する時期と考えられる。しかしながら、細分化されたとはいえ2期のように区画施設を明確にすることなく、また、SE055やSB075が2期の区画柵列SA003に重なるなど、土地利用は2期とは大きく異なるものであった。

(2) 2期の遺構（奈良時代後期～平安時代初期）

【建物】

建物は著しく矮小化し、1期のような大型のものは確認できない。建物と認定できなかった小規模な柱穴群が建物を構成していた可能性もある。

【土地利用】

柵列や溝、道路により明確に細分化される。南北柵列SA030、南北溝SD194は九坪内部を東西に二分し、帰属時期不明ではあるもののこの時期に帰属する可能性の高い東西柵列SA090・105は九坪を南北に二分する。さらに東西道路SF015は九坪北半分（南北66.5m）から三条大路推定道路幅の半分（ $16 \div 2 = 8m$ ）を引いた58.5mを二分する位置、つまり坪内の敷地をさらに南北に分割する位置に存在する。さらにSF015と坪内二分割ラインをさらに分割する位置にはSA030(2)とSA030(3)の境界が存在する。つまり、2期には九坪内部を四分割し、さらに東北部を短冊状に四分割する土地利用に変化することが窺える。坪内道路の間は利用の痕跡が無く、東二坊坊間東小路からの進入路としてのみ利用されていたようである。三条大路側に出入り口が存在したかどうかについては明確にできないが、東方向に空闊地と道路、八脚門を備える構造は、東向きを正面とし、大路に対して門を開かない構造を有していたと考えられる。こうした都域の基本事項が9世紀段階でも遵守されていたと考えられることは、廃都後の平城京の土地利用についても重要な示唆を与えよう。

(3) 遺跡の性格

以上の遺構変遷を締めると、奈良時代前期の明確な遺構はなく、当地が本格的に利用されるようになるのは奈良時代中期頃からである。遺構出現当初の占地は坪内全域に及んだ可能性が高く、二間×七間以上の大型建物を伴う。このように奈良時代中期頃に広域の占地と大型の建物が出現する状況は左京四条二坊十五坪の調査（奈良

国立文化財研究所 1985) や、左京五条二坊十五・十六坪の調査(奈良県立橿原考古学研究所 2006)など周辺の調査でも検出されており、直接的物証に乏しいものの、田村第設置との関係を考えることができる。

2期は奈良時代中期～長岡京期にあたる。この時期には坪内の細分化が行われ、大きく景觀が変化するが、こうした現象は周辺調査区では確認できない。『続日本紀』宝亀6年3月己未に群臣に置酒する場として「田村旧宮」が使用されているほか、延暦3年には「右大臣藤原是公田村第」という記載も見られる。このように田村第は、藤原仲麻呂失脚以後も使用された痕跡が見られるが、こうした、仲麻呂以後の政治的混乱期における田村第の利用が土地利用の細分化の背景にあったと考えることもできよう。

さて、1期の遺構出土遺物には「供養」などの墨書が見られるが、この場合の供養は僧侶等に衣料や食事を施す事に相当する。同様の墨書土器は左京四条二坊十五坪の調査でも出土しており、田村第内部においてこうした宗教行為への関与が見られる点は、藤原仲麻呂が多数の経巻を借用して写経していたことと合わせて考えると興味深い(岸 1969)。

さらに、同じく1期に相当するSE085からは「人給」の墨書土器が出土している。吉野秋二氏によると、「人給」墨書は食料や物資などの供給を担う「人給所」に起因するものであるとのことで(吉野 2002)、「供養」墨書とあわせて調査地周辺がこうした家政機関の一部であったことを推定させる。帰属時期不明ながら、SK258から鉛造関連遺物の出土が見られることも示唆的である。

今回の調査は田村第における比較的規模の大きな調査であった。とはいっても、調査が及んだのは田村第全体のごく一部にすぎない。今後の周辺における調査の進展に期待したい。

参考引用文献

- 岸 俊男 1966 「藤原仲麻呂の田村第」『日本古代政治史研究』 填書房
 1969 「藤原仲麻呂」人物叢書 吉川弘文館
 奈良県立橿原考古学研究所 2006 「平城京左京五条二坊十五・十六坪」奈良県立橿原考古学研究所調査報告 第98編
 奈良国立文化財研究所 1985 「平城京左京四条二坊十五坪発掘報告」
 吉野秋二 2002 「『人給所』木簡・墨書土器考 - 律令制下の食糧供給システム - 」『古代文化』54-9 古代学協会

関連資料

図 79 検出遺構略測図・遺構仮番号配置図

(遺構の切合関係は全てこの図に記載。仮番号は報告遺構番号に対応させている。)

表 2～6 報告遺物一覧 (1)～(5)

表 7～12 検出遺構および出土遺物一覧 (1)～(6)

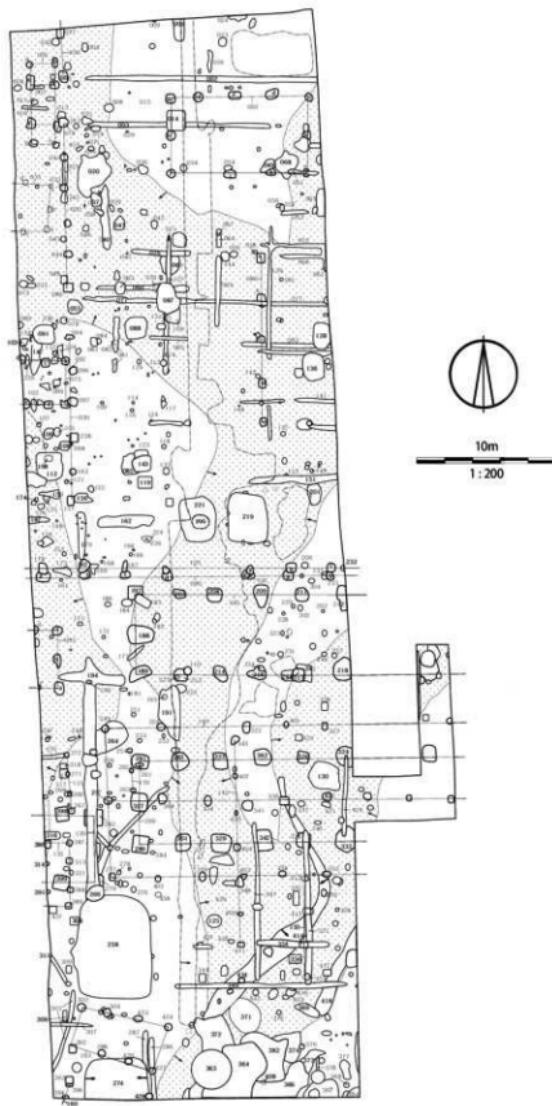


図 79 接出遺構略測図・遺構仮番号配置図（縮尺任意）

表2 報告遺物一覧(1)

標目 写真版面	出土遺構 層位	種別 器種	口径・高さ・底径 (cm) 残存率	胎土・素材	焼成・色調	特記事項
図46・1	SA080a 板状	土師器 杯	16.7 - 2.7 - * 100%	南 0.1 ~ 1 mm粗・カサリ無	良 浅黄褐色 10YR8/3	杯C
図46・2	SA080c 板状	須恵器 瓶	8.6 - 6.7 - 6.8 100%	南 ~ 2 mm長石	良 灰白 7.5Y7/1	瓶E
図46・3	SA080b 板状	須恵器 縁片	- (1.5) - *	南 0.1 ~ 1 mm長石・雲母	良 灰 N6/0	杯B
図47・4	SB050a 板状	土師器 縁片	(22.0) - 2.0 - * 100%	南 ~ 0.5 mm長石・雲母	良 明赤褐色 5YR5/6	杯A
図47・5	SB050b 板状	須恵器 縁片	10.5 - 4.0 - 7.5 65%	南 ~ 1.5 mm長石	良 灰白 10Y7/1	杯B
図47・6	SB050c 板状	須恵器 縁片	(19.0) - 2.0 - * 100%	南 ~ 1 mm長石・雲母	良 灰白 N7/0	杯C
図47・7	SB050b 板状	須恵器 縁片	(19.8) - 3.1 - * 100%	小字粗 ~ 0.5 mm雲母	不良 灰白 5Y7/1	杯C
図47・8	SB075b 板状	須恵器 縁片	- (7.5) - *	南 0.3 ~ 3 mm長石・雲母	良 灰白 7.5Y7/1	瓶C
図48・9	SB095c 木製品 柱粗	木製品 柱粗	64.4) - 27.7 - 27.2	針葉樹		
図49・10	SB100c 板状	須恵器 杯	10.8 - 4.0 - 7.9 80%	南 ~ 3 mm石英・雲母	良 灰白 NR/0	杯B
図49・11	SB100c 板状	須恵器 杯	17.2 - 4.9 - 11.7 80%	南 ~ 3 mm長石・石英・黒色粒	良 灰 N6/0	杯B
図49・12	SB100c 板状	須恵器 瓶	20.0 - 2.4 - *	小字粗 ~ 1 mm長石・石英・黒色粒	不良 灰 N6/0	瓶C
図49・13	SB100c 板状	土師器 瓶	100%	小字粗 ~ 4 mm長石・石英・黒色粒	良 灰白 2.5Y8/2	小型瓶
図49・14	SB100c 板状	瓦	(3.4) - 17.2 - (14.6)	南 2 mm長石	不良 灰 N6/0	瓦当に赤色付着物あり 0348AA
図49・15	SB100a 板状	赤色土器 瓶	- (7.7) - (7.9) 40%	小字粗 0.1 ~ 3 mm長石・石英・雲母	良 灰黄 2.5Y7/2	瓶A
図49・16	SB100c 板状	土師器 縁片	- (3.7) - *	南 ~ 2 mm長石・石英・カサリ無	標準 5Y8/7/B	瓶A
図49・17	SB100d 板状	須恵器 蓋	- (1.9) - *	小字粗 0.2 ~ 3 mm長石・雲母	良 灰 N6/0	杯盖
図49・18	SB100b 板状	須恵器 縁片	- (3.0) - (11.0)	小字粗 0.2 ~ 7 mm長石・雲母	良 灰白 5Y7/1	杯B
図49・19	SB100c 板状	瓦	(9.0) - (9.6) - 5.6	南 0.1 ~ 1 mm長石・雲母	良 灰 N6/0	
図50・20	SB200c 板状	土師器 組	- (2.1) - *	小字粗 ~ 1 mm長石・石英	良 灰白 10YR7/3	組A
図50・21	SB200e 板状	土師器 組	17.2 - 2.8 - *	小字粗 微小砂粒	不良 赤褐色 10R6/8	組A
図50・22	SB200m 板状	土師器 杯	- (2.5) - *	南 微小砂粒	良 灰白 2.5Y8/2	杯A
図50・23	SB200d 板状	須恵器 縁片	- (3.5) - *	南 微小砂粒	良 灰 N6/0	
図50・24	SB200-11 板状	須恵器 縁片	(1.8) - *	南 ~ 1 mm黑色粒	良 灰白 N7/0	杯蓋
図50・25	SB200-11 板状	須恵器 蓋	(9.0) - (12.2) - *	南 ~ 1 mm長石	良 灰白 N7/0	杯蓋
図50・26	SB200f 板状	須恵器 蓋	(12.7) - 1.2 - *	南 ~ 1 mm長石	良 灰白 N6/0	転用被?
図50・27	SB200k 板状	須恵器 縁片	- (1.6) - *	南 ~ 1 mm長石・黒色粒	良 灰 N6/0	杯蓋
図50・28	SB200k 板状	須恵器 縁片	- (1.0) - *	南 微小砂粒・黒色粒	良 青灰 5BG/1	杯蓋
図50・29	SB200k 板状	木製品 片口木	(5.7) - 1.1 - 0.5	针葉樹		
図50・30	SB200m 板状	須恵器 杯	14.0 - 4.1 - 9.8 100%	南 ~ 3 mm長石	良 灰 N6/0	杯B
図50・31	SB200c 板状	須恵器 組	(18.4) - 2.2 - *	南 ~ 1 mm長石	良 灰 N6/0	組C
図50・32	SB200h 板状	土師器 縁片	- (4.4) - *	小字粗 1 mm長石	良 灰白 5Y8/1	瓶A
図50・33	SB200h 板状	須恵器 縁片	(10.8) - (4.3) - *	南 20%	良 微小砂粒	瓶L
図50・34	SB200-6 板状	須恵器 縁片	- (15.0) - *	南 0.1 ~ 1 mm長石・石英	良 灰 N6/0	瓶C
図51・35	SE055 褐色土	土師器 組	(23.4) - 2.8 - *	小字粗 ~ 2 mm長石・石英	不良 灰白 2.5Y8/2	組A
図51・36	SE055 褐色土	須恵器 蓋	(12.0) - (10.8) - *	南 ~ 2 mm長石・石英	良 灰 N6/0	瓶A
図51・37	SE055 褐色土	須恵器 杯	(11.5) - 3.9 - 8.2	南 ~ 2.5 mm長石・石英	良 灰 N6/0	杯B
図51・38	SE055 褐色土	須恵器 杯	(16.8) - 4.2 - (11.9)	南 ~ 2 mm長石・石英	良 灰白 N7/0	杯B
図51・39	SE055 褐色土	須恵器 杯	(17.6) - 4.8 - *	南 ~ 3 mm長石・黒色粒	良 灰白 N7/0	杯A
図51・40	SE055 褐色土	須恵器 杯	20%	南 ~ 3 mm長石・石英	良 灰 N5/0	杯B
図51・41	SE055 褐色土	須恵器 杯	30%	南 ~ 2 mm長石・石英・微小砂粒	良 灰白 N8/0	杯C

表3 報告物一覧(2)

探査 写真版	出土場 層位	種別 容積	口径・高さ・底径 (cm) 残存率	胎土・素材	焼成・色調	特記事項
岡51-42	SB055 褐色土	薄	(25.0) - (19.5) - 8.3	やや粗 ~ 1.5 cm石粒	良 灰白 N7/0	方切跡
岡51-43	SB055 褐色土	直筒器 瓶	(54.4) - (19.1) - *	南 ~ 2 mm長石・石英・黒色斑點 体部上半 10%	良 灰 N6/0	瓶 C
岡51-44	SB055 褐色土	土師器	7.0 - 1.5 - *	南	良	曲 C
岡51-46	SB055 褐色土	土師器	100% -	0.2 ~ 4 mm長石・カサリ繩・雲母	良 灰白 10YR8/2	曲 C
岡51-45	SB055 褐色土	土師器	8.0 - 1.5 - *	南	良	曲 C
岡51-46	SB055 褐色土	土師器	100% -	0.1 ~ 1 mmカサリ繩・雲母	良 灰黄 2.5Y7/2	曲 C
岡51-47	SB055 褐色土	土師器	(11.7) - (2.5) - *	南	良	曲 C
岡51-48	SB055 褐色土	杯	25% -	0.1 ~ 1 mm長石・石英・雲母・カサリ繩	良 灰白 5Y8/2	杯 A
岡51-49	SB055 褐色土	土師器 杯	(15.8) - 2.3 - *	南 15% -	0.1 ~ 2.5 mm長石・石英・雲母・カサリ繩	杯 B
岡51-49	SB055 褐色土	土師器 杯	(18.4) - 2.8 - *	南 20% -	0.1 ~ 1 mm長石・石英・雲母・カサリ繩	杯 C
岡51-50	SB055 褐色土	土師器 高杯	20.7 - (1.6) - *	南 50% -	良 灰白 N7/0	高杯 A
岡51-51	SB055 褐色土	土師器 高杯	* - 2.3 - 12.4 脚部 30%	南 0.1 ~ 1 mm長石・石英・雲母・カサリ繩	良 灰白 5Y7/2	高杯 A
岡51-52	SB055 褐色土	土師器 鉢	* - (3.8) - *	南	良 灰白 2.5Y8/2	鉢 B
岡52-53	SB055 褐色土	直筒器 桶	(11.4) - 4.6 - (7.5)	南	良 灰白 2.5Y7/1	桶 A
岡52-54	SB055 褐色土	直筒器 桶	(18.4) - 3.9 - *	南	良 灰白 2.5Y7/2	桶 A
岡52-55	SB055 褐色土	直筒器 桶	25% -	0.1 ~ 3 mm長石・雲母	良 灰白 N7/0	桶 B
岡52-56	SB055 褐色土	直筒器 桶	(19.6) - 5.8 - (14.6)	南 25% -	良 灰白 2.5Y7/1	桶 B
岡52-57	SB055 褐色土	直筒器 桶	(21.4) - 2.6 - *	南 25% -	良 灰白 N8/0	桶 C
岡52-58	SB055 褐色土	直筒器 桶	(26.4) - (12.9) - *	南 40% -	良 灰白 2.5Y8/3	桶 A
岡52-59	SB055 褐色土	直筒器 桶	7.2 - 6.6 - 6.2	南 60% -	良 灰白 2.5Y7/1	桶 A
岡52-60	SB055 褐色土	土師器 鉢	10.0 - 6.0 - 4.8	南 90% -	良 灰白 2.5Y7/4	鉢 B
岡52-61	SB055 褐色土	土師器 刀子	12.5 - 1.1 - 0.2	鉢 0.1 ~ 3.5 mm長石・石英・雲母	良 灰黄 2.5Y7/4	鉢 B
岡53-61	SB055 褐色土	土師器 杯	* - (2.8) - *	南 白練部分	良 灰白 2.5Y8/2	杯 C
岡53-62	SB055 褐色土	土師器 杯	* - (2.7) - *	南 白練部分	良 灰白 2.5Y8/3	杯 C
岡53-63	SB055 褐色土	土師器 杯	17.5 - 3.3 - *	南 70% -	良 微小砂粒・カサリ繩	杯 C
岡53-64	SB055 褐色土	土師器 杯	17.9 - 3.0 - *	南 100% -	良 微小砂粒	杯 C
岡53-65	SB055 褐色土	土師器 杯	(15.3) - 2.5 - *	南 70% -	良 微小砂粒	杯 C
岡53-66	SB055 褐色土	土師器 杯	(15.6) - 3.1 - *	南 20% -	良 微小砂粒	杯 A
岡53-67	SB055 褐色土	土師器 杯	(16.0) - 3.3 - *	南 60% -	良 微小砂粒	杯 A
岡53-68	SB055 褐色土	土師器 杯	17.8 - 3.2 - *	南 60% -	良 微小砂粒・カサリ繩	杯 A
岡53-69	SB055 褐色土	土師器 杯	(21.0) - 3.8 - *	南 50% -	良 微小砂粒	杯 A
岡53-70	SB055 褐色土	土師器 杯	(21.2) - (4.4) - *	南 10% -	良 1 mm長石・石英・雲母	杯 A
岡53-71	SB055 褐色土	土師器 杯	(21.2) - (3.2) - *	南 20% -	良 1 mm長石・カサリ繩	杯 A
岡53-72	SB055 褐色土	土師器 杯	22.3 - 3.2 - *	南 50% -	良 1 mm長石・カサリ繩	杯 A
岡53-73	SB055 褐色土	土師器 杯	* - (3.6) - *	南 白練部分	良 1 mm長石・石英・カサリ繩	杯 A
岡53-74	SB055 褐色土	土師器 杯	(1.7) - *	南 白練部分	良 1 mm長石・カサリ繩	蓋
岡53-75	SB055 褐色土	土師器 杯	22.0 - 5.1 - 16.0	南 70% -	良 1 mm長石・カサリ繩・雲母	杯 B
岡53-76	SB055 褐色土	土師器 杯	(23.4) - 7.9 - 17.2	南 10% -	良 微小砂粒・カサリ繩	杯 B
岡53-77	SB055 褐色土	土師器 杯	* - (8.6) - (15.2)	南 脚部	良 微小砂粒	高杯 A
岡53-78	SB055 褐色土	土師器 杯	(13.2) - (4.7) - *	南 20% -	良 微小砂粒	杯 C
岡53-79	SB055 褐色土	土師器 杯	* - (5.8) - *	南 白練部分	良 微小砂粒・雲母・カサリ繩	單書あり「人給」 蓋
岡53-80	SB055 褐色土	土師器 杯	9.9 - 3.6 - 6.8	南 70% -	良 微小砂粒・雲母・カサリ繩	浅井村
岡54-81	SB055 褐色土	直筒器 杯	9.9 - 3.6 - 6.8	南 30% -	良 ~ 2 mm長石・石英・黒色斑點	杯 B
岡54-82	SB055 褐色土	直筒器 杯	(12.0) - 3.9 - (8.8)	南 30% -	良 ~ 2 mm長石・石英・黒色斑點	杯 B

表4 報告遺物一覧(3)

標因 写真版面	出土遺構 層位	種別 器種	口径・高さ・底径 (cm) 残存率	胎土・素材	焼成・色調	特記事項
岡54-83 岡版18	SE085	須恵器 杯	14.5 - 2.9 - * 90%	南 ~ 3mm長石・石英・黒色粒	灰白N7/0	杯C
岡54-84 岡版18	SE085	須恵器 杯	(15.1) - 2.6 - * 25%	南 ~ 2mm長石・石英・黒色粒	灰N6/0	杯C
岡54-85 岡版18	SE085	須恵器 杯	(18.8) - 6.0 - (14.0)* 30%	南 ~ 2mm長石・石英・黒色粒	灰白N7/0	杯B
岡54-86 岡版18	SE085	須恵器 組	20.3 - 2.6 - * 100%	南 ~ 1mm長石・黒色粒	灰白N7/0	組C
岡54-87 岡版18	SE085	須恵器 組	(21.2) - 2.1 - * 30%	南 微小砂粒	灰白N8/0	組C
岡54-88 岡版18	SE085	須恵器 組	20.3 - 2.9 - * 100%	南 ~ 4mm長石・石英	灰白N7/0	組C
岡54-89 岡版18	SE085	須恵器 組	(20.6) - (1.2) - * 25%	南 ~ 1mm長石・石英	灰 灰N6/0	須恵あり 『六十文「中」ほか』
岡54-90 岡版18	SE085	須恵器 組	(19.8) - (6.2) - * 40%	南 ~ 3mm長石・石英・黒色粒	灰白N7/0	須恵あり
岡54-91 岡版18	SE085	土師器 甕	15.4 - (8.5) - * 30%	今平組 ~ 3mm長石・石英・雲母	灰 灰白10YR8/2	甕A
岡54-92 岡版18	SE085	土師器 甕	19.8 - (27.0) - * 80%	南 ~ 3mm長石・石英	灰 灰白5Y8/2	甕A
岡54-93 岡版18	SE085	土師器 甕	(32.0) - (10.6) - * 10%	南 ~ 3mm長石・石英・雲母	良 灰黄褐10YR8/3	甕A
岡54-94 岡版18	SE085	瓦 軒丸瓦	(14.6) - 16.2 - (15.7)	粗 4mm長石・石英・雲母・チャート	不良 灰N5/0	6227A
岡54-95 岡版18	SE085	瓦 軒平瓦	(5.2) - (7.0) - 4.9	南 1mm長石・雲母・黒色粒	良 灰N5/0	6691F
岡55-96 岡版18	SE085	木製品 舟形木	長(11.1) - 幅(1.6) - 厚1.0	針葉樹		
岡55-97 岡版18	SE085	木製品 舟形木	長15.8 - 幅1.7 - 厚0.6	針葉樹		
岡55-98 岡版18	SE085	木製品 舟形木	長17.0 - 幅3.5 - 厚1.3	針葉樹		
岡55-99 岡版18	SE085	木製品 舟形木	長(16.4) - 幅1.3 - 厚0.7	針葉樹		
岡55-100 岡版18	SE085	木製品 舟形木	長25.6 - 幅1.6 - 厚0.9	針葉樹		
岡56-101 岡版19	SE110	須恵器 甕	(72.0) - (24.1) - * 25%	南 0.1~2.5mm長石・石英・雲母	良 灰N6/0	甕C
岡56-102 岡版19	SE110	土師器 甕	* - (4.0) - * 口縁破片	今平組 ~ 1mm長石・カサリ織	良 灰白2.5Y8/2	甕A
岡56-103 岡版19	SE110	土師器 甕	(15.3) - (3.0) - * 30%	南 1mm長石・石英・カサリ織	良 灰白2.5Y8/2	甕A
岡56-104 岡版19	SE110	土師器 甕	(18.3) - 2.8 - * 30%	南 ~ 1mm長石・雲母・カサリ織	良 灰黄2.5Y8/2	甕A
岡56-105 岡版19	SE110	土師器 甕	(20.0) - 2.7 - * 30%	南 ~ 4mm長石・黒色粒	良 灰白3Y7/1	甕A 須恵あり「供養」
岡56-106 岡版19	SE110	土師器 甕	(19.0) - (0.7) - * 30%	南 ~ 2mm長石・黒色粒	良 灰N6/0	甕A 須恵あり「供」
岡56-107 岡版19	SE110	須恵器 蓋	8.1 - 2.6 - * 100%	南 1mm長石・黒色粒	良 灰N6/0	須恵
岡56-108 岡版19	SE110	須恵器 蓋	(11.8) - 3.9 - (8.0)	南 1mm長石・黒色粒	良 灰N6/0	甕B
岡56-109 岡版19	SE110	須恵器 蓋	(10.1) - 6.1 - 5.8 60%	南 1mm長石・黒色粒	良 灰N6/0	甕E 須恵あり「△」
岡56-110 岡版19	SE110	土師器 甕	* - (10.8) - * 口縁破片	今平組 ~ 4mm長石・石英・カサリ織	良 灰白3Y8/1	甕A
岡56-111 岡版19	SE110	土師器 甕	15.0 - 12.5 - * 100%	南 ~ 2mm長石・石英・雲母	良 灰白2.5Y8/2	甕B
岡56-112 岡版19	SE110	土師器 甕	(30.3) - (12.4) - * 口縁破片	南 ~ 15mm長石・石英・雲母・チャート	良 灰黄2.5Y7/2	甕A
岡56-113 岡版19	SE110	木製品 舟形木	長(7.5) - 幅(1.2) - 厚(0.8)	針葉樹		
岡57-114 岡版19	SE110	土師器 甕	(27.8) - (22.5) - * 30%	今平組 ~ 2mm長石・石英・カサリ織	良 灰白10YR8/2	甕A
岡57-115 岡版19	SE110	須恵器 甕	(9.4) - 13.8 - (11.0)	今平組 ~ 4mm長石・黒色粒	良 灰N5/0	須恵
岡57-116 岡版19	SE110	須恵器 甕	(20.0) - (24.4) - * 20%	南 ~ 2mm長石	良 灰N6/0	甕A
岡58-117 岡版20	SE110	須恵器 甕	(22.2) - (38.7) - * 70%	南 ~ 3mm長石・石英	良 灰白7.5Y7/1	甕A
岡58-118 岡版20	SE110	瓦 平瓦	33.8 - 26.0 - 7.6	南 ~ 3mm長石・石英・雲母・ヶ中引織	良 灰白10YR8/1	瓦
岡58-119 岡版20	SE110	瓦 丸瓦	35.3 - (14.3) - 7.1	南 ~ 3mm長石・石英	良 灰白10YR8/1	瓦
岡59-120 岡版20	SE110	瓦 丸瓦	(33.4) - 15.1 - 7.4	南 ~ 4mm長石・石英	良 灰白2.5Y8/2	瓦
岡59-121 岡版20	SE110	瓦 平瓦	(15.3) - 30.5 - 12.8	南 ~ 4mm長石・石英・チャート	良 灰N4/0	瓦に赤色付着物あり 6663J
岡60-122 岡版20	SE110	木製品 曲物	径57.6 - 高35.5 - 筋径56.5	針葉樹		
岡60-123 岡版20	SE110	木製品 曲物	径56.5 - 高36.5 - 筋径57.6	針葉樹		

表5 報告遺物一覧 (4)

種別 写真版面	出土場 層位	種別 分類	口径・高さ・底径 (cm) 残存率	胎土・素材	焼成・色調	特記事項
岡 61 - 124	SE125 瓶方	土師器 高杯	(28.0) - 25% (17.0) - 4.0 - *	微小砂粒・カサリ繊 ~ 1 mm 黒色粒	良 淡黄 2.5Y8/3 良 白 NT/0	高杯 A 杯 A
岡 61 - 125	SE125 瓶方	土師器 杯	14.9 - 5.2 - * 95%	密 2 mm 長石・石英・カサリ繊	良 淡白 2.5Y8/2	杯 A
岡 61 - 126	SE125 枠内	土師器 桺	* - (4.6) - *	密	良 淡黄 2.5Y8/3	桺 A
岡 61 - 127	SE125 枠内	土師器 杯	口縁部片	~ 1 mm 長石・石英・カサリ繊	良 淡黄 2.5Y8/3	杯 A
岡 61 - 128	SE125 枠内	土師器 杯	(2.4) - - *	密	良 淡白 2.5Y8/2	杯 A
岡 61 - 129	SE125 枠内	土師器 口縁部	(2.1) - - *	密 微小砂粒・カサリ繊	良 淡白 2.5Y8/2	口縁部 A
岡 61 - 130	SE125 枠内	土師器 口縁部	* - (2.9) - *	密 口縁部片	良 にじむ灰 5YR7/4	口縁部 A
岡 61 - 131	SE125 枠内	土師器 詰	* - (2.5) - (19.2)	密 10%	良 淡白 10YR8/2	詰 C
岡 61 - 132	SE125 枠内	土師器 詰	17.2 - 15.3 - *	密	良 淡白 10YR8/3	詰 A
岡 61 - 133	SE125 枠内	土師器 詰	90%	~ 2 mm 長石・カサリ繊	良 淡黄 7.5Y7/1	詰 K 付着
岡 61 - 134	SE125 枠内	土師器 詰	(20.9) - 7.0	密 1 mm 長石・黒色粒	良 淡白 7.5Y7/1	詰方彌
岡 61 - 135	SE125 枠内	木製品 曲物	23.8 - 15.1 - 7.4	密 ~ 3mm 長石・石英・~ 15mm の渦	良 淡白 2.5Y8/1	針葉樹
岡 62 - 136	SK130 鉢内	土師器 鉢	* - (5.5) - (13.4) - *	密 微小砂粒	良 淡白 2.5Y8/2	高杯 A
岡 62 - 137	SK130 鉢内	土師器 蓋	(19.4) - (3.0) - *	密 微小砂粒・カサリ繊	良 淡白 7.5YR5/6	蓋 A
岡 62 - 138	SK130 鉢内	土師器 蓋	10%	密 10.8) - (1.6) - *	良 淡白 5B5/1	蓋 C
岡 62 - 139	SK130 鉢内	土師器 詰	14.0 - 3.3 - *	密 25%	良 ~ 3 mm 長石・石断	詰 A
岡 62 - 140	SK130 枠内	土師器 杯	90%	密 80%	良 ~ 4 mm 長石・石断	杯 NT/0
岡 62 - 141	SK364 土師器 詰	土師器 詰	17.4 - 2.9 - *	やや粗 密	良 ~ 4 mm 長石・石断	杯 A
岡 62 - 142	SK364 土師器 詰	土師器 詰	(18.4) - 4.9 - *	やや粗 25%	良 ~ 1 mm カサリ繊・微小砂粒	杯 A
岡 62 - 143	SK364 土師器 詰	土師器 詰	(10.5) - 6.2 - *	やや粗 口縁 30%	良 ~ 3 mm 長石・石断	粗 A
岡 62 - 143	SK364 土師器 詰	土師器 詰	(16.0) - (14.2) - *	やや粗 体部 30%	良 ~ 3 mm 長石・石英・カサリ繊	粗 7.5YR7/6
岡 62 - 144	SK366 土師器 詰	土師器 詰	(13.5) - 3.8 - *	やや粗 70%	良 0.2~1.5 mm 長石・石英・カサリ繊	粗 C
岡 62 - 145	SK366 土師器 詰	土師器 詰	(21.0) - 2.4 - *	密 20%	良 0.1~2 mm 長石・石英・カサリ繊	粗 A
岡 62 - 146	SK371 土師器 詰	土師器 詰	(11.2) - (1.1) - *	密 40%	良 ~ 1 mm 長石	粗 B5/1
岡 62 - 147	SK371 土師器 詰	土師器 詰	(10.4) - (1.4) - *	密 30%	良 ~ 2 mm 長石・石断	粗 C
岡 62 - 148	SK371 土師器 詰	土師器 詰	(18.7) - (7.1) - *	密 50%	良 ~ 3 mm 長石・石断	漆付着 粗 C
岡 62 - 149	SK371 土師器 詰	土師器 詰	(17.8) - 3.2 - *	密 40%	良 ~ 3 mm 長石・石断	粗 A
岡 62 - 150	SK371 土師器 詰	土師器 詰	(23.2) - 2.7 - *	密 30%	良 ~ 3 mm 長石・石断・カサリ繊	粗 A
岡 62 - 151	SK371 土師器 詰	土師器 詰	(4.4) - (6.6) - (0.4)	密 微小砂粒	良 淡黄 10Y R 8/3	漆書きあり
岡 62 - 152	SK371 土師器 詰	土師器 詰	* - (4.5) - *	粗 口縁片	良 にじむ黄 2.5Y8/3	粗 A
岡 62 - 153	SK371 土師器 詰	土師器 詰	長 7.4 - 幅 6.3 - 厚 (3.1)	凝灰岩	良 淡白 5Y7/1	粗 C
岡 63 - 154	SK372 土師器 詰	土師器 詰	* - (1.3) - *	やや粗 口縁部片	良 ~ 2 mm 長石・石英・カサリ繊	粗 A
岡 63 - 155	SK372 土師器 詰	土師器 詰	(13.1) - 4.9 - *	粗 25%	良 ~ 2 mm 長石・石断	粗 N8/0
岡 63 - 156	SK372 土師器 詰	土師器 詰	長 (6.1) - 幅 5.0 - 厚 (4.0)	凝灰岩	良 淡白 7.5Y7/1	分脚形
岡 63 - 157	SK384 土師器 詰	土師器 詰	(19.9) - 4.3 - *	密 30%	不具 微小砂粒・雲母・カサリ繊	粗 A
岡 63 - 158	SK384 土師器 詰	土師器 詰	(19.0) - 6.5 - (12.1)	やや粗 60%	良 淡黄 2.5Y8/4	粗 B
岡 63 - 159	SK384 土師器 詰	土師器 詰	* - (2.5) - *	密 30%	良 ~ 1 mm 長石	粗 A
岡 63 - 160	SK384 土師器 詰	土師器 詰	* - (5.6) - *	密 70%	良 ~ 1 mm 長石・石英・黒色粒	粗 NT/0
岡 64 - 161	SP045 土師器 詰	土師器 詰	13.0 - 4.6 - *	やや粗 75%	良 ~ 3 mm 長石・石英・黒色粒	桺 A
岡 65 - 162	SP070 土師器 詰	土師器 詰	* - (8.5) - 4.5	密 05%	良 0.5 ~ 1 mm 長石・・雲母	良 M
岡 65 - 163	SP169 土師器 詰	土師器 詰	* - (2.9) - *	密 60%	良 ~ 1 mm 長石・石英・黒色粒	良 C
岡 66 - 164	SP030 土師器 詰	土師器 詰	(19.6) - 4.1 - *	やや粗 20%	良 0.3 ~ 4 mm 長石・石英・雲母	杯 A

表 6 報告遺物一覧 (5)

標目 写真版面	出土遺構 層位	種別 器種	口径・高さ・底径 (cm) 残存率	胎土・素材	焼成・色調	特記事項
図 66-165	SAO30 段段	土師器 杯	* - (3.0) - (16.0) 20%	やや粗 底部	0.3~2mm長石・石英・カサリ繊 0.3~1mm長石・カサリ繊	良 浅黄褐色 10Y R8/3
図 66-166	SAO30 段方	土師器 組	(9.0) - 1.5 - * 20%	やや粗 粗	0.3~1mm長石・カサリ繊	良 灰白 7.5YR8/2
図 66-167	SAO30 段段	土師器 杯	* - (2.8) - * 10%	やや粗 口縁部片	0.3~1mm長石・カサリ繊	良 灰白 2.5YR8/1
図 66-168	SAO30 段段	土師器 杯	(15.1) - 3.6 - * 10%	密 口縁部片	0.2~1mm長石・石英 0.2~2mm長石・石英	良 灰 N5/0
図 66-169	SAO30 段段	土師器 杯	* - (4.3) - (14.8) 底部	密 底部	0.2~1mm長石・石英 0.2~2mm長石・石英	良 灰 N6/0
図 67-170	SAI145 柱根	木製品 柱根	(65.2) - 25.8 - 27.2			針葉樹
図 67-171	SAI145	木製品 柱根	(60.0) - 20.3 - 17.2			針葉樹
図 68-172	SB005 柱根	土師器 組	(13.9) - 1.9 - * 30%	密 粗	~1mm長石・石英 微少砂粒	不良 灰白 2.5YR8/2
図 69-173	SD002 柱根	土師器 桿	17.2 - 4.3 - * 80%	やや粗 粗	~3mm長石・石英・雲母	不良 浅黄褐色 2.5Y 7/3
図 69-174	SD003 柱根	土師器 桿	(24.0) - (6.4) - * 10%	やや粗 粗	1mm長石・石英	良 相 5YR7/8
図 70-175	SD104 柱根	土師器 杯	* - (2.6) - * 40%	やや粗 口縁部片	微少砂粒・カサリ繊	良 浅黄褐色 10Y R8/3
図 70-176	SD104 柱根	土師器 杯	(19.1) - (3.3) - * 40%	密 口縁部片	微少砂粒・カサリ繊	不良 浅黄褐色 10Y R8/4
図 70-177	SD104 柱根	土師器 杯	* - (5.2) - (13.2) 30%	やや粗 粗	微少砂粒	不良 灰白 2.5YR8/2
図 70-178	SD104 柱根	土師器 杯	20.0 - 2.7 - * 100%	密 粗	~2mm長石・石英	良 灰白 N7/0
図 70-179	SD104 柱根	土師器 杯	(15.6) - 4.1 - * 20%	密 粗	0.2~4mm粒	良 灰白 5YR8/1
図 70-180	SD419 柱根	絹織機器 部品	* - (7.1) - (19.8) 10%	密 粗	1.5mm長石・石英	良 灰白 5YR8/1
図 71-181	SA105 柱根	土師器 桿	(24.0) - 2.2 - * 40%	やや粗 粗	0.2~4mm長石・石英・雲母	不良 灰白 2.5YR8/1
図 72-182	SD004 柱根	土師器 杯	(21.0) - 4.7 - * 10%	やや粗 粗	0.3~2mm長石	良 相 5YR6/6
図 72-183	SD004 柱根	土師器 杯	(23.0) - 2.0 - * 10%	密 粗	~3mm長石・石英	良 灰白 N7/0
図 73-184	SK020 柱根	土師器 桿	* - (2.7) - * 10%	やや粗 口縁部片	0.3~1.5mm長石・石英・雲母	良 明黄色 10YR7/6
図 73-185	SK020 柱根	土師器 桿	(19.0) - (0.9) - * 20%	密 粗	0.2~5mm長石・石英・雲母	良 灰 N5/0
図 73-186	SK138 柱根	土師器 桿	(17.8) - (5.7) - * 10%	やや粗 口縁部片	0.1~1mm長石・石英	良 灰白 5YR7/1
図 73-187	SK138 柱根	土師器 桿	(17.3) - (6.9) - * 15%	やや粗 粗	~2mm長石・石英	良 灰黄 2.5Y7/2
図 73-188	SK138 柱根	土師器 桿	長 (7.8) - 幅 (7.1) - 厚 1.1 95%	やや粗 粗	0.1~5mm長石・石英	良 灰白 2.5Y8/1
図 73-189	SK154 柱根	土師器 桿	29.8 - 3.7 - * 95%	密 粗	微少砂粒	良 灰 N8/0
図 73-190	SK154 柱根	土師器 桿	(29.0) - 20.2 - (16.8) 50%	密 粗	~3mm長石・石英	良 灰 N8/0
図 73-191	SK154 柱根	土師器 桿	* - (20.2) - * 10%	やや粗 口縫・全体部	~2.5mm長石・石英	良 灰白 10YR8/2
図 73-192	SK154 柱根	土師器 桿	(24.0) - (12.8) - * 10%	やや粗 粗	~2.5mm長石・石英・カサリ繊	良 灰白 2.5YR/2
図 73-193	SK154 柱根	土師器 桿	(20.2) - (8.9) - * 10%	粗 粗	~3mm長石・石英・カサリ繊	良 灰白 2.5YR/2
図 75-194	SK258 質灰土	土師器 桿	(13.8) - (2.7) - * 10%	やや粗 口縁部片	0.2~2mm長石・石英・カサリ繊	良 相 5YR6/6
図 75-195	SK258 質灰土	土師器 桿	* - (1.2) - * 10%	やや粗 口縁部片	0.2~2mm長石・石英・雲母	良 灰白 N8/0
図 75-196	SK258 質灰土	土師器 桿	(14.6) - 3.5 - * 30%	密 粗	0.1~2mm長石・石英・雲母	良 灰白 N7/0
図 75-197	SK258 質灰土	土師器 桿	(19.2) - (2.7) - * 15%	密 粗	0.1~3mm長石・石英・雲母	良 灰白 5YR8/1
図 75-198	SK258 質灰土	土師器 桿	* - (3.7) - * 15%	やや粗 粗	~3mm長石・石英・雲母	不良 灰白 5YR8/2
図 75-199	SK258 質灰土	土師器 桿(柱)	長 (12.0) - 幅 5.6 - 厚 5.1 25%	粗 粗	~4mm長石・石英	良 相 7.5YR6/8
図 76-200	SK258 木製品 支柱	木製品 支柱	(27.1) - 幅 3.4 - 厚 1.9			針葉樹
図 76-201	SK274 柱根	土師器 桿	(19.6) - (1.1) - * 25%	密 粗	~1mm長石	良 灰白 N7/0
図 76-202	SK274 柱根	柱根	(8.8) - (0.5) - (3.3)	密 粗	~1.5mm長石・チャート	不良 灰白 N8/0 6348Aa
図 77-203	褐色土 柱根	土師器 桿	* - (2.7) - * 15%	やや粗 粗	~2mm長石・石英	良 灰白 7.5Y7/1
図 77-204	褐色土 柱根	土師器 桿	* - (5.7) - * 15%	密 粗	微少砂粒・雲母	良 暗灰 N3/0

表7 検出遺構および出土遺物一覧 (1)

S-番号	層位	直構造号	種別	出土遺物		南見	地区
				名前	説明		
001			土坑	漆器器皿、土師器皿(中環~)、平瓦		E2 ~ 3	
002		SD002	酒	土師器皿 A・焼、漆器器皿・燒瓦、平瓦		E ~ H3	
003		SD003	酒	土師器皿、製造土器、漆器器皿・燒、平瓦		E ~ G4	
004			孤立柱建物			B2	
005	西方	SB005	孤立柱建物	平瓦(1枚作2枚)		八脚門	A ~ B1 ~ 3
	採取			土師器皿 A・焼・A・杯・瓶 C・粗繩片・裂頭土器、漆器器皿、平瓦・丸瓦		2期	
006	西方	SA030b	孤立柱建物	土師器皿、漆器器皿・燒、丸瓦			B2 ~ 3
	採取			土師器皿・燒、繩片			
007	西方		孤立柱建物	漆器器皿 C			A3
	採取			土師器皿・燒・繩 A・繩片			C3
008			ビット	漆器器皿、平瓦			
009			ビット	土師器皿・繩片		D1	
010		SD010	酒	土師器皿、漆器器皿(剥付着)、平瓦		区画清か?	A3
011			ビット	漆器器皿			A3
012			ビット	土師器皿			B4
013	採取		孤立柱建物	土師器皿、漆器器皿 B・繩・燒・繩、平瓦・丸瓦			B3 ~ 4
014		SK014	土坑	土師器皿(笠形)、染色物(笠形)、漆器器皿、平瓦		苔斑	D ~ E3 ~ 4
015		酒路				坪内酒路	2期
016			ビット	土師器皿、燒、繩 A・繩片			C4
017			ビット	土師器皿片			B4
018	採取	SA030c	孤立柱建物	土師器皿、漆器器皿 B・繩、燒、燒、平瓦、炭化物			B4
019			ビット	土師器皿、漆器器皿			C4
020		SK020	土坑	土師器皿 A・燒・製造土器、漆器器皿 B・繩 C・燒・繩、平瓦、炭化物			B ~ C4 ~ 5
021			ビット	土師器皿片、自然木			B4
022			ビット	土師器皿片			B ~ C4
023			ビット	土師器皿片、漆器器皿			F2
024			月付?	土師器皿・燒、燒土器皿			F1
025			酒	土師器皿、燒、燒土器皿			B4 ~ 6
026			酒	土師器皿			E2
027		SA030a	ビット	漆器器皿、柱根			B1 ~ 2
028			ビット	漆器器皿		樹石あり	A3
029			ビット	土師器皿片			C4
030		SA030	樹根			2期	
031			ビット	土師器皿			B ~ C3 ~ 4
032			ビット	土師器皿			B2
033		SA030a	ビット	土師器皿・繩片、漆器器皿・繩		櫛軸軸用瓦	B5
034	照方		ビット	土師器皿、漆器器皿・繩 A			E5
035	採取	SB035	孤立柱建物	土師器皿			A ~ B5 ~ 6
036	西方		ビット	土師器皿片			D5
	採取			土師器皿・燒、漆器器皿 B			
037			土坑	漆器器皿片			C5 ~ 6
038			土坑	土師器皿片			C6
039			土坑	土師器皿片			C6
040			酒	土師器皿片。漆器器皿、黑色土器皿 A・繩、平瓦			C5 ~ 7
041	採取	SA030m	ビット	土師器皿 A・製造土器、漆器器皿・製造土器、漆器器皿 B・燒、平瓦			B4 ~ 5C
042			ビット	土師器皿・燒、燒土器皿			A4
043			ビット	土師器皿、漆器器皿 B・小型繩、平瓦			B6
044	採取	SA030m	ビット	土師器皿・燒、漆器器皿・燒			B7
045		SP045	ビット	土師器皿 A			C7
046			ビット	土師器皿、漆器器皿			B6
047	西方		ビット	土師器皿 C・燒、漆器器皿、平瓦(燒器の端タキ)			C6
	採取			土師器皿 B・燒、漆器器皿 A・燒、丸瓦、木製品(けい木)			
048			ビット	土師器皿・繩・繩片、漆器器皿 B・燒瓦・燒、平瓦			B7 ~ 8
049			土坑	漆器器皿 A・平瓦			G3 ~ 4
	照方			土師器皿 A・燒、繩片、漆器器皿 A、B、C・繩 A・繩 C、黑色土器皿 A・繩、平瓦			
050	採取	SB050	孤立柱建物	土師器皿 B・繩 B・繩 C・高杯 A・燒 A、漆器器皿 A・B、杯 B・繩 C・燒 A・燒 B、平瓦、漆器器皿 A・B・繩 C・燒 A・燒 B、平瓦、長方形		I期	D ~ H3 ~ 5
051			酒				G ~ H5
052			酒				G ~ H7
053			酒	土師器皿・燒			G ~ H6
054			ビット	土師器皿片			F5
055	褐色土	SE055	井戸	土師器皿 A・B・繩 A・燒 A・燒、土師器皿 ABC・杯 B・繩 C・繩 A・燒・繩		I期	B8 ~ 9
	灰色粘土			土師器皿 A・繩 A・燒 A、自然木			
056			ビット	土師器皿・燒、漆器器皿 A、自然木		057 ~ 056	C6
057			ビット	土師器皿・燒、漆器器皿 A、燒			C6
058			ビット	土師器皿 A・燒 A、燒也器皿			F ~ G7
059			ビット	土師器皿 A・燒、漆器器皿 A・燒、平瓦			F7
060			酒	土師器皿片、漆器器皿 A・燒、燒			C ~ E8
061			ビット	土師器皿片、漆器器皿片			G7
062			酒	漆器器皿			H7
063			月付?	土師器皿 A・燒也器皿、平瓦			H5 ~ 6
064		SD064	酒	土師器皿 A・燒・繩片、漆器器皿 C・燒・繩・輪目口			F6 ~ 7
065			酒	土師器皿 A・燒、漆器器皿 B・燒			D ~ E9
066			酒	漆器器皿			G・H7
067			ビット	土師器皿片			F6
068			土坑	漆器器皿			S.064に切られる
069		SK069	土坑	漆器器皿 B・燒、土師器皿(中環~)、漆器器皿、平瓦			S.051に切られる
070		SP070	ビット	土師器皿・燒、漆器器皿 M、平瓦		I期	G ~ H4 ~ 5
071			ビット	土師器皿、漆器器皿・繩			D8
072			ビット	土師器皿・燒、燒也器皿・燒、平瓦			I7
073			ビット	土師器皿・燒、燒・繩片、漆器器皿、平瓦			A7 ~ 8

表8 棟出遺構および出土遺物一覧 (2)

5-番号	層位	遺構番号	種別	出土遺物	所見	地区
074	層方 板取		溝	土師器杯・盤 C、甌、須底器杯 B 盤・甌、平瓦		D6 ~ 10
075	層方 板取	SB075	掘立柱建物	土師器杯、須底器杯 C、須底器皿 A類	1期	A・B9・10
076			溝	須底器皿 A・甌、須底器皿 B・甌		B ~ E7
077			溝	土師器杯・甌、罐、圓片、須底器皿・甌、平瓦 (楕円の縁タタキ)		B ~ E8
078			ビット	土師器杯・甌・甌、須底器皿 B・甌		B8
079			ビット	土師器皿・須底器皿・甌、平瓦		B・C7・8
080	層方 板取	SA080	櫛列	土師器杯・甌 A・甌、須底器皿 A/B/C・甌、輪・輪切口	1期	G7 ~ 11
			溝	土師器皿・須底器皿		C8 ~ 9
081			ビット	土師器皿片		C9
082			ビット	須底器皿		C9
083			ビット	須底器皿		C9
084			ビット	須底器皿		C9
085		SB085	井戸	土師器皿 A/B・甌 C・甌 B 盘・甌 C・甌 A・高杯、甌 A/B・甌・製塗土器、須底器皿 A/B/C・甌 B 盘 (唇部)・甌 A・甌 C・甌 A・木製品点け木・板材・加工木、平瓦・瓦片・丸瓦片・丸瓦	085→143→123 1期	C・D12
086	板取	SA030h	ビット	土師器皿・甌、須底器皿・甌、輪切口		B7・8
087		SK087	土坑	土師器皿・甌、須底器皿 B/C、土師器皿土蓋 (中世)、青漆碗・平瓦	近世初期	D・E7・8
088		SK088	土坑	須底器皿・甌、土師器皿 (中世～)、唐津碗、平瓦	近世初期	C・D8・9
089			ビット	土師器皿・甌 C、須底器皿		A8・9
090	層方	SA090	櫛列	土師器皿 B・甌、須底器皿・甌、平瓦		A14
	板取	SK091	土坑	土師器皿 B・甌、須底器皿・甌、平瓦		A・B8・9
092			ビット	土師器皿・須底器皿		B9・10
093	層方		ビット	土師器皿 M		
	板取		ビット	須底器皿片		D60→093
094	板取	SA030i	ビット	土師器皿 B・甌、須底器皿 A/B/C・甌・輪切口		C7・8
095	板取	SB095	掘立柱建物	土師器皿・甌、須底器皿	1期	A・B16・17
096	層方	SA030j	ビット	土師器皿片、須底器皿・甌、輪切口		B10
097	層方	SA030k	ビット	土師器皿・甌、須底器皿・甌、須底器皿・平瓦		B10
098			ビット	土師器皿片		B11
099			ビット	土師器皿片、須底器皿・甌・輪 C		B10
100		SB100	掘立柱建物		1期	C~H15・17
101			ビット	土師器皿片		B11
102			土坑	土師器皿		A10・11
103			ビット	土師器皿 B・甌、須底器皿 A・輪切口		A9
104			土坑	土師器皿・甌、須底器皿		B9
105	層方 板取	SA105	櫛列	土師器皿・甌 A・高杯、甌 A・製塗土器、須底器皿 A/B・甌 B 盘・甌 C・甌 C・平瓦・瓦片 (楕円の縁タタキ)	090→105	F~H14
106			ビット	土師器皿片		A・B11
107			ビット	須底器皿片		A11
108			ビット	土師器皿・甌・製塗土器、須底器皿 B 盘・甌、平瓦		B11
109			ビット	土師器皿片		C10
110	砂内 層方 崩上層	SE110	井戸	土師器皿 A/B・甌 A・輪 B・甌 B、須底器皿 B・甌 B 盘・高杯、需入器・甌 C、石・瓦片・丸瓦片・丸瓦・木製品面物、木製品点け木	213→110 1期	E17
111			土坑	土師器皿		A9・10
112			土坑	古式土師器皿・高杯、土師器皿高杯・甌、須底器皿・甌 M、平瓦		A・B12
113			ビット	土師器皿 C・輪片		D9
114			ビット	土師器皿・須底器皿		D10
115		SA115	櫛列		2期	B19・20
116			ビット	土師器皿片		B11
117			ビット	土師器皿 A・平瓦		D10
118			ビット	土師器皿・須底器皿		D11
119			土坑	須底器皿・甌 A・甌		D12
120		SB120	掘立柱建物		1期	A~H20・22
121			ビット	須底器皿・甌		B12
122			ビット	土師器皿片・丸瓦		C12
123		SK123	土坑	土師器皿・甌・製塗土器、須底器皿・甌・輪切口、白磁器 (單足)、青磁	近世初期	D12
124			ビット	土師器皿片		D11
125	砂内 層方	SE125	井戸	木製品面物・板材・自然木	1期	E・F23
126			土坑	土師器皿 A/B・甌 A・輪 B・甌 B・輪切口・土師器皿 (中世～)・平瓦・瓦片	中古世	D・E8
127			ビット	土師器皿・甌、須底器皿・甌 B		D7
128			ビット	土師器皿片・須底器皿片		D78→128
129			ビット	土師器皿片		D9
130		SK130	土坑	土師器皿 B・甌 A/C・高杯・甌 B・須底器皿 E・甌 C・甌 B 盘・甌、木製品点け木	1期	H・I19・20
131			ビット	土師器皿片・須底器皿片		D8
132			ビット	土師器皿片		B9
133			ビット	土師器皿片		D12
134			ビット	土師器皿片・須底器皿片・輪切口・平瓦・木片		A8
135		SB135	掘立柱建物	土師器皿・甌・須底器皿 M・甌	2期	A~H14・22
136			ビット	土師器皿片・輪切口		H9・10
137			ビット	土師器皿片・輪切口		G11
138		SK138	土坑	土師器皿・甌・甌 A・須底器皿 AB・甌 (唇部)・甌・輪 A・平瓦・自然木		H8・9
139			溝			G6~9
140	(SB200)	掘立柱建物	溝	土師器皿・甌・平瓦・加工木		C~H18・22
141			溝			G~H10

表9 検出遺構および出土遺物一覧 (3)

No.-番号	層位	直横番号	種別	出土遺物		南見	地区
				名前	説明		
142			ピット			G10	
143			土坑	土師器杯・皿・壺、須口器杯		123→143	D12
144			ピット	土師器杯B、須口器杯・壺、黒色土器A種、瓦關片		F7	
145	SA145		樹洞			140→145 2期	F18~23
146			ピット	土師器細片		D11	
147			溝	土師器細片、須口器片		A9~10	
148			ピット	土師器細片		F10	
149			ピット	土師器細片		H12	
150	SA150		樹洞			H22~24	
151			溝	土師器杯・皿、須口器杯B・杯B蓋・壺C・壺・壺、平瓦		G+H12	
152			ピット	平瓦		G12	
153			ピット	古式土師器皿			
154	SK154		ピット	須口器杯A・B、須口器杯A・壺B蓋・壺A蓋・壺C、平瓦・丸瓦		A~B14	
155			ピット	須口器片		A~B12	
156			土坑	東方土器高杯、平瓦		C13	
157	我取	SA070n	ピット	土師器杯・皿、須口器皿、平瓦		礫石あり	B13
158			ピット	土師器細片		B13	
159			土坑	古式土師器皿・高杯・壺		A~B12~13	
160			樹洞			B27	
161			ピット	土師器細片		B15	
162			土坑	須口器杯A・壺A・壺C、平瓦・丸瓦		C~D13	
163	SA030m		ピット	土師器細片		B12	
164			ピット	須口器杯		D14	
165	SB165		縄文建物			1期	B~D25~27
166			ピット	土師器皿A		C~D14	
167	棚方	SA105e	ピット	須口器皿、須口器片・壺・壺、平瓦(1枚作り)・丸瓦、竹柵		柱根残る	C14
168	我取		ピット	土師器皿、敦皿・壺・壺片、須口器皿・壺・壺、平瓦		C14	
169	棚方	SP169	ピット	土師器細片		169→192 1期	C14
170	SA170		樹洞			2期	D19~20
171			ピット	土師器皿		B16	
172			ピット	土師器皿・細片		C16	
173			ピット	須口器皿、平瓦		B14~15	
174			ピット	土師器細片		A13	
175			土壙				
176			ピット	土師器細片、須口器皿B・壺片		A13	
177			溝?	土師器細片		C~D16~17	
178	SA105a		ピット	古式土師器高杯・土師器皿C、須口器皿B・壺・壺片		A14	
179			溝?	古式土師器高杯・土師器皿C		B13~14	
180			欠番				
181			ピット	平瓦		C~D17	
182			ピット	土師器細片		D16	
183			土坑	土師器皿C、須口器皿・壺・壺片、平瓦・丸瓦		197の後段?か?	D15
184			ピット	土師器皿		C~D15	
185			欠番				
186			ピット	土師器皿		C15	
187			土坑	土師器皿		A~B13	
188		SB100h	ピット	土師器皿・壺、須口器皿・壺・平瓦・丸瓦		D16	
189		SB100i	ピット	土師器皿C・壺、須口器皿B・壺・壺A・壺・壺・壺		D17	
190			欠番				
191			土坑	土師器皿・細片、須口器皿・壺B		D17~18	
192	SA105b		ピット	須口器皿		192→090	B14
193			ピット	須口器皿		D17	
194	SD194		溝	古式土師器高杯・土師器皿AB・壺A・壺C・壺AC・壺A・壺B蓋・壺A・壺片、須口器皿A・壺B・壺A・壺C・壺B蓋A・壺B・壺C・自然木		2期	B~D16~18
195			欠番				
196			ピット	土師器皿C・壺、須口器皿B・壺・丸瓦		194→196	B~C17
197	我取	SB100e	ピット	土師器皿C・壺・壺片、須口器皿A・B・E・杯B蓋・壺・壺片		C~D15	
198	棚方		土坑				A~B12
199			土坑				E13
200	SB200		縄文建物			1期	D~I19~21
201			土坑	須口器皿			H12~13
202			ピット	土師器皿			H15
203			ピット	土師器皿			H15
204			ピット				H15
205			欠番				
206			ピット				H14
207	棚方	SB100f	ピット	土師器皿A・細片、須口器皿C・壺B(漆器)・杯B(漆器)・杯B蓋・壺・平瓦・軒丸瓦、木製品・貝物			E15
208	我取	SB100e	ピット	土師器皿A・壺片			F15
209	棚方	SB100f	ピット	土師器皿・壺・壺(軒丸瓦)・杯			G15
210			欠番				
211		SB100c	ピット				H15
212		SB100c	ピット	土師器皿・壺・壺片、須口器皿B・壺・丸瓦			H15
213		SB100i	ピット	土師器皿C・壺、須口器皿・壺・壺片			E17
214	我取	SB100k	ピット	土師器皿・細片、須口器皿・壺・壺片			F17
215			欠番				
216	棚方	SB100f	ピット	土師器皿片			F17
217	我取	SB100m	ピット	土師器皿・壺・壺片、須口器皿・壺・壺片・平瓦			G~H17
218	我取	SB100n	ピット	外生土器高杯・壺・土師器皿・壺・壺片・壺・壺片・須口器皿(古墳時代)・須口器皿・杯・壺・壺片・平瓦・炭化材			H17
219			土坑	須口器皿			F~G13~14

表 10 掘出遺構および出土遺物一覧 (4)

S-番号	層位	遺構番号	種別	出土遺物	所見	地区	
220			矢面				
221			土坑	土師器杯 B 直・櫛、須彌器杯直・直・高杯、平直・丸直	E・F13・14		
222			ピット	土師器杯直・櫛、須彌器杯直・直・高杯	E12		
223			ヒット	土師器杯直・櫛、須彌器杯直・直・高杯	G16		
224			ピット	土師器杯直・櫛、須彌器杯直	D14		
225			土坑				
226			ピット	土師器皿片	226-224	D14	
227			ピット	土師器皿・須彌器皿	213-227	E17	
228			ピット	土師器杯・須彌器杯 B 直	G15		
229			ピット	土師器皿・罐	G15		
230	矢面						
231			ピット	土師器皿片	G16		
232			ピット		H14		
233	抜取		ピット	土師器皿片、須彌器皿 B・杯	H14・15		
234			ピット	土師器皿・櫛・杯直・須彌器皿・丸直・棘板	カクランか?	G17	
235	矢面						
236			ピット	土師器皿・櫛、須彌器皿・平瓦	236-091	B8・9	
237			ピット	土師器皿	H16		
238	抜取	SA030 E	ピット	土師器皿・罐・罐・須彌器皿	B11		
239	抜取		土坑	須彌器皿 C・平直	A9・10		
240			矢面				
241			ピット	須彌器皿	241-090-105	F14・15	
242			ピット	土師器皿 C・櫛、須彌器皿 B	B5・6		
243			ピット	土師器皿 A・櫛、須彌器皿	243-217	H17	
244			ピット	土師器皿・櫛、須彌器皿・櫛、平瓦	244-217	G17	
245			大木				
246			ピット	土師器皿片・須彌器皿片	H16		
247			ピット	土師器皿	A・B18		
248			ピット	土師器皿 B	B18		
249	抜取	SB200-6	柱穴	土師器皿組・杯 A-B・櫛、須彌器皿・櫛・焼 C	C18		
250			矢面				
251			ピット	須彌器皿 B	D18		
252			ピット	土師器皿片	D18		
253			ピット	土師器皿	D18		
254	抜取	SA170a	柱穴	須彌器皿片	C・D19		
255			矢面				
256			ピット	土師器皿片	C19		
257	廟方	SB200-15	柱穴	土師器皿片	C20		
258	黄土	SK258	土坑	土師器皿組・杯 E・扁 A・高杯・櫛、須彌器皿 AB・面 C・面 A・杯 B 直・便 C、 平瓦・丸瓦・櫛羽口・木製品点け木	B・D22・25		
259	从跡	SB200-5	柱穴	土師器皿 A・平瓦・木製品点け木	D18		
260			矢面				
261			ピット	土師器皿・櫛、須彌器皿 B・櫛、燒、平瓦、自然木	D19		
262	抜取	SA170b	柱穴	須彌器皿 L	D19		
263	廟方	SA170c	柱穴	土師器皿	D20		
264	抜取	SB200-14	柱穴	土師器皿・櫛・罐・須彌器皿・櫛・須彌器皿・櫛	C・D18・19		
265			矢面				
266	抜取		土坑	土師器皿片・須彌器皿 B 直・櫛・平瓦、罐	B・C22		
267	廟方	SA115d	柱穴	土師器皿片	B20		
268	抜取		柱穴	土師器皿片	269の抜取	B20	
269	廟方	SA115c	柱穴	土師器皿・櫛	B20		
270			矢面				
271	抜取	SA115b	柱穴	平瓦	B19		
272	抜取	SA115a	柱穴	土師器皿組・櫛・焼	B19		
273			酒	土師器皿・燒、須彌器皿	A19		
274		SK274	柱穴	土師器皿・燒、須彌器皿通・杯 B 直 (空茎)・面 A・燒、燒、平瓦・軒瓦	C・D26・27		
275			大木				
276			ピット	土師器皿片・須彌器皿・燒	B22		
277	廟方	SB200-24	柱穴	土師器皿片	C22		
278			ピット	土師器皿	C22		
279	抜取	SB120b	柱穴	土師器皿組・櫛	須彌器皿	279-194-206	B・C22
280			矢面				
281		SB200h	柱穴	土師器皿・燒・土圓・須彌器皿・燒、平直・丸直	281-261	D19	
282	抜取	SB120c	柱穴	土師器皿・燒 A・燒、須彌器皿・燒 L・燒、平瓦	282-194	B・C20	
283	廟方	SB200g	柱穴	土師器皿・燒 B・燒 A・燒 B・燒、須彌器皿 B・燒 A-C・燒繩片、平瓦	D ~ E19		
284			ピット	土師器皿 A・平瓦	D21		
285			矢面				
286			土師器皿片	平瓦	D26・27		
287			燒		D25・26		
288		SB165g	ピット		C26		
289	廟方	SB200j	柱穴	土師器皿・櫛片・須彌器皿組・杯 B・杯 直、平瓦、加工木	D21		
290			矢面				
291			矢面				
292			矢面				
293			矢面				
294			矢面				
295			矢面				
296			矢面				
297			矢面				
298			矢面				
299			矢面				
300			矢面				

表 11 検出遺構および出土遺物一覧 (5)

No.	層位	直標番号	種別	出土遺物		南見	地区
				名前	説明		
301	側方 採取	SB200k	柱穴	土師器組 A、須恵器杯 A-B・鉢 C・瓶、平瓦。木製品点日本		E21	
302	側方 採取	SB165e	柱穴	土師器組、須恵器組、平瓦		E25	
303	側方 採取		窓	土師器組		E24 → 26	E25
304		SB165d	ビット	土師器組			
305			欠番				
306			ビット	土師器組 A		B25	
307			窓			B25	
308	側方 採取		柱穴	土師器組 C・甕		B23	
309	側方 採取		柱穴	土師器組 D、須恵器杯 B		B24	
310			欠番				
311			窓			B24	
312			ビット	土師器組、須恵器杯 A		D23	
313	側方 採取	SB135b	柱穴	土師器組		B21	
314			ビット	土師器組		B21	
315			欠番				
316			柱穴	平瓦		B21	
317			ビット	土師器組 D、須恵器組		B19	
318			ビット			B19	
319	側方 採取	SB120b	柱穴	土師器組、須恵器組組 土師器組 C、平瓦	319→194	B・C21	
320			欠番				
321			ビット	土師器組		B22	
322	側方 採取	SB200-4	ビット	須恵器組		F18	
323	側方 採取		柱穴	平瓦		H18	
324	側方 採取	SB200a	柱穴	土師器組 A・甕・繩引、須恵器杯 E・杯生・皿 C・甕 B・平瓦、瓦片		H・H19	
325			欠番				
326	側方 採取	SB200d	柱穴	土師器組、須恵器杯 A・甕・甕 B 土師器組 C・皿 A・甕、須恵器杯組、甕・甕・繩引、平瓦		H19	
327	側方 採取	SB200-2	ビット	土師器組 C、須恵器組		H18	
328			ビット	須恵器組 C、甕・繩引		H18	
329	側方 採取	SB200f	柱穴	土師器組 E・甕、須恵器組 C・甕 E・杯 B 組 土師器組、須恵器組 B 直・甕・平瓦		F21	
330			欠番				
331	側方 採取	SB200c	柱穴	土師器組 A、須恵器杯 A・杯 B 組・甕・甕・平瓦、瓦片 土師器組	331→351	H21	
332	側方 採取	SB200a	柱穴	土師器組 A・甕・平瓦 土師器組 C・甕、須恵器杯組		I21	
333	側方 採取	SB200f	柱穴	土師器組 C・甕、須恵器組 B 直・甕・甕		F19	
334	側方 採取	SB200-13	柱穴	土師器組 C・甕、須恵器組 A・甕片		E20	
335			欠番				
336	側方 採取	SB200-11	柱穴	土師器組 C、須恵器組 B 組		G20	
337			柱穴	土師器組 C・甕、須恵器組 A		H20	
338	採取	SB200-17	柱穴	土師器組、須恵器組・甕・甕 K		G22	
339	採取	SB200-19	柱穴	須恵器組・甕・甕		E22	
340			欠番				
341	側方 採取	SB200-12	柱穴	土師器組 土師器組 C・甕、須恵器組 B 直・甕・甕・平瓦		F20	
342	側方 採取	SB200m	柱穴	土師器組 A・高杯、須恵器組 B 直・甕・甕	342→347	G21	
343		SA145a	柱穴	土師器組		F18	
344			柱穴	土師器組		D24	
345			欠番				
346			ビット	土師器組		H20	
347			窓	土師器組、須恵器組 C・平瓦		F・G20 → 29	
348		SA145e	柱穴	土師器組 D、須恵器組 C・柱組		F22	
349			窓	土師器組・甕片、須恵器組 B 直・甕片		E → I24	
350			欠番				
351			窓	土師器組		H21 → 24	
352			柱穴	土師器組、須恵器組・甕		G・H22	
353	採取	SB200-16	ビット	土師器組、須恵器組・甕		H22	
354			窓	土師器組		G・H23	
355			欠番				
356			柱穴	土師器組 C、須恵器組 C・瓦片		G・H24	
357	採取		ビット	土師器組 B・須恵器組		H24	
358			ビット	土師器組		H・I23	
359	採取		ビット	土師器組、須恵器組		H22	
360			欠番				
361			窓			H・I23・24	
362	側方 採取	SB200e	柱穴	土師器組 A・繩引、須恵器組 B・杯 B 直・甕 A・繩引・平瓦 土師器組 A・須恵器組 B・平瓦		G19	
363			柱穴	須恵器組・瓦片(古奈)・平瓦		カクラン	E・F26・27
364		SK364	土坑	弥生土器組・土師器組 A・甕・高杯・甕、須恵器組 AB・甕(付石)、甕	382→366→364 1期	F・G26・27 骨堆土か? 306・372・382→364→363 1期	
365			欠番				
366		SK366	土坑	弥生土器組・土師器組 A・甕 C・高杯・甕、須恵器組 AB・甕(付石)、甕	382→366→364 1期	F → H26・27	
367			柱穴	土師器組、須恵器組・甕		H・I27	
368			ビット	土師器組、須恵器組・甕・甕		I27	
369			柱穴	弥生土器組・土師器組・須恵器組・瓦片		G・H25	

表 12 案出遺構および出土遺物一覧 (6)

5-番号	層位	遺構番号	種別	出土遺物	所見	地区
370			欠番			
371		SK371	土坑	土師器杯皿・杯B・碗A・皿A・瓶A・須口器・杯B 盆(板円盤) 皿A・盆A・甕(転用板)、滑灰石・砾石・平瓦・收斂。木製品古材木・不明木材・自然木、炭	転用板多い。木炭多い。371→382	F25
372		SK372	土坑	土師器皿・罐片、須口器皿A・皿・杯B 盆、砾石・輪印口・收斂。炭、木製品古材木	須口器に漆・撥付着するものあり。炭・木製品古材木多く出土。1期	E・F25・26
373			土坑			H26
374			土坑	赤生土器皿、土師器皿		G・H25・26
375			欠番			
376			ピット	須口器皿		H26
377			土坑	土師器皿片・平瓦		I26・27
378			土坑			H26
379			土坑			G25
380			欠番			
381			ピット	土師器皿片、須口器皿		E25
382			土坑	土師器皿、須口器皿・皿・杯B・自然木、炭	整地か?	F・G25・26
383			欠番			
384		SK384	土坑	土師器皿A・皿A・甕、須口器皿B・平盤・平瓦	1期	I27
385			欠番			
386			柱穴			B21
387		SB135a	柱穴			B21
388		SB135c	柱穴			B22
389		SB135d	柱穴			B22
390			欠番			
391			柱穴			B22
392		SB165f	柱穴			B26
393			柱穴		396→393	B27
394			柱穴			B27
395			欠番			
396			柱穴			B27
397	拔取	SB200	柱穴	土師器皿・甕、須口器皿B・盆・盆B・甕、瓦礫片		D20
398	掘方	SB120d	柱穴	土師器皿片		B20
399	拔取	SB120e	柱穴	土師器皿?		B22
400			欠番			
401		SB200-3	柱穴			G18
402	指吹	SB200-20	柱穴	土師器皿片		D22
403		SB200-18	柱穴		403→348	F22
404		SA145d	柱穴			F21
405			欠番			
406	掘方		柱穴	土師器皿片		F20
407		SA145b	柱穴			F19
408			ピット	土師器皿片	408→382→306	G26・27
409		SA145f	柱穴	柱板		F23
410			欠番			
411		SA145g	柱穴			F23
412			柱穴			H22
413			柱穴	柱板		H22・F3
414			柱穴			H23
415			欠番			
416			ピット	須口器皿	416→349	G24
417			ピット	土師器皿片		H24
418			溝			H+I23・24
419		SD419	溝	土師器皿片、須口器皿、縁鉢陶器皿、平瓦	1期	H9~21
420			欠番			
421			ピット	土師器皿		H20
422	掘方	SB200-10	柱穴	土師器皿・甕、須口器皿		H20
423	拔取	SB165c	柱穴			D25
424		SB165h	柱穴			D25
425			欠番			
426		SB165h	柱穴			D26
427		SB165a	柱穴			D26
428			柱穴			D27
429		SA145c	柱穴			F20
430			欠番			
431			ピット			E23
432			ピット			F・G24・25
433			ピット			G・H24・25
434		SA145h	ピット			F24
435			欠番			
436			ピット			E23
437			柱穴			B23
438			ピット	土師器皿陶器皿		D22
439			圓窓	土師器皿		A~H1~27
褐色土				土師器皿・甕・高杯・甕・製塙土器、須口器皿A・B・皿C・杯B・盆・皿A・盆・水瓶、甕・土師器皿(12型)、唐揚系須口器皿、黒色土器A・甕、瓦器・盆、瓦質土器、土師器皿、平瓦・丸瓦、木製點穴竹木・自然木、スラグ		
素面溝				土師器皿・甕・甕・製塙土器、須口器皿・甕・盆・糞盆・甕・渠口甕・皿・圓窓		
表土				向日桜・土器、瓦質土器深井、平瓦、タイル		

写真図版

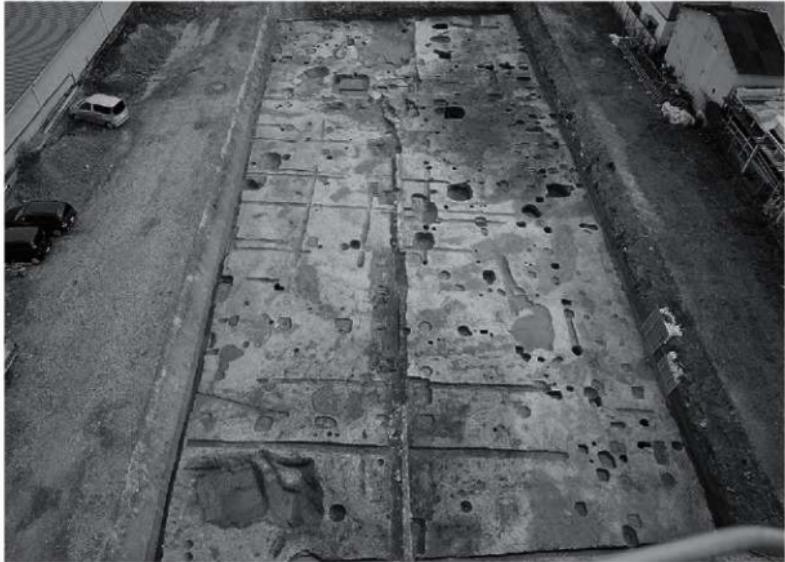
※遺物写真的番号は報告番号に対応

図版1



調査区全景（上が北：北半写真と南半写真を合成）

図版 2



調査区北半全景（北から）



調査区南半全景（南から）

図版 3



SB100 全景（東から）



SB100 f 遺物出土状況および土層断面（南から）

図版 4



SB200 全景（東から）



SE055 下層遺物出土状況（北から）

図版 5



SE085 上層戸枠検出状況（西から）



SE085 断ち割り断面（東から）

図版 6



SE110 土層断面（南から）



SE110 断ち割り断面（南から）

図版 7



SE110 下層遺物出土状況（南から）



SE125 井戸枠検出状況（南から）

図版 8



SE125 井戸枠下部曲物検出状況（南から）



SP045 遺物出土状況（南から）

図版 9



SP070 遺物出土状況（南から）



SA145 e 柱根出土状況（東から）

図版 10

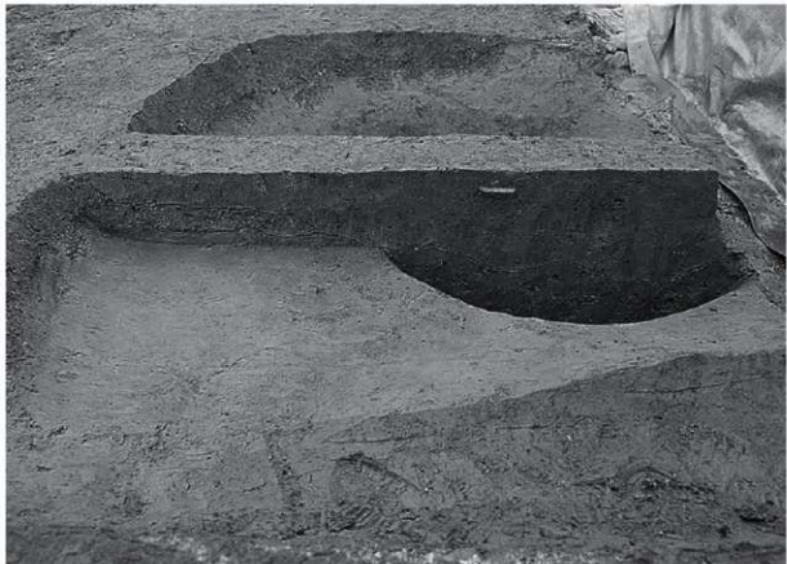


SA145 f 柱根出土状況（東から）



SD003 (SF015 南側溝) 遺物出土状況（北から）

図版 11



SK138 土層断面 (南から)



SK258 土層断面 (南東から)

図版 12



SK274 土層断面（東から）

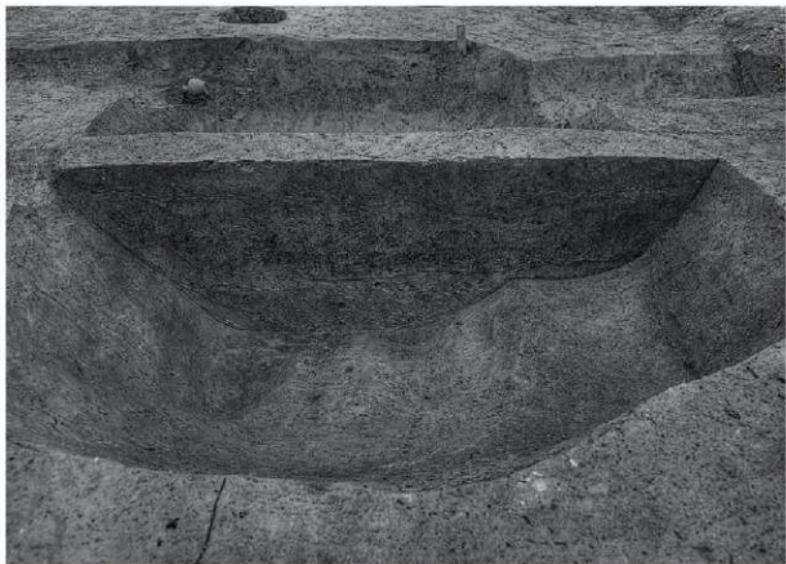


SK274 実掘（北西から）

図版 13

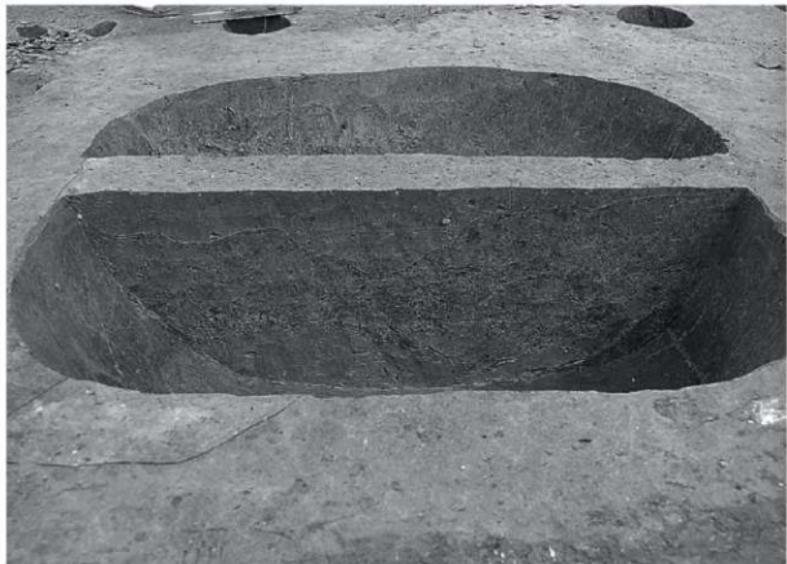


SK069 土層断面（南から）



SK087 土層断面（南から）

図版 14



SK088 土層断面（南から）



東側拡張区（南から）

図版 15

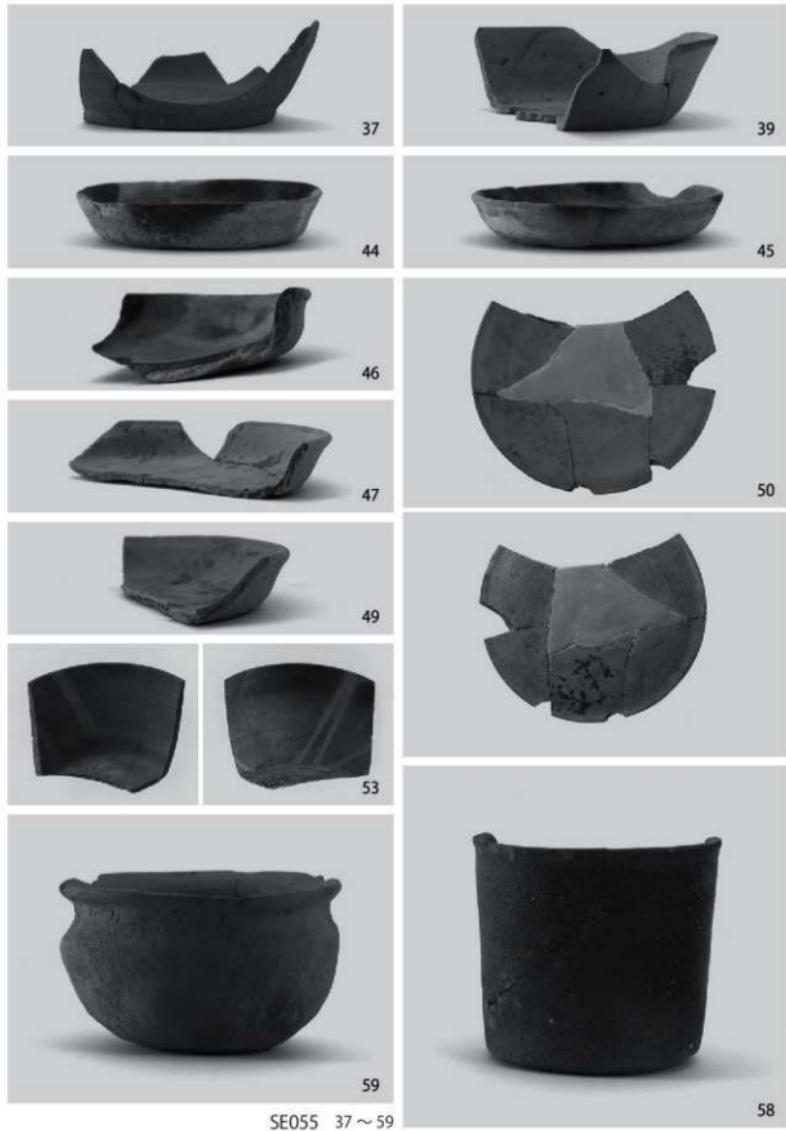


SB100 10 ~ 14



SB200 20 ~ 30

図版 16



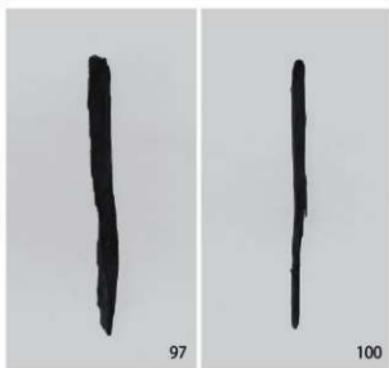
図版 17



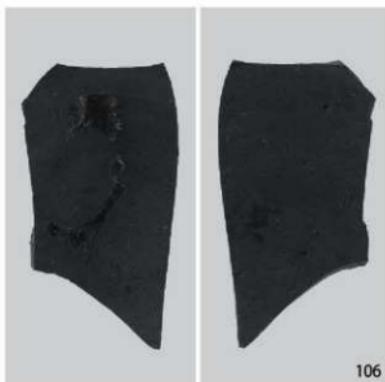
図版 18



SE085 63 ~ 100



図版 19



図版 20



SE110 104 ~ 121



SE125 126 ~ 134



SK130 136 • 139

図版 21



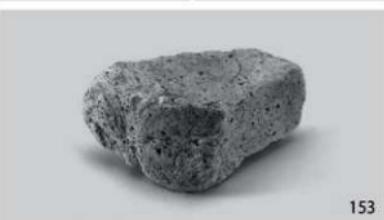
148



152



151



153

SK371 148 ~ 153



155



156



158



161

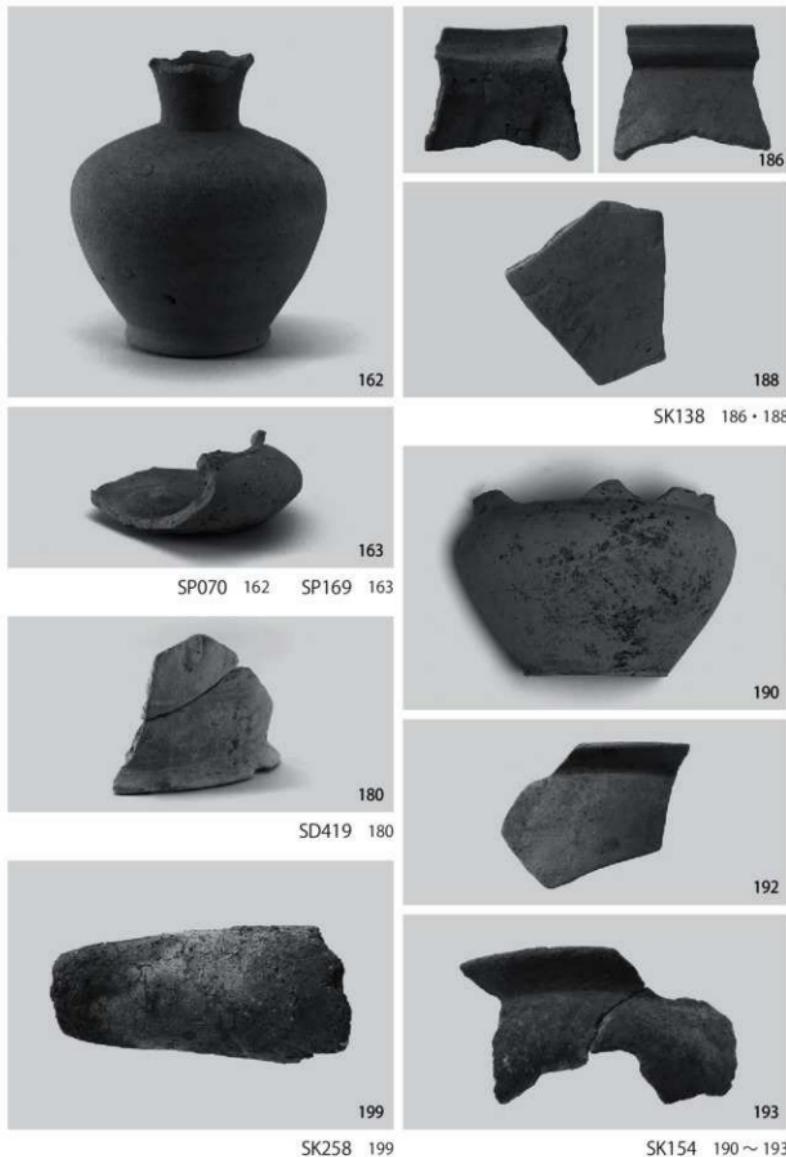


160

SK384 158 • 160

SP045 161

図版 22



報告書抄録

平城京左京四条二坊九坪（田村第跡）

—平成 19 年度発掘調査報告書—

2009.3.31

（発行・編集）財団法人元興寺文化財研究所

（印 刷）共同精版印刷株式会社